今小路西遺跡（№201）

由比ガ浜一丁目157番7外地点

例　　言

1．本報は「今小路西遺跡」内、由比ガ浜一丁目157番７外における埋蔵文化財発掘調査報告である。

2．調査期間　2005年10月31日～2006年1月18日

　調査面積　63.75㎡

3．本調査地点の略称はINY1157とした。

4．調査体制

　担　当　者　馬淵和雄

　調　査　員　松原康子・鍛治屋勝二・松葉崇・根本志保（資料整理）・沖元道（資料整理）

　調査補助員　岩崎卓治（資料整理）

　作　業　員　小口照男・藤枝正義・堀住稔・沼上三代治（社団法人鎌倉シルバー人材センター）

5．本報作成分担

　遺構図整理　沖元

　遺物実測　　松原・根本・岩崎

　同墨入れ　　松原・根本・岩崎

　同観察表　　松原

　原稿執筆　　馬淵・沖元・根本（担当部分末尾に執筆者名を記す）

　編集・総括　馬淵

目　次

本　文　目　次

第一章　調査地点概観…… 90

1．位置と地勢 …… 90
2．歴史的環境 …… 96
3．周辺の遺跡 …… 100

第二章　調査の概要…… 102

1．調査にいたる経緯 …… 102
2．調査方法 …… 102
3．調査経過 …… 102

第三章　調査結果…… 104

第１節　概略 …… 104
1．層序と面の概要 …… 104
2．調査区壁面からの出土遺物 …… 109
第２節　各説 …… 109
1．Ⅰa面上層 …… 109
2．Ⅰa面 …… 109
3．Ⅰb面 …… 120
4．Ⅱ面 …… 129
5．Ⅲa面 …… 132
6．Ⅲb面 …… 133
7．Ⅲc面 …… 136
8．Ⅳ面 …… 136
9．中世以前・採集遺物 …… 138

第四章　まとめと考察…… 148

1．東側隣地との関係 …… 148
2．遺構の変遷と年代 …… 148
3．東西溝の変遷 …… 152
4．まとめ …… 152

挿　図　目　次

図１　調査地点と周辺の遺跡・旧跡 …… 92
図２　明治15年頃の鎌倉と近代の地形 …… 97
図３　近世の絵図に見る調査地点 …… 99
図４　調査区設定図 …… 103
図５　調査区土層図、調査区壁出土遺物 …… 106
図６　Ⅰa面上層 溝１ …… 110
図７　溝１・同裏込め出土遺物 …… 111
図８　Ⅰa面遺構全図、Ⅰa面出土遺物（１）… 112
図９　Ⅰa面出土遺物（２）…… 113
図10　Ⅰa面出土遺物（３）…… 114
図11　Ⅰa面建物１･2、土坑７、同出土遺物 … 115
図12　Ⅰa面柱穴列１･２、柱穴列1出土遺物 … 116
図13　Ⅰa面土坑１、同出土遺物 …… 117
図14　Ⅰa面方形土坑1･2、Ⅰ方面小穴出土遺物 … 118

図15 Ⅰb面遺構全図、同出土遺物・
土師器片地形出土遺物 …… 119
図16 Ⅰb面溝1b、同出土遺物 …… 120
図17 Ⅰb面溝2、同出土遺物 …… 121
図18 Ⅰb面建物3～5、柱穴列3、
同出土遺物 …… 122
図19 土坑2～6、同出土遺物、
Ⅰb面小穴出土遺物 …… 124
図20 Ⅱ面遺構全図、溝6、Ⅱ面出土遺物 … 125
図21 Ⅱ面溝3、建物6 …… 126
図22 溝3・P79出土遺物 …… 127
図23 Ⅲa面遺構全図、Ⅲa面出土遺物、
溝7、同出土遺物 …… 128
図24 建物7、Ⅲa面小穴出土遺物 …… 129
図25 Ⅲb面遺構全図、同出土遺物 …… 130
図26 Ⅲb面溝4、同出土遺物 …… 131
図27 溝4出土遺物（2）、溝5、溝状遺構 … 132
図28 Ⅲb面建物8、同出土遺物 …… 134
図29 建物9、土坑10・11・P178、
Ⅲ9面小穴出土遺物 …… 135
図30 Ⅲc面遺構全図、Ⅲc面出土遺物・
柱穴列4 …… 136
図31 Ⅳ面遺構全図、溝8、2区最終深掘り … 137
図32 中世以前・遺構外採集遺物 …… 138
図33 遺構変遷図 …… 149
図34 断面から見た溝の変遷 …… 150
図35 東側隣地調査区と本調査区 …… 151

表　目　次

表1 溝4貝類出土表 …… 133
表2 出土遺物観察表（1）…… 139
表3 出土遺物観察表（2）…… 140
表4 出土遺物観察表（3）…… 141
表5 出土遺物観察表（4）…… 142
表6 出土遺物観察表（5）…… 143
表7 出土遺物観察表（6）…… 144
表8 出土遺物観察表（7）…… 145
表9 出土遺物観察表（8）…… 146
表10 出土遺物計量表 …… 147

図　版　目　次

図版1 …… 153
1－1 塔ノ辻から今小路を望む
1－2 塔ノ辻から大町大路西半を望む
1－3 大町大路西端部を東から望む
1－4 大町大路を西端近くから望む
図版2 …… 154
2－1 Ⅰa面1区全景（南から）
2－2 Ⅰa面1区全景（西から）
2－3 Ⅰa面上層1区溝1
図版3 …… 155
3－1 Ⅰa面2区全景（南から）
3－2 Ⅰa面2区全景（西から）
3－3 Ⅰa面2区柱穴列1（南から）
3－4 Ⅰa面2区柱穴列1（西から）
図版4 …… 156
4－1 Ⅰa面2区土坑7（西から）
4－2 Ⅰa面2区小穴152・153
4－3 Ⅰa面1区土坑1（東から）
4－4 土坑1青白磁梅瓶（図13－14）
出土状況（北から）
図版5 …… 157
5－1 Ⅰb面1区全景（南から）
5－2 Ⅰb面1区全景（西から）
5－3 Ⅰb面2区全景（南から）
5－4 Ⅰb面2区全景（西から）
図版6 …… 158
6－1 Ⅰb面1区溝2（東から）
6－2 Ⅰb面1区土師器片地形（南から）
6－3 Ⅰb面1区土坑5・6（西から）
6－4 Ⅰb面1区土坑3（西から）

図版７…… 159
７－１　Ⅰｂ面２区溝２（西から）
７－２　Ⅰｂ面２区溝１ｂ（西から）
７－３　Ⅰｂ面２区溝２土層断面（東から）
図版８…… 160
８－１　Ⅱ面１区全景（南から）
８－２　Ⅱ面１区全景（西から）
８－３　Ⅱ面２区全景（南から）
８－４　Ⅱ面２区全景（西から）
８－５　Ⅱ面２区（溝掘削後・西から）
図版９…… 161
９－１　Ⅱ面１区溝３（東から）
９－２　Ⅱ面２区溝３（西から）
９－３　Ⅱ面２区溝３貝殻集中出土の状況（北から）
図版10 …… 162
10－１　Ⅲａ面２区全景（南から）
10－２　Ⅲａ面２区全景（西から）
10－３　Ⅲａ面２区小穴172・175（東から）
10－４　調査風景
図版11 …… 163
11－１　Ⅲｂ面１区全景（南から）
11－２　Ⅲｂ面１区全景（西から）
11－３　Ⅲｂ面２区全景（南から）
11－４　Ⅲｂ面２区全景（西から）
図版12 …… 164
12－１　Ⅲｂ面１区溝５側板出土状況（南から）
12－２　Ⅲｂ面２区溝４（西から）
12－３　Ⅲｂ面２区小穴177
12－４　Ⅲｂ面２区下駄出土状況（南から）
12－５　Ⅲｂ面２区小穴12周辺出土状況
図版13 …… 165
13－１　Ⅲｃ面２区全景（南から）
13－２　Ⅲｃ面２区全景（西から）
図版14 …… 166
14－１　Ⅳ面２区全景（南から）
14－２　Ⅳ面２区全景（西から）
14－３　最終深掘り・南壁際（東から）
14－４　最終深掘り・中央（東から）
14－５　最終深掘り・西壁際（南から）
図版15 …… 167
15－１　１区西壁土層断面
15－２　１区西壁溝土層断面
図版16 …… 168
16－１　２区西壁土層断面
16－２　２区西壁溝土層断面
図版17 …… 169
17－１　１区南壁土層断面
17－２　２区南壁土層断面
図版18 …… 170
出土遺物１
図版19 …… 171
出土遺物２
図版20 …… 172
出土遺物３
図版21 …… 173
出土遺物４
図版22 …… 174
出土遺物５
図版23 …… 175
出土遺物６
図版24 …… 176
出土遺物７

第一章　調査地点概観

１．位置と地勢

佐助ヶ谷と佐助川

鎌倉駅から西へ300ｍ程の所に位置する源氏山から南に延びる丘陵を西に越えると、南北に長い佐助ヶ谷と呼ばれる谷戸がある。この佐助ヶ谷は開口部幅400ｍ、奥行き900ｍほどの主谷と多くの小支谷で構成され、中央を佐助川が流れる。現在佐助川は谷戸の開口部付近から東流して、鎌倉の沖積地と砂丘が接する下馬のあたりで滑川に合流している。

佐助川と思われる中世期の河川跡が調査地点から北東に140ｍの地点17で検出されており調査区の北端付近を東西方向に流れる。12世紀末から13世紀初頭にあたる鎌倉時代初期河川は自然流路で蛇行気味であり、13世紀前葉から中頃の後期河川は護岸が設けられ流路もさらに北に移され直線的である。15世紀代には調査区内に河川は見られなくなるので現在の位置の近くに流路を移動した可能性が高い。調査地点より東に90ｍに位置する地点８では調査区北側で東西に延びる古墳後期の自然流路の検出がある。中世期の面では検出がないので現在の位置の近くに移動した可能性が高い。調査地点から北東に320ｍの地点41では未報告のため詳細は明らかではないが中世期の遺構群の他に佐助川の可能性のある堆積層が検出されている。調査地点より北西に180ｍの谷の入り口付近に位置する地点191では、調査区東端拡張トレンチで中世期の佐助川西岸の落ち込みの検出がある。更に谷奥へ向かった調査地点から北西に280ｍのところに位置する地点187で佐助川と思われる河川跡が南北の方向で検出されている。２～３時期の変遷が推測されているが、年代の比定は出土遺物の磨耗によりできていない。

調査地点は由比ガ浜一丁目157番７外に所在し、鎌倉駅西口から南西に550ｍのところで、谷の開口部付近で佐助川が東流し、そこから70ｍ先の佐助川右岸、南に50ｍの所に位置する。地表面9.65ｍの海抜高である。調査地点の周辺は住宅地であり佐助川も付近では暗渠になっているため平坦である。上本進二による「中世鎌倉の地形復元図」では調査地点は砂丘後背地（旧砂丘）とされている。周辺は砂質低湿地、谷底平野等、一見平坦地でも複雑な地勢をなしている。

天狗堂と飢渇畠

遺跡の北側丘陵部には「天狗堂」があったとされる。『新編鎌倉誌』によれば佐助ヶ谷の東側の丘陵南端付近にはかつて愛宕神社があったと伝えられ、その後天狗堂とされたという。『太平記』では元弘三年（1333）五月の新田義貞による鎌倉攻めのくだりで、この地が「天狗堂」であったとされている。『新編相模国風土記』には佐助ヶ谷の字に「天狗堂」と記される。また、調査地点から北東に270ｍの所に「裁許橋」があり『新編鎌倉誌』では裁許橋の南の路端に「飢渇畠（けがちばたけ）」とされる場所があったとする。いわく、昔から刑罰の場所で今も罪人をさらし「斬戮」する地であるため耕作せずその名が付いたとする。その由来として現在、裁許橋を南に300ｍほど南下した所に六地蔵が残る。

六地蔵脇の地点29では近世の墓域が検出されている。埋葬人骨は24体を数え、遊離した骨も７・８体分ありそれらを含めると30体を数える。帰属年代は1780年以降19世紀代が充てられ、報告者は寺院に帰属しない共同墓地―村墓（市墓）もしくは限られた親族の氏墓として、「飢渇畠」の伝承が「六地蔵」の設置に結びついたとしている。つまり本来は通常の墓域であった当地に縁者等が途絶えて後、刑場跡との誤認が伝承されたと推察している（清水1995）。注目したいのは、1685年に刊行された『新編 鎌倉誌』が「飢渇畠」の項で「今も罪人をさらし」と記載しているところである。地点29の墓域の帰属年代は1780年以降が充てられている。近世に裁許橋から六地蔵にかけての一帯は、どこかで区切られるとしても刑場と墓域である様相を示す。しかし中世では地点29を含め周辺の遺跡は竪穴建物が多く検出され倉庫群が立ち

並ぶ様相を示す。

大町大路と「塔ノ辻」

調査地点の北40mを東西に走行する街路は、鎌倉市中の東西を端から端まで通じる唯一の道であり、これが鎌倉時代の「大町大路」である可能性がある。現況では若宮大路西脇でビルに寸断されて実感しにくくなっているが、往時、東は名越の山裾（現安国論寺門前）から西は笹目の山裾（現御成中学）まで通じていた。この道は調査地点の東250mで今小路と直交し、一帯には「塔ノ辻」の地名が残っている。

『新編鎌倉誌』には「笹目ヶ谷の東南道端に二箇所石塔有」と載る。大三輪龍彦は中世の都市計画的構想としては方眼的町割が存在したのではないかとして、市域を方眼に割りその四隅にあたる場所に「辻」の名が残ることを指摘し「辻」は鎌倉外部に通じる主要道の出発点であり、方眼内を中枢部とし、外部とをつなぐ役割が成り立つのではないかとしている（大三輪1989）。その方眼もしくは境界を意識するならばこの地の「塔ノ辻」は、南西隅のそれに相当しよう。

甘縄と「今小路」

調査地点一帯は中世期から「甘縄」の範囲とされる。『吾妻鏡』建長三年二月十日条に「甘縄辺燃亡」の記載があり、甘縄が「東若宮大路、南由比浜、北中下馬橋、西笹目ヶ谷」の中に含まれていたことがわかる。中下馬橋は二ノ鳥居のあたりであり、調査地点を含む。

調査地点から東に220ｍのところに、南北に延びる、現在「今小路」と呼ばれる鎌倉の主要道がある。この道は若宮大路を中心に小町大路とほぼ対照的な線をたどっているため中世都市の大路造成時のものと考えるのが自然である。「今小路」の史料による初見は、弘安七年（1284）八月十六日の「大井頼郷譲状」である。史料には、大井氏代々相伝の屋敷として「鎌倉之地一所いまこうち」という文言が確認できる。「いまこうち」は「今小路」であり、弘安年間にはこの名の小路が存在していたという資料である。しかし、それが現在の「今小路」と同じ道を指すかどうかは確証がない。貞享二年（1685）成立の『新編鎌倉誌』は、「今小路」を寿福寺前から南、長谷までの間をいうとする。17世紀後半には現在と変わらぬ形で存在していたことになる。

「若宮大路」「小町大路」など他の道が「大路」であるのに対し「今小路」が「小路」と呼ばれることはあまり意味を成さないようである。「大路」とは『吾妻鏡』だけが記載し、他の文献ではたいがい「小路」である。『吾妻鏡』では幕府や鎌倉の町を実体以上に書き記そうと努力した結果であろうと石井進は言い、一方「小路」の名は「辻子」と書き、「厨子」・「づし」とも書くので「辻」とは違う。「辻子」の名は多く、「大路」が本来すべて小路であったとすると、小路よりさらに小さい通路のことは「辻子」と書いたのではないかという（石井1989）。

また扇ヶ谷辺からの道を「武蔵大路」ともいい、現在の「今小路」を「武蔵大路」とみる見方もある。『吾妻鏡』などの文献では「武蔵大路」は養和元年（1181）九月一六日条が初見でありしばしばその名は見られる。『吾妻鏡』の仁治二年(1241)十月二二日条、文永三年（1266）七月四日条等では「亀ヶ谷」「気和飛坂（化粧坂）」などの地名とともにも見られ、それらを総合的にみると「武蔵大路」は鶴岡八幡宮赤橋前から西に亀ヶ谷を通り、化粧坂を経て深沢を通過して武蔵に向かう道であった可能性があり、とすれば鎌倉と武蔵とを結ぶ重要な交通路であったと考えられる。「武蔵大路」は、「今小路」を意識し寿福寺を基点にするならばそれより北を示すのではないか。

（根本）

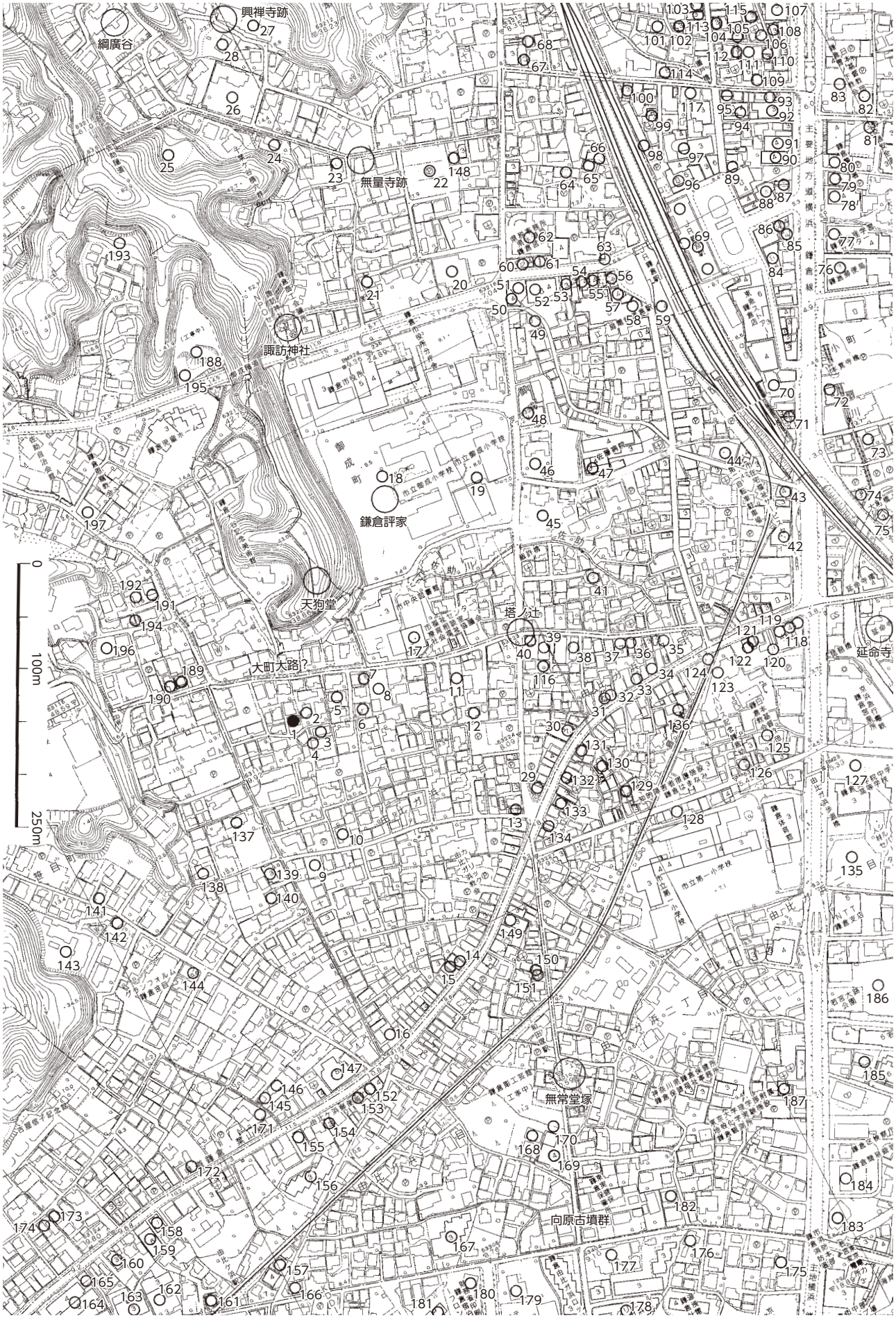


図１　調査地点と周辺の遺跡・旧跡

今小路西遺跡（NO.201）　1．本調査地点　2．由比ガ浜一丁目151-1(2007熊谷)2009「鎌倉の埋蔵文化財」12鎌倉市教育委員会3．由比ガ浜一丁目147-2(2007原) 4．由比ガ浜一丁目147-1(2007斉木) 5．由比ガ浜一丁目148-11（1983赤星）1983赤星『発掘調査概要』鎌倉市由比ガ浜一丁目148-11所在遺跡発掘調査団6．由比ガ浜一丁目148-5(2001宮田)宮田ほか『市緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会7．由比ガ浜一丁目148-1(2000野本)2002野本『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会8．由比ガ浜一丁目141-5(2006小林義典)2007香川『第17回鎌倉市遺跡調査研究発表会　発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会9．由比ガ浜一丁目197-2(2006瀬田)2007瀬田『今小路西遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉調査会10.由比ガ浜一丁目165-2(2008齋木)由比ガ浜一丁目136-1(2008宮田)12.由比ガ浜一丁目134-4(2008伊丹)13.由比ガ浜一丁目183-1(2000汐見)2002汐見『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会14.由比ガ浜一丁目213-3(1991宗台)1993宗台『今小路西遺跡』今小路西遺跡発掘調査団15.由比ガ浜一丁目213-12(2007熊谷)16.由比ガ浜一丁目211-18・19（2009熊谷）17.御成町625-2(1989河野)1989河野ほか『今小路西遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会18.御成町625-3(1984・1985河野)1990河野ほか『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会19.御成町625-3(1991河野)1993河野『今小路西遺跡（御成小学校内）第5次発掘調査概報』鎌倉市教育委員会20.御成町15-5(1980手塚)1982手塚ほか『千葉地遺跡』千葉地遺跡発掘調査団21.御成町200-2(2003原)2006原ほか『市緊急調査報告書』22鎌倉市教育委員会22.御成町171-1(2006.2007菊川)2008菊川『今小路西遺跡（NO.201）発掘調査報告書』㈱斉藤建設23.御成町25-1(2002宮田)2003森ほか『今小路西遺跡発掘調査報告書』今小路西遺跡発掘調査団24.御成町39-6　148.御成町176-7(2006宮田)

鎌倉城（NO.87） 25.御成町39-36(2005菊川)2006菊川『鎌倉城（NO.87）発掘調査報告書』㈱博通　(2006瀬田)『鎌倉城（NO.87）発掘調査報告書第2次調査』㈱斉藤建設

無量寺跡（NO.196） 26.扇ガ谷一丁目26-14(2006宮田)2008宮田ほか『無量寺跡（第4次）発掘調査報告書』㈱博通27.扇ガ谷一丁目26-27(2002森)2005森ほか『市緊急調査報告書』21鎌倉市教育委員会28.扇ガ谷一丁目26-89(2005森)

若宮大路周辺遺跡群（NO.242） 29.由比ガ浜一丁目129-5(1993清水)1995清水『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団30.由比ガ浜一丁目128-7(1986馬淵)1995馬淵『市緊急調査報告書』5鎌倉市教育委員会31.由比ガ浜一丁目120-6(1991・1992田代)32.由比ガ浜一丁目120－2・14（2008斉木)33.由比ガ浜一丁目118-11 34.由比ガ浜一丁目118-10 35.由比ガ浜一丁目117-1(1998斉木)1991斉木『由比ガ浜1-117-1地点遺跡』由比ガ浜1-117-1地点遺跡発掘調査団36.由比ガ浜一丁目118-7(1995田代)1998遠藤ほか『市緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会37.由比ガ浜一丁目118(1987・1988馬淵)1995馬淵『若宮大路周辺遺跡群―由比ガ浜一丁目188番地―の発掘調査について』38.由比ガ浜一丁目1234-5(1994馬淵)1995馬淵『市緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会　39.由比ガ浜一丁目126-3 40.由比ガ浜一丁目126-1 41.御成町727(1990木村)42.御成町884-6(1997宮田)1990宮田ほか『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団43.御成町872-14(1991木村)1992木村ほか『市緊急調査報告書』8鎌倉市教育委員会44.御成町868(1990木村)1993木村『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会45.御成町763-5(2007斉木)46.御成町783-1(2005斉木)2009斉木『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会47.御成町778－1(1988田代)1989『神奈川県埋蔵文化財調査報告』31神奈川県教育委員会48.御成町786-1(1999斉木)2002『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団・(有)鎌倉遺跡調査会49.御成町790-7(2006浜野)2007浜野『神奈川県埋蔵文化財調査報告』神奈川県教育委員会50.御成町788-3・5(1995継)1997継『市緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会51.御成町808-6(2005浜野)2007浜野『神奈川県埋蔵文化財調査報告』神奈川県教育委員会52.御成町11-36(1981斉木)1985斉木『諏訪東遺跡』諏訪東遺跡委員会53.御成町806-9(1981斉木)1982斉木『鎌倉考古学研究所研究報告第2集』鎌倉考古学研究所54.御成町81-1(1991田代)1993田代ほか『市緊急調査報告書』9鎌倉市教育委員会55.御成町818－1（1991松尾)1993松尾『神奈川県埋蔵文化財調査報告』35神奈川県教育委員会56.御成町819－1(1984玉林)1986『神奈川県埋蔵文化財調査報告』28神奈川県教育委員会57.御成町11-1(1989菊川)1999菊川『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団58.御成町802-2(2002斉木)2003瀬田『第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会59.御成町11－15（1981手塚）1983手塚ほか『蔵屋敷東遺跡発掘調査報告書』江ノ電鎌倉ビル発掘調査団60.御成町228-2(1985斉木)1987斉木『御成町228-2他地点遺跡』千葉地東遺跡発掘調査団61.御成町130-6(1984松尾)1985松尾『神奈川県埋蔵文化財調査報告』27神奈川県教育委員会62.御成町12-18(1984服部)1986服部『千葉地東遺跡』神奈川県埋蔵文化財センター 63.御成町12(1980宇田川)1981宇田川『鎌倉考古』5鎌倉考古学研究所64.御成町126-1(2003汐見)2007汐見『市緊急調査報告書』23鎌倉市教育委員会65.御成町123－3(2004福田)2009福田『市緊急調査報告書』25鎌倉市教育委員会66.御成町123-5(1997汐見)1999汐見『市緊急調査報告書』15鎌倉市教育委員会67.扇ガ谷一丁目74-8・10(1988菊川)1990菊川『市緊急調査報告書』6鎌倉市教育委員会68.扇ガ谷一丁目74-9(1993菊川)1994菊川『市緊急調査報告書』10鎌倉市教育委員会69.小町一丁目103-9(1982調査会)1984服部『蔵屋敷遺跡』鎌倉駅舎にかかる遺跡調査会70.小町一丁目83-1(1990㈱四門)1993四門『鎌倉市早見芸術学園改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』㈱四門 71.小町一丁目83-3(2007宮田)2008宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』㈱博通 72.小町一丁目287-13(1992斉木)1992斉木『鎌倉考古』22鎌倉考古学研究所 73.小町一丁目276-18(2005宮田)2006宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』㈱博通 74.小町一丁目1028-1(1990大河内)1997大河内『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書小町一丁目1028番1地点』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 75.大町一丁目1032-1 76.小町一丁目305・308(1975斉木)1983斉木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1鎌倉市教育委員会 77.小町一丁目891

（1979・1980斉木）1985斉木『（推定）藤内定員邸遺跡』鎌倉市教育委員会 78.小町一丁目891(1978斉木)1983斉木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1鎌倉市教育委員会 79.小町一丁目309-5(1982斉木)1983斉木『小町一丁目309番5地点発掘調査報告書』（推定）藤内定員邸遺跡発掘調査団 80.小町一丁目319-2(1978斉木)1983斉木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1鎌倉市教育委員会 81.小町一丁目321-1(1993宮田)1996宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 82.小町二丁目345-2(1983馬淵)1985馬淵『小町二丁目345番2地点遺跡発掘調査報告書』小町二丁目345番2地点遺跡発掘調査団 83.小町二丁目349-1(2008三ツ橋) 84.小町一丁目81－8(1991宮田)1995『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書　鎌倉市小町一丁目81番8地点』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 85.小町一丁目81-23(1988田代)1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告』32神奈川県教育委員会 86.小町一丁目81-18(1998宮田)2000宮田『市緊急調査報告書』16鎌倉市教育委員会 87.小町一丁目75－1(1979斉木)1982『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』鎌倉考古学研究所 88.小町一丁目75-1()1979斉木1982斉木『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』鎌倉考古学研究所 89.小町一丁目65-21(1979河野)1982斉木ほか『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』鎌倉考古学研究所 90.小町一丁目67－2（1987福田）1994福田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会 91.小町一丁目66-5()1996原1997原『市緊急調査報告書』39鎌倉市教育委員会 92.小町一丁目66-3(1977斉木)1983斉木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査報告書』1鎌倉市教育委員会 93.小町一丁目65-30(2005鈴木啓介)2007鈴木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51神奈川県教育委員会 94.小町一丁目65-10(1977松尾)1983松尾『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査報告書』1鎌倉市教育委員会 95.小町一丁目65-26(2009宮田) 96.小町一丁目107-7(2010宮田) 97.小町一丁目106-1(1987手塚)1999手塚『若宮大路周辺遺跡群』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 98.小町一丁目116－4(1989手塚)1999手塚『若宮大路周辺遺跡群』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 99.小町一丁目116（1985馬淵）1986馬淵『市緊急調査報告書』2鎌倉市教育委員会 100.小町一丁目120-1(1986手塚)1989手塚『小町一丁目120番1地点』風門ビル発掘調査団 101.小町二丁目11-2(2005森)2007森『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51神奈川県教育委員会 102.小町二丁目12-10(1991大河内)1991大河内『鎌倉考古』20鎌倉考古学研究所 103.小町二丁目12-15(1990菊川)1992菊川『市緊急調査報告書』8鎌倉市教育委員会 104.小町二丁目5-23(1989福田)1990福田『市緊急調査報告書』6鎌倉市教育委員会 105.小町二丁目4-9(1996手塚)1997野本『第7回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 106.小町二丁目4-1(2005菊川)2006菊川『若宮大路周辺遺跡群（NO.242）発掘調査報告書』㈱斉藤建設 107.小町二丁目283-6(1997宮田)1998宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 108.小町二丁目283（2003宮田）2007宮田『市緊急調査報告書』23鎌倉市教育委員会 109.小町二丁目1-6(2002汐見)2003汐見『神奈川県埋蔵文化財調査報告』45神奈川県教育委員会 110.小町二丁目1-14(1986福田)1989福田『神奈川県埋蔵文化財調査報告』30神奈川県教育委員会 111.小町二丁目394(2005浜野)2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51 112.小町二丁目1-14（1986福田）113.小町二丁目12-18(1987馬淵)1989馬淵『市緊急調査報告書』5鎌倉市教育委員会 114.小町二丁目63-9(1992斉木)1993斉木ほか『市緊急調査報告書』9鎌倉市教育委員会 115.小町二丁目4-6(1986田代)1989田代『神奈川県埋蔵文化財調査報告』30神奈川県教育委員会 116.由比ガ浜一丁目127－1（2003鈴木啓介）2006宗台『市緊急調査報告書』22鎌倉市教育委員会 117.小町一丁目117-3(2005滝澤)2006滝澤『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』㈱博通

下馬周辺遺跡（NO.200） 118.由比ガ浜二丁目2-2（1988福田）119.由比ガ浜二丁目2-10(1990福田) 120.由比ガ浜二丁目2－12（1998斉木）1998熊谷『下馬周辺遺跡―由比ガ浜二丁目2番12地点―』下馬周辺遺跡発掘調査団 121.由比ガ浜二丁目3-7(2005田代)2007田代『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51神奈川県教育委員会 122.由比ガ浜二丁目3-6(2008宮田) 123.由比ガ浜二丁目18-1(2001汐見) 124.由比ガ浜二丁目18-1289(1990宗台)1992宗台ほか『下馬周辺遺跡　東京電力鎌倉営業所改築に係る発掘調査報告書』下馬周辺遺跡発掘調査団 125.由比ガ浜二丁目18-1(2001汐見) 126.由比ガ浜二丁目27-9(1988田代) 127.由比ガ浜二丁目1011-1(1989大河内)1998大河内『下馬周辺遺跡発掘調査報告書―鎌倉女学院地点―』下馬周辺遺跡発掘調査団 128.由比ガ浜二丁目39-14(2004原)2010原『市緊急調査報告書』26鎌倉市教育委員会 129.由比ガ浜二丁目54-15(2008伊丹) 130.由比ガ浜二丁目110-5(1998菊川)2001菊川『市緊急調査報告書』17鎌倉市教育委員会 131.由比ガ浜二丁目113-5(2009伊丹) 132.由比ガ浜二丁目107-5(2007鈴木絵美) 133.由比ガ浜二丁目107-1(1995汐見)1997汐見『市緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会 134.由比ガ浜二丁目106-6・7(2000汐見)2000汐見『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会 135.由比ガ浜二丁目1075(2010植山) 136.由比ガ浜二丁目19-1(2006馬淵)

笹目遺跡（NO.207） 137.笹目町324・311-3(1988田代・原)1990田代ほか『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策に伴う発掘調査報告書』笹目やぐら発掘調査団 138.笹目町423-2(2005斉木)2010降矢『市緊急調査報告書』26鎌倉市教育委員会 139.笹目町425-1(1993田代・継)1994継ほか『市緊急調査報告書』10鎌倉市教育委員会 140.笹目町302-11(2000継)2002継『市緊急調査報告書』17鎌倉市教育委員会 141.笹目町415-21(2003原)2008山口ほか『市緊急調査報告書』24鎌倉市教育委員会 142.笹目町330-11(2002原)2004原『市緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会 143.笹目町330-1(1988大河内)1990大河内『市緊急調査報告書』6鎌倉市教育委員会 144.笹目町316-10(2006森) 145.笹目町285－1(1999伊丹)2001伊丹『市緊急調査報告書』17鎌倉市教育委員会 146.笹目町286-1(1999伊丹)2001伊丹『市緊急調査報告書』17鎌倉市教育委員会 147.笹目町287-1(2003田代)2005『鎌倉の埋蔵文化財』8鎌倉市教育委員会

長谷小路周辺遺跡（NO.236） 149.由比ガ浜三丁目223-11(1989斉木)1991斉木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』33神奈川県教育委員会 150.由比ガ浜三丁目228－2(1996宗台)1998宗台『市緊急調査報告書』14鎌倉市教育委員会 151.

由比ガ浜三丁目228-229(1991宗台)1993宗台『市緊急調査報告書』9鎌倉市教育委員会 152.由比ガ浜三丁目254-1(2006鈴木絵美) 153.由比ガ浜三丁目254-15(1999原)2001原ほか『市緊急調査報告書』17鎌倉市教育委員会 154.由比ガ浜三丁目9-41(1988斉木)1990斉木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』32神奈川県教育委員会 155.由比ガ浜三丁目258-8(1988斉木)1990斉木『市緊急調査報告書』6鎌倉市教育委員会 156.由比ガ浜三丁目258-1(1987斉木)1995斉木『長谷小路周辺遺跡　由比ガ浜三丁目258番1地点（NO.236）』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 157.由比ガ浜三丁目194-40(1990大河内)1997大河内『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 158.由比ガ浜三丁目194-25(1987斉木)1989斉木『市緊急調査報告書』5鎌倉市教育委員会 159.由比ガ浜三丁目194-24(1989宗台)1991宗台『市緊急調査報告書』7鎌倉市教育委員会 160.由比ガ浜三丁目11-39(1987斉木)1990斉木『由比ガ浜三丁目1999番1地点遺跡発掘調査報告書』由比ガ浜三丁目1999番1地点遺跡発掘調査団 161.由比ガ浜三丁目194-50(2002汐見)2004汐見『市緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会 162.由比ガ浜三丁目200(1979玉林) 163.由比ガ浜三丁目2-200(1995宮田)1997宮田ほか『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 164.由比ガ浜三丁目202-2(1984斉木)1992斉木『長谷小路南遺跡発掘調査報告書』長谷小路南遺跡発掘調査団 165.由比ガ浜三丁目204-5(2011) 166.由比ガ浜三丁目1175-2(1992馬淵)1994馬淵『市緊急調査報告書』10鎌倉市教育委員会 167.由比ガ浜三丁目1173-3(1999大河内)2001押木『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 168.由比ガ浜三丁目1262-6(1999宮田)2000宮田ほか『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 169.由比ガ浜三丁目1262-2(1998宗台)2002宗台ほか『長谷小路周辺遺跡―（NO.236）―発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所 170.由比ガ浜三丁目1256番外(2004宮田)2005宮田ほか『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』㈱博通 171.長谷一丁目270-1(2005浜野)2007浜野『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51神奈川県教育委員会 172.長谷一丁目265-19(2005伊丹)2010伊丹『市緊急調査報告書』26鎌倉市教育委員会 173.長谷一丁目199-20(2001斉木)2003斉木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』45神奈川県教育委員会 174.長谷一丁目205-12(2000汐見)2002汐見『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会

由比ガ浜中世集団墓地遺跡（NO.327）　175.由比ガ浜四丁目1107-32(2005森)2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51神奈川県教育委員会 176.由比ガ浜四丁目1133－1（2002宗台）2004宗台ほか『第14回鎌倉市遺跡調査・研究発表会　発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 177.由比ガ浜四丁目1130(1993汐見)1999『貿易陶磁研究史料集会　鎌倉大会資料集』日本貿易陶磁研究会 178.由比ガ浜四丁目1134-1(1986大河内)1996大河内『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書（古代編）』由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 179.由比ガ浜四丁目1136-11(1994斉木)1997伊丹ほか『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 180.由比ガ浜四丁目1170-1(1992斉木)1994斉木『由比ガ浜4-6-9地点発掘調査報告書』由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 181.由比ガ浜四丁目1142－1(1982玉林)1984『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1』鎌倉市教育委員会 182.由比ガ浜二丁目1235-4(2007伊丹) 183.由比ガ浜二丁目1015-1(2005瀬田)2009瀬田『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会 184.由比ガ浜二丁目1023(1953・1956鈴木尚)1956鈴木ほか『材木座遺跡鎌倉市材木座発見の中世遺跡とその人骨』東京大学人類学教室・岩波書店 185.由比ガ浜二丁目1015-29(1991大河内)1991大河内『市緊急調査報告書』7鎌倉市教育委員会 186.由比ガ浜二丁目1034-1(1990・1991原)1993原ほか『市緊急調査報告書』9鎌倉市教育委員会 187.由比ガ浜二丁目1203-20(1998原)2000原『市緊急調査報告書』16鎌倉市教育委員会

佐助ヶ谷遺跡（NO.203）　188.佐助一丁目620(1986手塚)1989手塚ほか『佐助ヶ谷遺跡』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団 189.佐助一丁目450-24(1996宮田)1998宮田『市緊急調査報告書』14鎌倉市教育委員会 190.佐助一丁目450-25・27(1996宮田)1993『市緊急調査報告書』14鎌倉市教育委員会 191.佐助一丁目476-1(2000斉木)2002斉木『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会 192.佐助一丁目476-1(2001田代)2003若松『神奈川県埋蔵文化財調査報告』45神奈川県教育委員会 193.佐助一丁目583(2002瀬田)2005瀬田『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会 194.佐助一丁目476-1(2001原)2004原『市緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会 195.佐助一丁目615-1(2003斉木)2007斉木『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会 196.佐助一丁目450-5(2004宮田)2009宮田『市緊急調査報告書』25鎌倉市教育委員会 197.佐助一丁目496-4(2005熊谷)2011熊谷『市緊急調査報告書』27鎌倉市教育委員会

２．歴史的環境

ここでは調査地点から出土した遺物が古墳前期からなので同時代以降を述べる。

古墳時代

古墳時代前期の遺物は調査地点周辺で弥生式土器とともにまばらな散布がみられるが、集落としては確認されていない。鎌倉市の南西、逗子市と葉山町の境の相模湾を見下ろす桜山丘陵上に、長柄桜山１号、２号墳が築かれる。この古墳はいずれも全長90ｍ前後の前方後円墳で、県内のこれまでに発見された古墳としては最大級に属する。長柄桜山古墳群の地はのちの律令時代には鎌倉郡と御（三）浦郡の境にあり、相模湾を舞台にした地域統合が広範に進められていたことを物語る。古墳時代後期になると集落の確認はないが砂丘地域で祭祀遺構が点々と検出される。

またこの時期、横穴墓も多い。調査地点周辺では、扇ヶ谷、笹目で確認されている。調査地点から南東に430ｍの砂丘地帯に和田塚がある。和田塚周辺は古い字を向原(むかいはら)といい、現在は見る影もないが高塚式古墳の向原古墳群があったとされる。現在の和田塚はもと「無常堂塚」という円墳で、明治28年創刊の『鎌倉旧跡地誌』では明治の頃はまだ円墳が残っている。「采女塚古墳」も古墳群のひとつで、明治20年（1887）に六地蔵から由比ガ浜に向かう道の道路工事に際し塚を切崩したとき、人物埴輪三体の他に馬埴輪、円筒埴輪が出土した。和田塚周辺から御成町一帯にかけては時々埴輪片の出土がある。

古代

律令時代になると遺構・遺物は急増し、評家（郡家）や集落の発見がある。古代行政区画上の相模国は八郡で形成され、その内に鎌倉郡も含まれる。鎌倉郡は五つもしくは七つの郷で構成される。綾瀬市宮久保遺跡出土の「天平五年」銘木簡には「鎌倉郷」の名がある（天平五年は733年）。正倉院文書にも名は見られる。平安時代成立の「和名類聚鈔」（承平年間931 ～ 937成立）にも「鎌倉郷」の名が見られる。それらの史料により奈良時代前半の鎌倉郷に限ってみれば、高田王の食封三十戸と他の官戸二十戸が存在し、相模国の一郷平均人口である1521人前後（竹中1981）が暮らしていたとする推測が成り立つ。

調査地点より北東に270ｍの今小路西遺跡（御成小学校地点）地点18・19で鎌倉評家もしくは郡家の政庁が発見されたのは、1985年のことである。検出遺構は掘立柱建物12棟、礎石建物５棟、柵９条、池状凹地１基、溝３条であり、８世紀前半から10世紀初頭の遺跡群を５期に区分している。Ⅰ期では天平五年（733年）の銘木簡の出土がある。政庁に関連すると考えられる周辺の遺跡をいくつかあげたい。地点18にほど近く真南に位置し、調査地点より150ｍ東の地点17では地点18と同時代の掘立柱建物３棟、土坑、溝の検出がある。地点18の真北、調査地点より北東に550ｍの地点22では掘立柱建物10棟、竪穴建物１棟、溝、柱穴が発見され、７世紀中葉から９世紀以降の時期を充て５期に区分している。地点18に先行する時代の建物を省けば同時代の６棟の掘立柱建物が検出されている。調査地点から北東に510ｍの地点55では８世紀後半の掘立柱建物３棟、竪穴建物３棟が検出されている。その隣接地、調査地点より北東に520ｍの地点56では８世紀後半の掘立柱建物１棟の検出がある。調査地点から北東660ｍの地点97では掘立柱建物２棟、竪穴建物（1 ～ 4号住居）４軒、掘立柱建物２棟が確認されている。遺構は８世紀前半から10世紀中葉に位置づけられており、地点18で検出された基壇状遺構とどう関わるかが課題となろう。

地点18と時代を同じくする集落遺跡は由比ガ浜に多く検出されている。集落としては、砂丘上に形成された、調査地点から南に580ｍの地点179、南に650ｍの地点178があげられる。

こうした古代鎌倉の様相について菊川英政は、遺跡を砂丘域・郡衙域・周辺域に分けた上で遺跡・遺物の点数の変化から次のように説明する。（菊川1997）

図２　明治15年ごろの鎌倉（『迅速測図』）と近代の地形（上本2000）

8世紀前半には郡家は砂丘後背地に付属舎群と共に存在する。それ以前7世紀後半に砂丘域で遺構・遺物とも多く見られるのは菊川によれば、郡家造営に伴う集団移住が行われたからであり、8世紀前半に郡衙域に遺構・遺物の増加がみられるのはその存在からとする。その一方このころから砂丘域では逆に急激に落ち込むことから、集落は郡家が完成するまでの一時的な移住であったという。9世紀前半は砂丘域、郡衙域とも変化は見られないが、菊川によれば後半に郡衙域だけ比率が低くなるのは鎌倉郡家の消長に対応しているという。他地域に移転した確証がないことに加え、既存集落の撤去あるいは無住の耕地を潰すにしても政庁域には広大な土地が必要であり、新たな集落の増加が抑えられるはずなので、政庁が同じ郡家内へ移転したことによるとしている。周辺域では7世紀中葉から遺跡は見られるが、主に9世紀を主体とした丘陵斜面あるいは尾根上で集落は形成される。このことに関して菊川は9世紀前半の急増は丘陵部への耕地拡大を図ったものであり、9世紀前半で減少傾向にあるのは元慶二年（878）の大震災による可能性もあるとする。が、周辺域とした傾向が実は異なる地域の特徴が混在したものであり、地域的根底の特徴には立地が大きく関わっているとしている。10世紀前半から後半にかけて砂丘域、郡衙域ともに減少傾向にあり、10世紀後半は三域とも一定の遺跡を残し衰退する様子が観察されるが、10世紀中葉から11世紀後半は律令制が崩壊する時期であり、一般集落遺跡においても住居件数が減少し、集落は解体する。鎌倉中心域の変化はそうした社会変化を反映した現象としている。

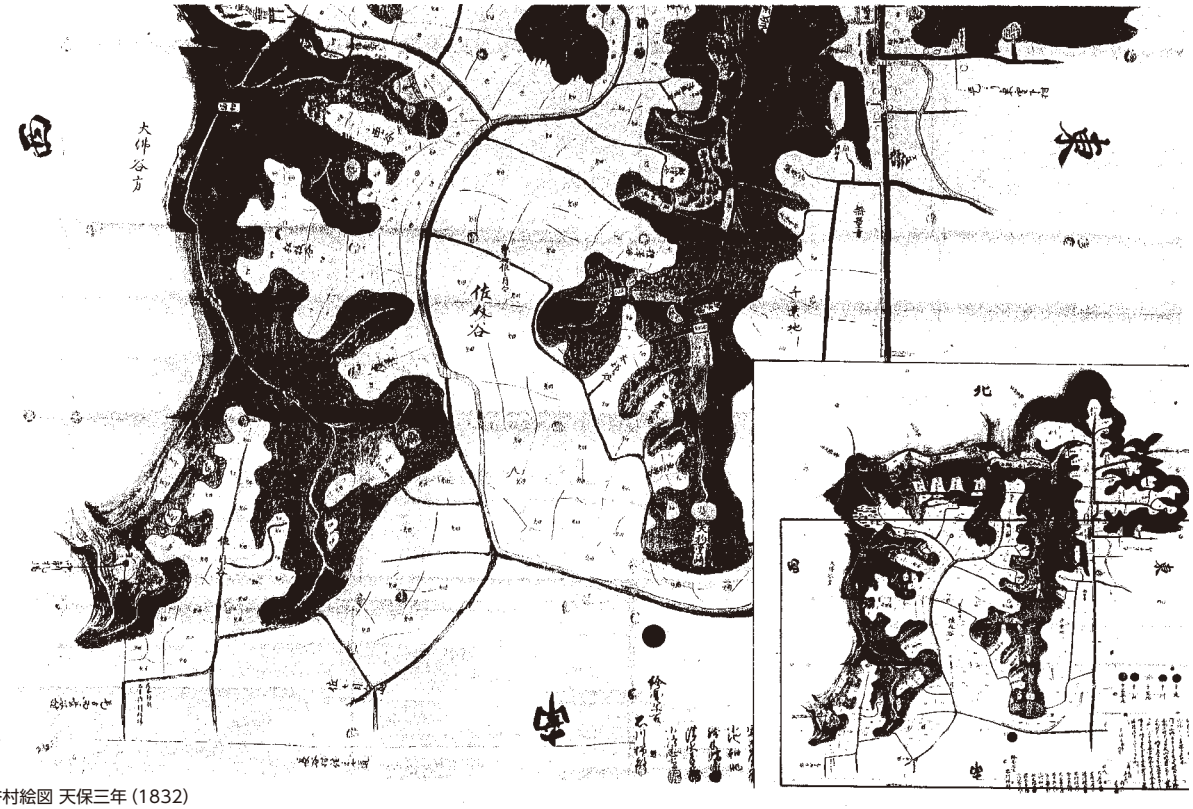
古東海道と鎌倉

大化改新（645）直後から宝亀二年（711）の五畿七道制の改編まで、鎌倉を東海道が通過していた。この街道がどこを通過していたかという問題は、それ以後の鎌倉の町構造を規定する重要な点なので、ここで触れておきたい。

東海道が鎌倉に入る経路は、ほぼ二系統が想定される。一本は、相模国府から海岸沿いに鎌倉郡に至り稲村ガ崎と霊山ヶ崎の間の鞍部を超えて鎌倉湾岸側に抜け、稲瀬川河口から鎌倉郷に入る経路である。もう一本は、海老名から藤沢下土棚を経て藤沢市川名から鎌倉に入る。この場合は明治時代に敷設された横須賀水道道にほぼ重なる。（木下1997）。以上二経路のいずれも考古資料による検証はまだされていない。またどちらであっても、その先、鎌倉郷を横断する経路にも二系統が想定されている。すなわち、ほぼ六地蔵交差点から現在の下馬四つ角交差点を東に渡り、現在の大町四つ角から小坪方面に抜ける経路と、その一本南の、六地蔵交差点から私立中高校の北側を通り元鶴岡八幡宮の前を通り小坪に抜ける経路である。二経路周辺の基盤層近くから古代の土器が出土するのは、東海道の存在が背景にあるからだろう。古官道の道筋は中世鎌倉の都市構造を解明していく上で大変重要な問題であり、今後も注視していく必要がある。

調査地点は現在今小路と呼ばれる道の近くである。今小路については前述しているが、中世都市鎌倉の大路造成に関わることを記載すると、治承四年（1180）、源頼朝が鎌倉に入り大倉に幕府を開いた。このとき旧来の集落構造の上に鶴岡八幡宮と若宮大路が置かれ、現代まで続く町並みの骨格が出来上がる。若宮大路を中心に小町大路とほぼ対称位置にある現在の今小路、南方の二本の東西道、「大町大路」、「車大路」が造成されたとみる。

「小町大路」は『吾妻鏡』等の史料に多々見受けられ、現在の宝戒寺の前から南の夷堂橋までが相当するのは確実である。「大町大路」に関しては、田代郁夫は『吾妻鏡』に見られる「小町大路」のさまざまな記事を検討した上で、夷堂橋以南の南北道を「大町大路」というのではないかといっている。（田代1998）これに対し馬淵和雄は、西は御成中学校の下から東は安国論寺までの道を鎌倉の平坦部を横断する唯一の道であり、これが「大町大路」ではないかと言っている。馬淵はその根拠として、次のようにいう。「大町大路」と「車大路」という、『吾妻鏡』に現われる鎌倉南域の東西道路2本のうち、後者に関しては、安貞二年（1238）十月十五日条に見られる小山生西の家がこの大路と「若宮大路」の交差点北東角にならなくてはならない。



扇ケ谷村絵図 天保三年（1832）

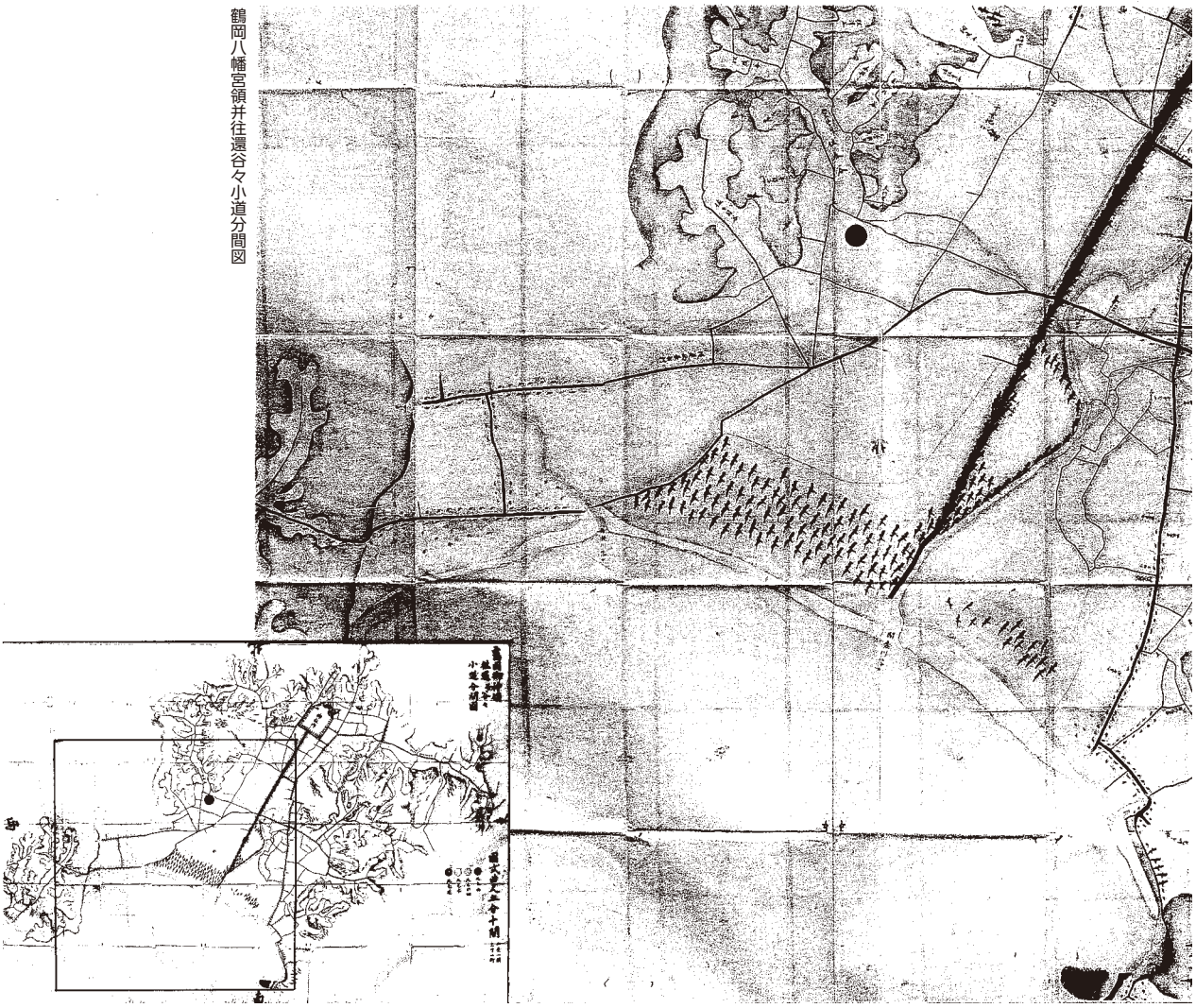


図３　近世の絵図に見る調査地点（『鎌倉国宝館図録』第16・17集を改変）

しかし、下馬四つ角の一帯は滑川に近く、馬淵がかつてその交差点の北東角を試掘した時河川敷であったので、小山氏のような大身の武士の屋敷地とするのは無理だという。とすればここを通過する東西道が「車大路」である可能性は低く、これよりも一本南の道を想定すべきとする。そしてそうだとすれば、安国論寺前から御成中学校下にいたるこの東西道に「大町大路」の名称を充てるべきという（馬淵他2007）。仮にそうであれば、調査地点はその大町大路のやや南側に位置していることになる。

現在の大町大路辺で、考古資料としていくつかの地点で東西に延びる道路状遺構の検出はあり、中世からの「大路」の存在は想定される。これらの道路状遺構を検討し、押木弘己も「大町大路」との関わりも視野に入ってくると指摘しているが（押木2011）、依然として「大町大路」は東西の道なのか南北の道なのか確定していないというべきであろう。

３．周辺の遺跡

調査地点周辺の遺跡を見てみると竪穴建物が立ち並ぶ遺跡と掘立柱建物が並ぶ遺跡とに分かれる。堆積土層は佐助ヶ谷の東側丘陵部の両裾は粘質土が見られるが、それより東側にある現在の鎌倉駅付近に向かうまでは砂質土と粘質土が混合する。例えば、地点62では調査区の南西隅に砂丘地形が現れ、それ以外は低湿地である。地点46・47は砂質土であり、調査地点を含める一帯から南側は砂質土が展開するようであるが、地点６のように部分的に粘質土のところもある。

こうした基盤層の違いが土地利用に反映する例として地点19をあげると、砂丘の西斜面である「北街区」には大型の竪穴建物が立ち並び倉町・蔵屋敷と呼ぶべき様相だと報告されている。東西の道路状遺構を挟んだ「南街区」は土壌化が進行しており（馬淵氏教示による）、小型の竪穴建物と掘立柱建物の柱穴が多数検出される。商人･職人の居住地域としている。南北道路状遺構を挟んだ「西街区」は、掘立柱建物が並び、被官屋敷ではないかと報告されている。

大きく言って、地点３･７･17は中世期の掘立柱建物の検出がある（原博志氏教示による）。一方、地点６・８・13・46周辺・38周辺は竪穴建物が群集する。前者が土壌化した粘質土で、後者の竪穴建物の群集域は砂層である。しかし、細かく見ていけば例外は少なくなく、基盤層の差異と土地利用の違いに関連があるのかどうか、今後は注視する必要がある。

また、調査地点の隣接地、地点２は掘削深度規制があり、上層３面までの調査であったが、14世紀を中心とした新しい時期の遺構の検出が顕著であった。遺跡の様相も異にする。地点２は13世紀後半から14世紀前半までに３時期の道路状遺構が検出され、幅約６ｍの東西道路が側溝を伴い検出されている。

南北道路は東西道路に接続し、１・２面の２時期に存在を確認している。第四章に書くように、この東西溝の南側側溝が本地点でも確認された。

地点18・19・22は古代の政庁の跡と中世期の武家屋敷跡である。３地点とも調査面積が広いため遺跡の全容がある程度見てとれた。

甘縄は安達氏を始め千葉氏などの有力武家の屋敷の立ち並ぶ空間であり、調査地点がそのどこかに位置している可能性は否定できない。

参考・引用文献

上本進二2000「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子桟敷戸遺跡（逗子市NO.100）』東国歴史考古学研究所
高橋慎一朗1996「鎌倉甘縄に見る武家地と寺院」『中世の都市と武士』吉川弘文館
秋山哲雄2004「都市鎌倉の形成と北条氏」『中世都市鎌倉の実像と境界』高志書院
馬淵和雄2004「中世都市鎌倉成立前史」『中世都市鎌倉の実像と境界』高志書院
秋山哲雄2011「成立期鎌倉の形－鎌倉の道・館・寺－」『都市のかたち－権力と領域－』中世都市研究16

野本賢二2000「鎌倉における最近の弥生時代遺跡調査の動向」『考古学論究』第７号　立正大学考古学会
馬淵和雄2002「中世鎌倉の都市構造と道路」中世みちの研究会第５回発表資料
三浦勝男1993「善宝寺」『鎌倉の古絵図Ⅱ』鎌倉市国宝館第十六集　鎌倉市教育委員会
田代郁夫1998「「大町大路」と「小町大路」－中世都市の中の「町」と「路」－」『湘南考古学同好会会報』73『吾妻鏡』
菊川英政1997「古代鎌倉の様相－奈良・平安期における鎌倉郷中心域の変化－」『考古論叢神奈河』第６集
大上周三2009「鎌倉郡家と官衛関連遺跡について」『神奈川考古』第45号　神奈川考古同人会
木下良1997『神奈川の古代道』藤沢市教育委員会
石井進1989「大路・小路・辻子・辻」『よみがえる中世』３　平凡社
大三輪龍彦1989「鎌倉の都市計画」『よみがえる中世』３　平凡社
柘植信行他2008「鎌倉時代に品川宿があった」『東京湾と品川－よみがえる中世の港町－』品川歴史館
馬淵和雄1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社
押木弘己2011「米町遺跡の調査」『かまくら考古』第10号
大河内学1997『若宮大路遺跡群発掘調査報告書－小町一丁目1028番地点』鎌倉市教育委員会
馬淵和雄他2007「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会
山名留三郎1895『鎌倉旧跡地誌』冨山房書店

（根本）

第二章　調査の概要

１．調査にいたる経緯

由比ヶ浜一丁目157番７において個人専用住宅建設の照会があった。その地点は古代の鎌倉郡家や中世武家屋敷群の存在で知られる「今小路西遺跡」（№201）の一角であり、鎌倉市域南部を東西によぎる「大町大路」と目される街路のすぐ南側にあたる場所でもあった。建設にあたっては耐震構造が採用されたため、地下の遺構の損傷を免れず、また設計変更も困難であったので、鎌倉市教育委員会により発掘調査が実施されることになった。

調査は2005年10月28日に表土掘削をおこない、同31日より本格的に始められた。

２．調査方法

掘削方法

掘削にあたっては残土を場内処理とし、置き場所の確保のため面積64㎡の調査区を東西に二分割した。そして前半（東半部）を「１区」、後半を「２区」と仮称し、１区の調査時は２区を、２区の調査時は１区をそれぞれ残土置場とした。なお作業効率にかんがみ、先行する１区の方が２区よりもいくらか広い。表土は1.5ｍ以上の厚みがあるため、掘削の際には重機を用いた。

測量基準

調査区は区外東北角のＸ－75 735・Ｙ－26 240交点から、同じく調査区外南西角Ｘ－75 755・Ｙ－26 255（世界測地系［エリア９］）に至る間に位置する。測量の際には任意の交点に測距儀を置いてあたった。

３．調査の経過

現地調査期間内のおもな経過を以下に記す。

2005年

10月28日　重機により１区を地表下1.4ｍ前後まで掘削

10月31日　機材搬入と環境整備

11月１日　１区（以下12月２日まで「１区」省略）Ⅰ面上層面の面出し開始

11月２日　測量基準杭設置

11月９日　Ⅰ面上層面（溝１上層段階未掘削）全景写真撮影と平面実測

11月11日　Ⅰａ面全景写真撮影と平面実測

11月21日　Ⅰｂ面全景写真撮影と平面実測

11月24日　Ⅱ面全景写真撮影と平面実測

11月28日　Ⅲ面上炭面（のち「Ⅲａ面」）掘削と平面実測

11月30日　Ⅲｂ面全景写真撮影と平面実測

12月１日　西壁・南壁に深掘り坑

12月２日　深掘り坑全景写真撮影と西壁土層断面実測

12月５日　重機により１区埋め戻しと２区表土掘削

12月14日　２区（以下１月13日まで「２区」省略）Ⅰａ面全景写真撮影と平面実測

12月19日　Ⅰｂ面全景写真撮影と平面実測

12月21日　Ⅱａ面全景写真撮影と平面実測

12月26日　Ⅲａ面全景写真撮影と平面実測

12月27日　南壁土層断面実測

2006年

１月10日　Ⅲｂ面全景写真撮影と平面実測

１月12日　Ⅲｃ面全景写真撮影と平面実測

１月13日　Ⅳ面全景写真撮影と平面実測、西壁と南壁土層断面写真撮影

１月17日　機材撤収

（馬淵）

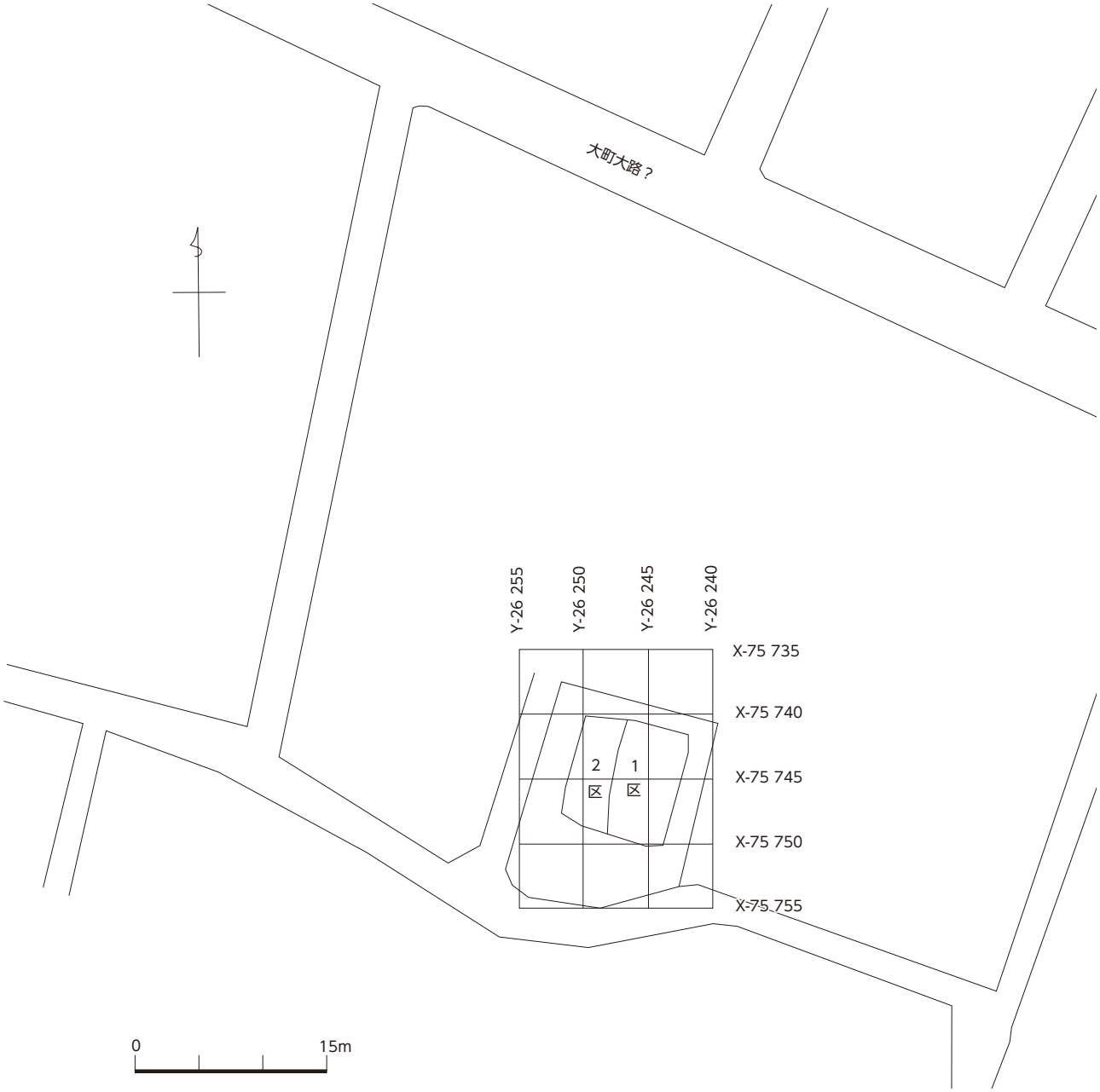

大町大路？
Y-26 255
Y-26 250
Y-26 245
Y-26 240
X-75 735
X-75 740
X-75 745
X-75 750
X-75 755
2
区
1
区
0
15m

図４　調査区設定図

第三章　調査結果

第１節　概略

１．層序と面の概要

地表面と表土

地表面の標高は9.55ｍ（東域）～ 9.67ｍ（西域）で、おおむね西側から東に向かってわずかに傾斜している。この点は地中の文化層も同様の傾向を示す。表土は耕作土で、後述するように、表土層を除くとすぐに中世層が現れる。したがって、近代のある時期に近世以前の層が広範に削平されたか、耕作が深くに及んでいたということになる。

Ｉａ面上層

表土は厚さ1.4 ～ 1.6ｍの耕作土で、これを除去した段階で早くも中世期包含層が現れる。直下に遺構面があり、これを「Ｉ面」と称した。しかし、整理時の検討によって、現地作業時Ｉａ面の遺構とした溝のうちに、さらに上層から切り込まれた可能性のあるもの存在することが判明した。そこで、Ｉａ面遺構群からこれを図上に抽出して「上層溝１」と称することにした。切込み面自体は、表土層に削り取られているか、または深い耕作に攪拌されたかのいずれかの理由により、失われている。

以上のような事情のため、「Ｉａ面上層」の遺構と認識されるのは溝１条（「溝１」）にとどまる。

Ｉａ面

土下にある数㎝から10㎝ほどの厚みの黄褐色～灰褐色の粘質土を除くと、堅い泥岩版築面が広範囲に出現する。明白な生活面として認定できたので、当初これを「Ｉ面」とした。しかし以下のような理由で、結果的に「Ｉａ面」と称するようになった。

面を構成するのは粒子状から小石大の破砕泥岩による地形（じぎょう）層で、厚さは薄いところで７～８㎝、場所によっては25㎝にもおよぶ。当初これを単一層と認識していたが、掘削を始めると泥岩層の半ばに明らかな生活面の存在することが認められたので、先の面を「Ｉａ面」と改称して区別することとした。

面上からは柱穴様の小穴がたくさん検出され、なかには建物や柵らしき規則的な配列を有するものもある。この面を挟んだ上下の面からは北壁際に東西方向の溝が検出されているが、当該のＩａ面から切り込まれたと判断できるものはない。溝が一時期北側に移動した可能性がある。

標高は7.95ｍ（東南域）～ 8.15ｍ（西壁）にある。

Ｉｂ面

Ｉａ面を除き始めると、泥岩地形層の中位に、土師器片を敷き詰めたり、炭化物と破砕泥岩が踏み固められたりした生活痕跡の強い面が現れる。この面からはあらたに掘立柱建物をはじめ多くの遺構が検出された。Ｉａ面との間に時間的懸隔は見出せず、面の様相も共通しているので、両者を全体としてＩ面と捉えた上で、当該の下層面を「Ｉｂ面」と称することにした。

面の標高は7.87ｍ（東域）～ 8.13ｍ（西壁）にある。

検出遺構：土師器片地形面１・溝１・掘立柱建物３・柱穴列１・柱穴様の小穴109（掘立柱建物を除く）・土坑４

Ⅱ面

Ⅰb面を構成する土師器地形は厚さ３～12㎝ほどで、堅く踏みしめられている。これを剥がすと鉄分の多い、茶色味を帯びて堅く締まった砂質土が現れる。層の上面にはかなりの遺構が切り込まれており、これを「Ⅱ面」とした。この面の調査区中央部にはそれ以前（下層）にも以後にもなかった南北の溝が存在するところから、前後と明らかな断絶がある。面の標高は7.65ｍ（東南域）～7.90ｍ（西壁）。

検出遺構：溝２・掘立柱建物１・柱穴様の小穴47（掘立柱建物を除く）

Ⅲa面

Ⅱ面を構成する褐鉄面と暗褐色～黄褐色の締まりの強い粘質土は厚さ10～22㎝ほどあり、それを除くと、暗灰褐色～灰褐色の砂質土が現れる。上面には炭化物の堆積がみられ、遺構も多く確認されたので、生活面として認識し、「Ⅲ面」とした。しかし、面の調査終了後、次に下げる段階で直下ほんの5㎝前後に、次述のように、多数の遺構の切り込まれた別の生活面があることが確認できた。遺物からみた年代も近いので（13世紀前半）、ひとまずそれを「Ⅲb面」と称することとした。そしてそれを踏まえ、先の「Ⅲ面」を「Ⅲa面」と改めた。ただし、Ⅲa面にはⅡ面で検出された調査区中央部の南北溝はなく、西の壁際に南北溝がある。面の標高は7.65ｍ（東域）～7.80ｍ（西壁）。

検出遺構：溝1・掘立柱建物１・小穴38（掘立柱建物を除く）

Ⅲb面

上記の理由で「Ⅲb面」を設定した。しかし、ここには上層Ⅲa面に検出された南北溝（溝7）はなく、一方で建物の検出は圧倒的に多い。この状況は当該面が上層とも下層とも様相を異にしており、Ⅲ面群の１枚とするよりは前後と断絶した居住面と認識するのが妥当である。標高は7.60ｍ（東南域）～7.73ｍ（西壁）。

検出遺構：溝２・溝状遺構１・掘立柱建物２・小穴111（掘立柱建物を除く）・土坑２

Ⅲc面

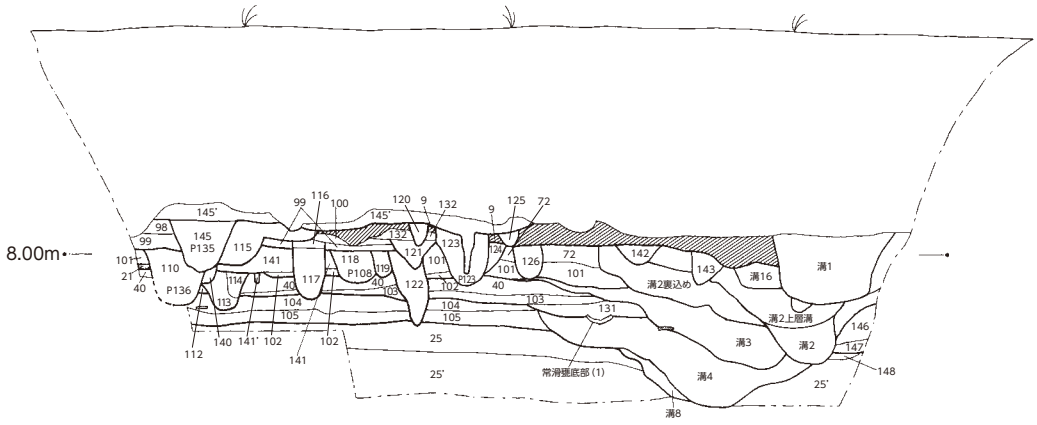
Ⅲb面を構成するのは地山黒褐色土を基本とする黒褐色～灰褐色の粘質土である。この土は挟雑物をほとんど含まず、粘性が非常に強い。１区の調査時には検出されなかったが、２区調査の際、Ⅲb面は広く落ち込み、遺構の切合いが大きく二時期に分けられることが判明したので、古段階のものを一括して面と捉え、「Ⅲc面」と呼ぶことにした。おもに柱穴と考えられる小穴群で構成される。面の標高は7.53ｍ（東南域）～7.64ｍ（西壁）。

検出遺構：柱穴列１・小穴36（柱穴列を除く）

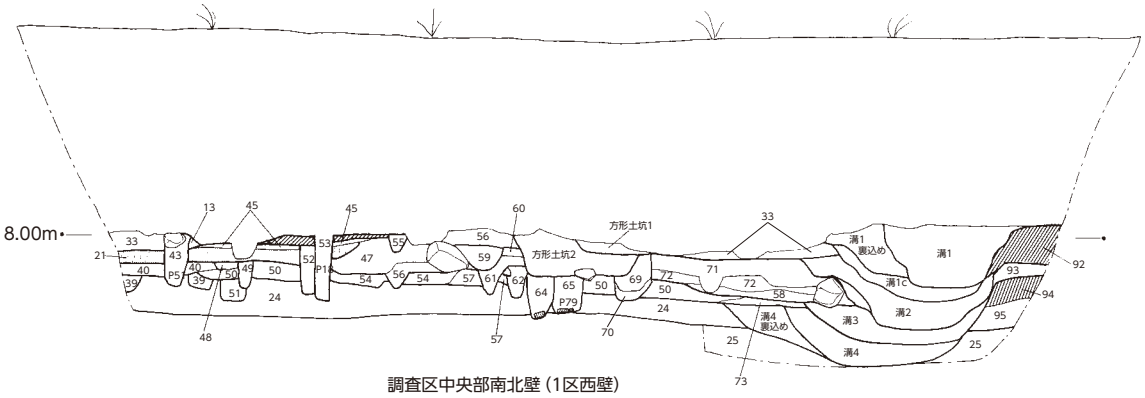
Ⅳ面

１区ではⅢc面の段階でほぼ規制深度に達したため、全面的な掘削はできなかった。しかし、それまでの調査でⅣ面下にさらに遺構らしき落ち込みの存在することが判明していた。そのため、２区との境界側の西壁、南壁際に深掘りの確認坑を入れ、また中央部にも1.2×1.6ｍの長方形の深掘り区を設置して、下層の状況を探査した。２区は全面を調査した。その結果、Ⅲb・Ⅲc面を構成する黒褐色～灰褐色土の下15～20㎝に灰褐色～明茶褐色の地山砂層が確認でき、面上に遺構が検出できたので、これを「Ⅳ面」とした。面の標高は7.38～7.42ｍと、ほぼ7.40ｍ前後の水平堆積を示す。

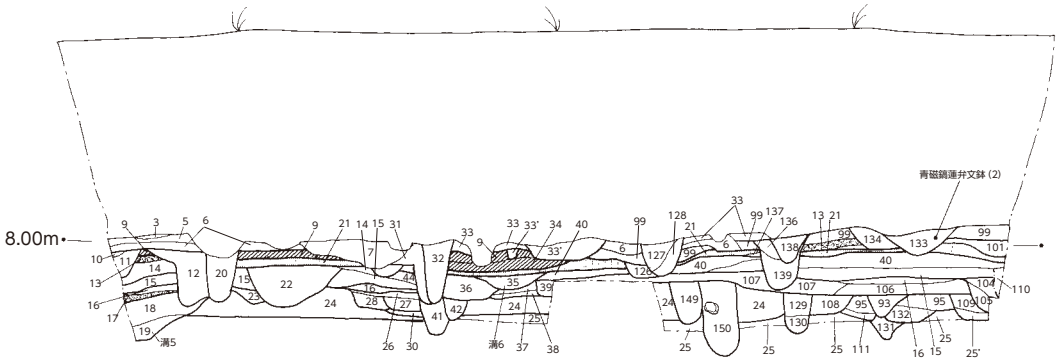
検出遺構：小穴20・土坑１



調査区西壁

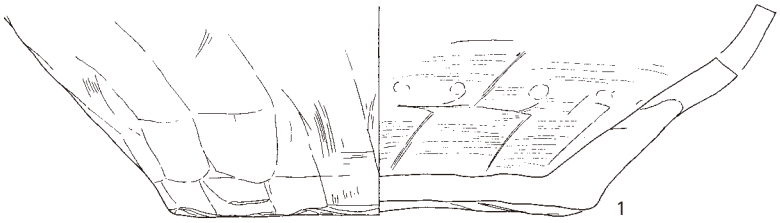


調査区中央部南北壁 (1区西壁)

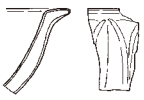


調査区南壁

0 遺構 2m
0 遺物 10cm



1



2

図5　調査区土層図，調査区壁出土遺物

1．　黒褐色粘質土　表土
3．　暗茶灰色粘質土　炭化物やや多く含む。粘性、しまり弱い。
5．　黄灰褐色粘質土　泥岩粒から小石粒大の泥岩多い、炭化物多い、砂質土多く含む。粘性弱く、しまりややあり。
6．　茶褐色粘質土　泥岩粒やや多く、炭化物非常に多く、焼土多く、砂質土多く、含む。粘性弱く、しまりややあり。
7．　灰褐色粘質土　泥岩粒から小石大の泥岩多く、炭化物、土師器粒多く、茶灰色土多く含む。粘性弱く、しまりややあり。
9．　破砕泥岩地行層　泥岩粒から小石大の泥岩で占める、炭化物多く含む。粘性弱く、しまりややあり。　Ⅰa面
10.　暗灰色粘質土　土師器粒を含む炭層。(小穴)
11.　暗茶灰色砂質土　泥岩粒少量、炭化物やや多く、土師器粒、粘土塊含む。しまり弱い。(小穴)
12.　暗茶灰色砂質土　泥岩粒から拳大の少量、炭化物やや多く、土師器粒、粘土塊含む。しまり弱い。(小穴)
13.　炭化層　泥岩粒少量、炭化物非常に多く、土師器粒含む。Ⅰb面
14.　明茶灰色砂質土　炭化物若干、粘質土含む。粘性強く、しまりやや弱い。
15.　明茶灰色砂質土　14層よりやや暗い。炭化物若干、粘質土14層より多く含む。粘性強く、しまりやや弱い。Ⅱ面
16.　明茶灰色砂質土　14層よりやや明るい。炭化物若干、粘質土微量含む。粘性強く、しまりやや弱い。Ⅲa面
17.　炭化層　泥岩若干含む。炭化物非常に多い。粘性強く、しまり弱い。
18.　暗灰褐色粘質土　炭化物多く、砂質土含む。粘性強く、しまり弱い。(溝５)
19.　暗灰褐色粘質土　炭化物若干含む。粘性強く、しまり弱い。(溝５)
20.　暗茶褐色粘質土　泥岩粒から半人頭大の泥岩多く、炭化物多く、土師器片、茶色砂含む。粘性強く、しまり弱い。(小穴)
21.　土師器片地行層。泥岩粒やや多く、炭化物非常に多く、土師器片非常に多く、茶色砂多く含む。粘性・しまり弱い。Ⅰb面
22.　暗茶灰色砂質土　小石粒大の泥岩微量、炭化物やや多く含む。しまりやや弱い。(小穴)
23.　暗灰褐色粘質土　炭化物多く、砂質土含む。粘性強く、しまり弱い。
24.　暗灰褐色粘質土　泥岩粒極微量、炭化物極微量含む。粘性強く、締まり強い。　Ⅲb面
25.　明茶色砂質土　地山　　Ⅲc・Ⅳ面
25'　暗灰褐色砂　泥岩微量、自然遺体多く含む。粘性なし、しまりあり。
26.　暗灰褐色粘質土　炭化物非常に多く、木片含む。粘性強く、しまり弱い。
27.　暗灰褐色粘質土　炭化物多く、木片含む。粘性強く、しまり弱い。(小穴)
28.　暗灰褐色粘質土　炭化物やや、木片含む。粘性強く、しまり弱い。(小穴)
29.　暗茶灰色粘質土　炭化物非常に多い。しまりやや弱い。(小穴)
30.　暗灰褐色粘質土　炭化物非常に多く、木片含む。粘性強くしまり弱い。
31.　灰褐色粘質土　泥岩粒から拳大の泥岩多く、炭化物多く、土師器片、山砂含む。粘性弱く、しまり強い。(小穴)
32.　灰褐色粘質土　泥岩粒から拳大の泥岩31層より多く、炭化物非常に多く、土師器片、山砂含む。粘性弱く、しまり強い。(小穴)
33.　暗灰褐色粘質土　泥岩粒やや多く、炭化物多く、土師器片やや多く、山砂含む。
34.　泥岩地行層　拳大の泥岩非常に多く、炭化物、土師器片多く、山砂含む。粘性弱く、しまり強い。
35.　泥岩層　破砕泥岩と人頭大の泥岩の混合層、炭化物多く、土師器粒含む。粘性弱く、しまり強い。(溝６)
36.　暗灰褐色粘質土　炭化物やや多く、土師器粒微量、茶灰色砂含む。粘性・しまり強い。　Ⅱ面
37.　灰褐色粘質土　炭化物少ない、茶灰色砂含む。粘性・しまり強い。　Ⅲa面
38.　褐鉄（灰茶色）砂　炭化物少量含む。しまりやや弱い。
39.　暗灰褐色粘質土　炭化物やや多い、土師器粒微量、木片微量山砂含む。粘性強く、しまりやや強い。(小穴)
40.　茶灰褐色砂質土　炭化物少量含む。褐鉄砂、粘土の混合層。しまりややあり。　Ⅱ面
41.　明灰褐色粘質土　少量の炭化物、砂、含む。粘性強く、しまりややあり。(小穴)
42.　灰褐色粘質土　炭化物やや多く、砂含む。粘性強く、しまりややあり。(小穴)
43.　灰茶褐色粘質土　泥岩粒から小石大の泥岩、炭化物、土師器片、山砂多く含む。粘性弱く、しまりやや強い。(小穴51)
44.　暗灰褐色粘質土　泥岩粒から拳大の泥岩、山砂多く、炭化物非常に多く、土師器片やや多く含む。粘性弱く、締まり強い。　Ⅱ面
45.　明灰褐色粘質土　泥岩極少量、炭化物若干、土師器粒微量、鉄分、砂多く含む。粘性弱く、しまりやや強い。　Ⅰb面
47.　黒褐色粘質土　泥岩粒、鉄分やや多く、炭化物多く、土師器粒含む。粘性弱く、しまり非常に強い。
48.　40層と50層の混合土。炭化物非常に多い。
49.　暗灰褐色粘質土　泥岩粒微量、炭化物多く、土師器粒若干、鉄分含む。粘性強く、しまりやや弱い。(小穴)
50.　暗灰色砂質土　炭化物やや多く、鉄分含む。しまりやや強いⅡ面
51.　暗灰褐色粘質土　炭化物少量、土師器粒微量、木片微量、山砂含む。粘性強く、しまりやや強い。(小穴)
52.　暗灰褐色粘質土　小石大の泥岩少量、炭化物やや多く、鉄分含む。粘性強く、しまりやや弱い。(小穴)
53.　暗灰褐色粘質土　小石大の泥岩少量、鉄分含む。粘性強く、しまりやや弱い。(小穴18)
54.　灰褐色粘質土と褐鉄砂の混合層　小石大の泥岩、炭化物少量含む。粘性弱く、しまり強い。　Ⅱ面
55.　破砕泥岩層　泥岩粒から小石大の泥岩で占める、炭化物多く含む。粘性弱く、しまりややあり。(小穴)
56.　暗灰褐色粘質土　小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物多く含む。粘性弱く、しまり強い。
57.　灰褐色粘質土と褐鉄砂の混合層　54層より褐灰色砂多く、小石大の泥岩、炭化物微量含む。粘性弱く、しまり強い。Ⅱ面
58.　褐灰色砂質土　炭化物微量含む。
59.　暗灰褐色粘質土　小石大から拳大の泥岩多く、炭化物多く含む。粘性弱く、しまり強い。(小穴)
60.　暗灰褐色粘質土　小石大の泥岩微量、炭化物多く含む。粘性弱く、しまり強い。
61.　暗灰褐色粘質土　色調やや明るい。小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物非常に多く含む。粘性やや強く、しまり強い。(小穴)
62.　暗灰褐色粘質土　色調やや明るい。小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物非常に多く含む。粘性やや強く、しまり強い。(小穴)
64.　暗灰褐色粘質土　色調やや明るい。小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物非常に多く含む。粘性やや強く、しまり強い。(小穴)
65.　暗灰褐色粘質土　色調やや明るい。炭化物非常に多く含む。粘性泥岩粒子微量、しまり強い。(小穴79)

69. 黒褐色粘質土（小穴）
70. 暗灰色砂質土　やや暗め。粘性あり、しまり弱い。（小穴）
71. 灰褐色粘質土　泥岩粒から拳大の泥岩多く含む。　Ⅰb面
72. 暗灰褐色砂質土
73. 青灰色砂質土　褐鉄砂を含む。　Ⅲ面
92. 泥岩地行層
93. 黒褐色粘質土　泥岩粒から小石大の泥岩やや多い、炭化物多い、土師器粒含む
94. 泥岩地行
95. 黒褐色粘質土　貝殻微量含む。　Ⅲb面
98. 灰茶褐色粘質土　1cm～2㎝の泥岩粒、土師器片含む。しまり強い。　Ⅰa面
99. 暗灰褐色粘質土　5mm～2cmの泥岩、砂少量含む。粘性・しまり強い。
100. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩少量、炭化物含む。粘性・しまり強い。
101. 灰茶褐色粘質土　2～3cmの泥岩、炭化物やや、土師器片含む。粘性あり、しまり弱い。
102. 暗灰褐色粘質土　2mm～2cmの泥岩含む。粘性強く、しまりやや強い。
103. 暗灰褐色粘質土　1～5cmの泥岩含む。粘性強く、しまりあり。
104・105溝7覆土
106. 暗灰褐色粘質土　泥岩微量、炭化物、土師器片含む。粘性・しまり強い。
107. 暗灰褐色粘質土　2mm～10cmの泥岩少量、炭化物微量含む。粘性強く、しまりあり。　Ⅲa面
108. 黒灰褐色粘質土　泥岩微量、炭化物含む。粘性・しまり強い。
109. 黒灰褐色粘質土　泥岩微量、炭化物含む。粘性・しまり強い。（小穴）
110. 暗灰褐色砂質土　1cm～5㎝の泥岩粒含む。炭化物微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。（小穴136）
112. 暗灰褐色粘質土　泥岩少量、炭化物多く含む。粘性・しまり強い。
113. 暗灰化褐色粘質土　2mm～20cmの泥岩多い、炭化物少量、土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。（小穴）
114. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩含む。（底部に礎板あり）粘性強く、しまりあり。（小穴）
115. 暗灰褐色粘質土　2mm～5cmの泥岩、炭化物多く、土師器片含む。粘性・しまり強い。（小穴）
116. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩少量、炭化物含む。粘性・しまり強い。（小穴）
117. 暗灰褐色粘質土　2mm～5cmの泥岩、炭化物多く土師器片含む。粘性・しまり強い。（小穴）
118. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩多く、炭化物多く含む。粘性・しまり強い。（小穴108）
119. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩多く、炭化物多く含む。粘性・しまり強い。（小穴）
120. 灰褐色粘質土　2mm～10cmの泥岩多く含む。粘性・しまり強い。（小穴）
121. 暗灰褐色粘質土　2mm～10cmの泥岩、炭化物多く、土師器片含む。粘性強く、しまりやや弱い。（小穴）
122. 暗灰褐色粘質土　2mm～5cmの泥岩、炭化物多く含む。粘性やや強く、しまりあり。（小穴）
123. 暗灰褐色粘質土　2mm～10cmの泥岩、炭化物多く含む。土師器片含む。粘性、しまり強い。（小穴）
124. 暗灰褐色粘質土　2mm～3cmの泥岩含む。粘性やや強く、しまりあり。（小穴）
125. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩多く、炭化物含む。粘性強く、しまりあり。（小穴）
126. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩、炭化物、土師器片、砂を含む。粘性あり、しまりやや強い。（小穴）
127. 暗茶褐色粘質土　小粒の泥岩、やや大きい炭化物、土師器片含む。粘性強く、しまり弱い。（小穴）
128. 茶褐色弱粘質土　1～2cmの泥岩多量、炭化物含む。（小穴）
129. 黒灰褐色粘質土　泥岩微量、炭化物含む。粘性・しまり強い。（小穴）
130. 黄灰褐色砂　炭化物少量含む。粘性なし、しまり強い。（小穴）
131. 黄灰褐色砂　粘土粒含む。粘性なし、しまりあり。（小穴）
132. 黄灰褐色砂　色調やや暗い。炭化物少量含む。粘性なし、しまり強い。（小穴）
133. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩多く、炭化物多く、遺物片含む。粘性強く、しまりやや強い。（小穴）
Ⅰb面
134. 黒灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩多い、炭化物多い、極小さい土師器片少量含む。粘性・しまり強い。（小穴）
136. 暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩、炭化物」、土師器片含む。粘性あり、しまり強い。（小穴）
137. 暗灰褐色砂質土
138. 灰茶褐色粘質土　極小粒な泥岩多く、炭化物、極小粒な土師器片含む。粘性やや強く、しまりあり。（小穴）
139. 暗灰褐色弱粘質土　1～2cmの泥岩、炭化物含む。粘性、しまりやや弱い。（小穴）
140. 暗灰褐色粘質土　泥岩微量含む。炭化物含む。粘性強く、しまりあり。
141. 灰褐色粘質土　2mm～20㎝の泥岩多く含む。粘性、しまり強い。
142. 暗灰褐色粘質土　2mm～5cmの泥岩、炭化物含む。粘性・しまり強い。（小穴）
143. 明灰褐色粘質土　2mm～5cmの泥岩、炭化物微量、遺物片、木片含む。粘性強く、締まり弱い。（小穴）
145. 灰褐色粘質土　2mm～2cmの泥岩多く、炭化物多く、土師器片含む。粘性・しまり強い。（小穴135）
146. 暗灰褐色粘質土　2mm～5cmの泥岩、炭化物、木製品、貝殻含む。粘性強く、しまりあり。
147. 暗灰褐色粘質土　1～10cmの泥岩、炭化物微量、木製品、貝殻粒子含む。粘性・しまり強い。
148. 黒灰褐色砂質土　1～5cmやや多く、貝殻粒子含む。粘性なし、しまりあり。
149. 黒灰褐色粘質土　泥岩微量含む。炭化物含む。粘性強く、しまり強い。（小穴）
150. 黒灰褐色粘質土　140に似る。人頭大泥岩含む。（小穴）

基盤層

Ⅳ面以下が基盤層となる。調査地点一帯には古代遺構が存在していることが知られており、本地点においても中世層の調査中に古代の土器がしばしば出土した。そこで確認のため、2区西壁際に幅50㎝、深さ25㎝の深掘り坑を入れたが、遺構は検出しなかった。上記のように地山層は灰褐色～明茶褐色砂層で、土質的には由比ヶ浜海岸地帯の最北端に位置することを示している。上面はおおむね水平で、標高は6.90m前後にある。

２．調査区壁面からの出土遺物

調査区西壁出土遺物（図５）

常滑甕（1）　**特記事項**：溝４堆積土最上面から出土。口縁部を欠くが、層位からいっても鎌倉時代前期～中期のものとみていい

調査区南壁出土遺物（図５）

竜泉窯米色青磁鎬蓮弁文折縁鉢（2）　**特記事項**：Ⅰa面またはⅠ面上層の土坑から出土。遺物自体はおおむね13世紀後半～14世紀初頭。

第２節　各説

１．Ⅰa面上層

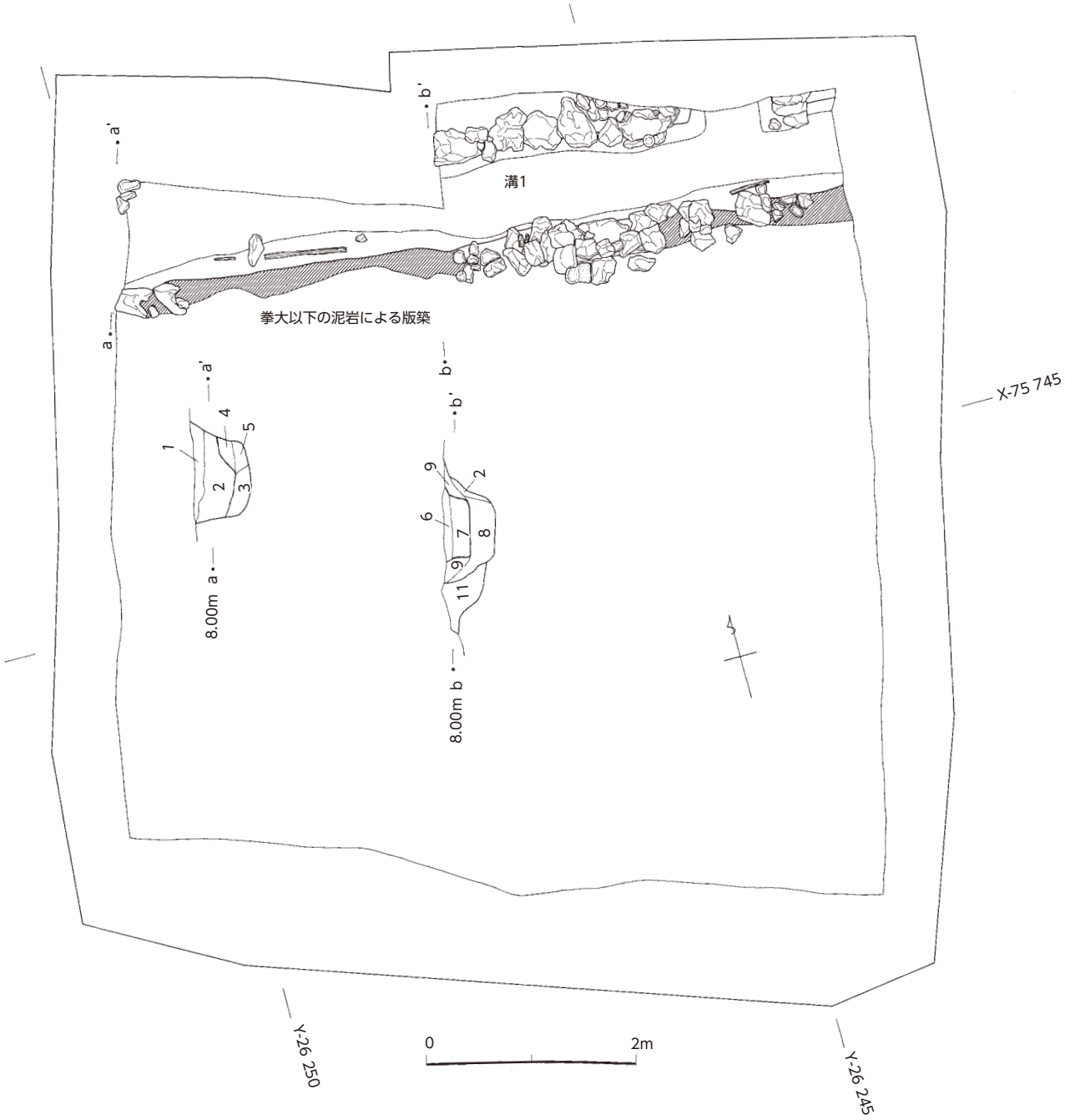
溝１（図６・７）

位置：X－(75 740.92）～－(75 742.65)　Y－(26 242.75) ～－(26 249.90)　**断面形**：逆台形　**規模**：幅(2.05)㎝×長さ(7.19)㎝×深さ(52)㎝　**主軸方位**：N－82°－W　**流下方向**：西→東　**出土遺物（図７）**：土師器皿R種小型（1 ～ 3）・土師器皿R種大型（4・5）・白色系土師器皿R種大型（6）・瓦器火鉢（7）・尾張型山茶碗（8）・常滑片口鉢Ⅰ類（9）・常滑片口鉢Ⅱ類（10 ～ 12）・常滑甕（13 ～ 15）・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（16）　**溝１裏込め出土遺物（図７）**：土師器皿R種小型（17・18）・土師器皿R種極小型（19）・常滑片口鉢Ⅰ類（20）・常滑甕（21）・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（22）・高島硯（23）　**特記事項**：検出そのものはⅠa面でできたが、本址南側のⅠa面北域は後世の削平で失われており、帰属する面を確認できない。Ⅰa面よりもさらに上層から切り込まれている可能性が否定できないため、分離してここに提示した。細長い板材が南壁際に残っており、また土層断面によっても掘り方と溝本体の区別が明瞭なため、木枠があった可能性は高い。両岸に非整形の人頭大泥岩による雑然とした石積みと拳大以下の泥岩による版築が見られ、土塁もしくは築地の存在していた可能性を示唆する。西の山側から東に向かって流下する。また調査区東壁近くで北に向かう分流がある。出土遺物の年代は全体的に13世紀中葉～第３四半期を示すが、本遺跡での最上層の遺構なので鎌倉時代中期まで遡及させるのは無理があろう。ただし構造からみても、南北朝には下らないと考えたい。

２．Ⅰa面

Ⅰa面出土遺物（図８～10）

土師器皿R種小型（1 ～ 16）・土師器皿R種大型（17 ～ 23）・土師器皿R種極小型（24）・白色系土師器皿T種（25）・瓦器火鉢（26 ～ 30）・瀬戸入子（31）・ふいご羽口（32・33）・亀山甕（34・35）・丸瓦（36）・尾張型山茶碗（37 ～ 40）・常滑片口鉢Ⅰ類（41 ～ 49）・常滑片口鉢Ⅱ類（50 ～ 55）・常滑鳶口壺（56）・常滑甕（57 ～ 65）・常滑片加工品（66）・褐釉双耳広口小壺（67）・白磁口はげ皿（68 ～ 71）・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（72 ～ 77）・青白磁合子（78・79）・滑石鍋（80）・硯（81）・砥石仕上げ砥（82）・滑石鍋加工品（83）・敲打痕ある石（84）・軽石製円盤（85）・鉄製小皿（86）・刀子（87）・鉄製火箸（88）・鉄製掛け金具（89）・鉄釘（90 ～ 113）・淳化元宝（114）・景徳元宝（115・116）・祥符元宝（117）・天聖元宝（118 ～ 120）・皇宋通宝（121 ～ 123）・嘉祐通宝（124）・治平元宝（125）・熙寧元宝（126 ～ 130）・元豊通宝（131・132）・元祐通宝（133）・紹聖元宝（134・135）・元符通宝（136）・政和通宝（137）・宣和通宝（138）・淳祐元宝（139）・銭（140 ～ 142）　**特記事項**：遺物年代は全体に13世紀後半を示す



1．暗灰褐色粘質土　2mm～1cmの泥岩、炭化物少量含む。粘性強くしまりあり。
2．明灰褐色土　2mm～10cmの泥岩多く、炭化物少量、土師器片含む。粘性やや弱く、しまり強い。（改修後の溝）
3．明灰褐色土　2mm～10cmの泥岩多く、炭化物少量含む。粘性弱く、しまり強い。
4．明灰褐色土　2mm～10cmの泥岩、炭化物少量含む。粘性やや弱く、しまり強い。（改修時裏込め）
5．明灰褐色土　2mm～10cmの泥岩多く、炭化物少量含む。粘性やや弱く、しまり強い。（裏込め）
6．黄灰色砂質土　泥岩粒多く、炭化物少量含む。粘性ややあり、しまり強い。
7．黄灰色砂質土　炭化物多い。（改修後の溝）
8．黄灰褐色砂質土　泥岩少量、炭化物多い。
9．黄灰色砂質土　炭化物少量含む。（改修時裏込め）
10．黄灰褐色砂質土　3層より泥岩少ない。（裏込め）
11．暗茶褐色粘質土　人頭大の泥岩含む。（裏込め）

図6　Ⅰa面上層 溝1

建物1（図11）

位置：X－75 744.94～－75 747.75　Y－26 245.30～－26 247.94　**平面形**：方形　**規模**：東西234cm×南北266cm（1×1間）　**主軸方位**：N－11°－E　**重複関係**：方形土坑1・同2を切る　**出土遺物**：(P.1) 竜泉窯青磁鎬蓮弁文鉢 (1)・(同) 砥石中砥 (2)・(P.2) 皇宋通宝 (3)・(P.4) 開元通宝 (4)　**特記事項**：東南方向に延びる可能性がある。北面と西面は後述の柱穴列1に遮られるので、屋敷地の北西角に位置す

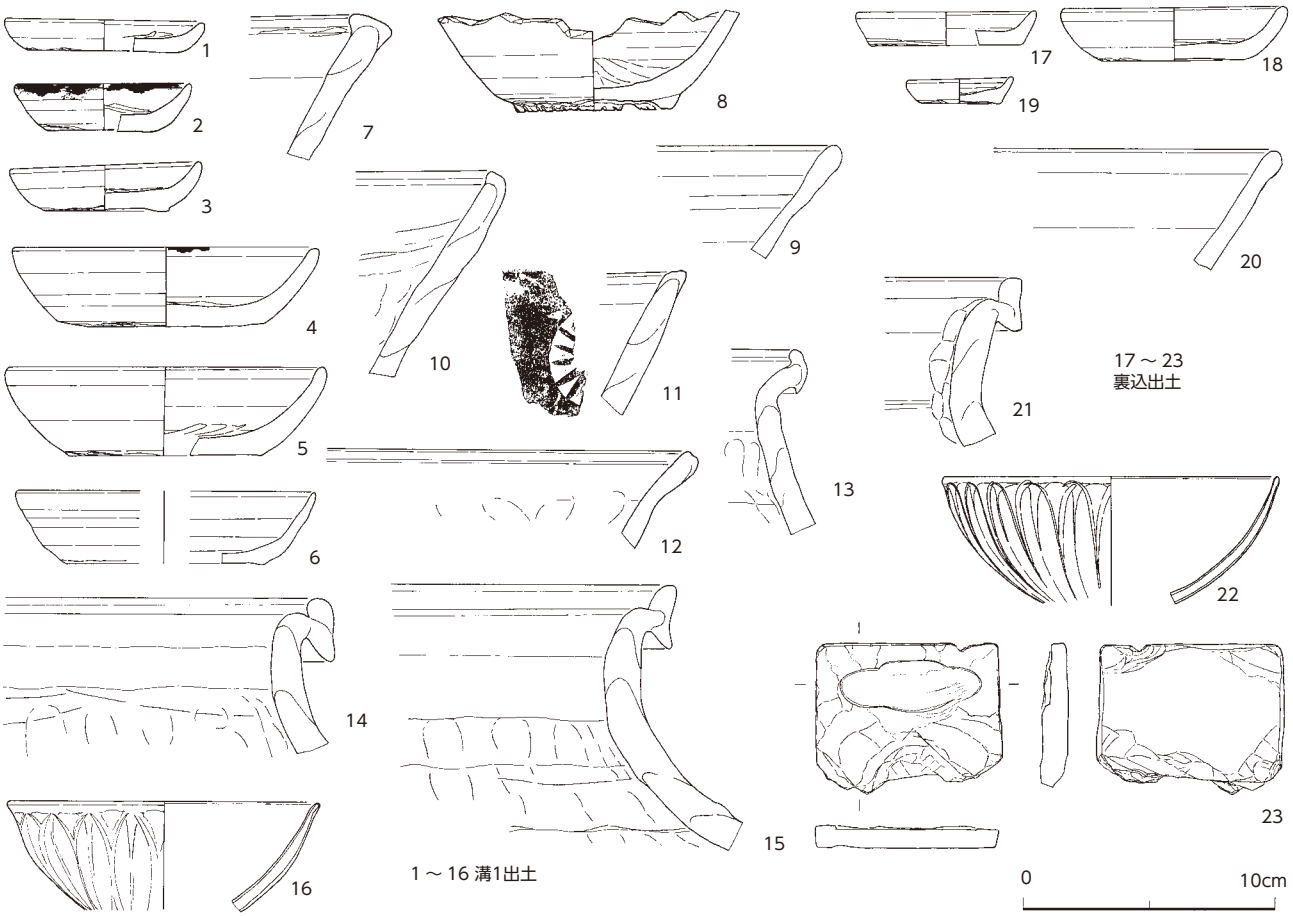


図７　溝１・同裏込め出土遺物

ることになる。後述の方形土坑１・２を切るが、同時存在の可能性もある。となれば屋敷地の北西隅にあって、建物から半分ほど外に出た落ち込みを持つ建物ということになる。落ち込みはやや浅いが、便槽の可能性も視野に入れておきたい。柱穴からの出土遺物の年代は13世紀後半。

建物２（図11）

位置：X－(75 744.12)～－(75 746.76)　Y－(26 248.26)～－(26 250.95)　**平面形**：方形　**規模**：東西(226)㎝×南北(247)㎝（２×１間）　**主軸方位**：N－12°－E　**重複関係**：土坑７と重なるが新旧は確認できず　**出土遺物**：(P.4) 土師器皿R種小型（5）　**特記事項**：東西は半分の柱間で２間となる。次述土坑７が付属するとなると、これも小規模な張り出し的建物に、半分ほど外に出た落ち込みを持つ建物ということになる。水槽または便槽の可能性あるか。5の土師器小皿は13世紀後半～14世紀初頭に属する。

土坑７（図11）

位置：X－75 743.45～－75 746.41　Y－26 249.30～－26 250.40　**平面形**：長楕円形　**断面形**：逆台形　**規模**：長さ（南北）300㎝×幅（東西）78㎝×深さ40㎝　**主軸方位**：N－11°－E　**重複関係**：建物２と重なるが新旧は確認できず　**出土遺物**：土師器皿R種小型（6・7）・ふいご羽口（8）・尾張型山茶碗（9）・常滑片口鉢片加工品（10）・白磁口はげ皿（11）・骨製笄（12）　**特記事項**：独立した遺構として名称を付したものの、位置からいって建物２との関連が強く窺える。その場合北半分が建物外にあることになるが、位置的にみて便槽の可能性を視野に入れておきたい。遺物年代は全体的には13世紀後半だが、9の山茶碗は同中葉までさかのぼる。

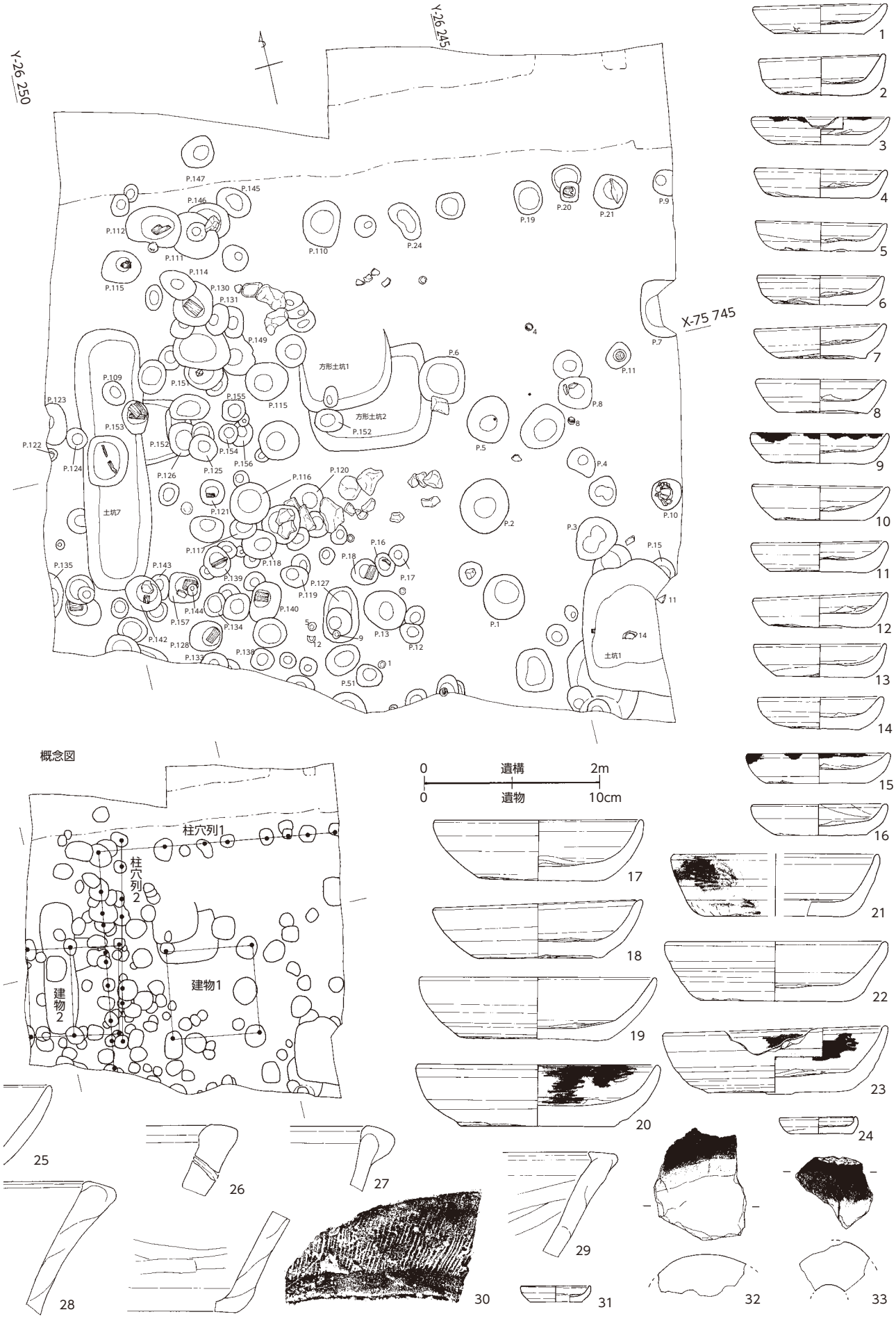


図８　Ⅰａ面遺構全図、Ⅰａ面出土遺物（１）

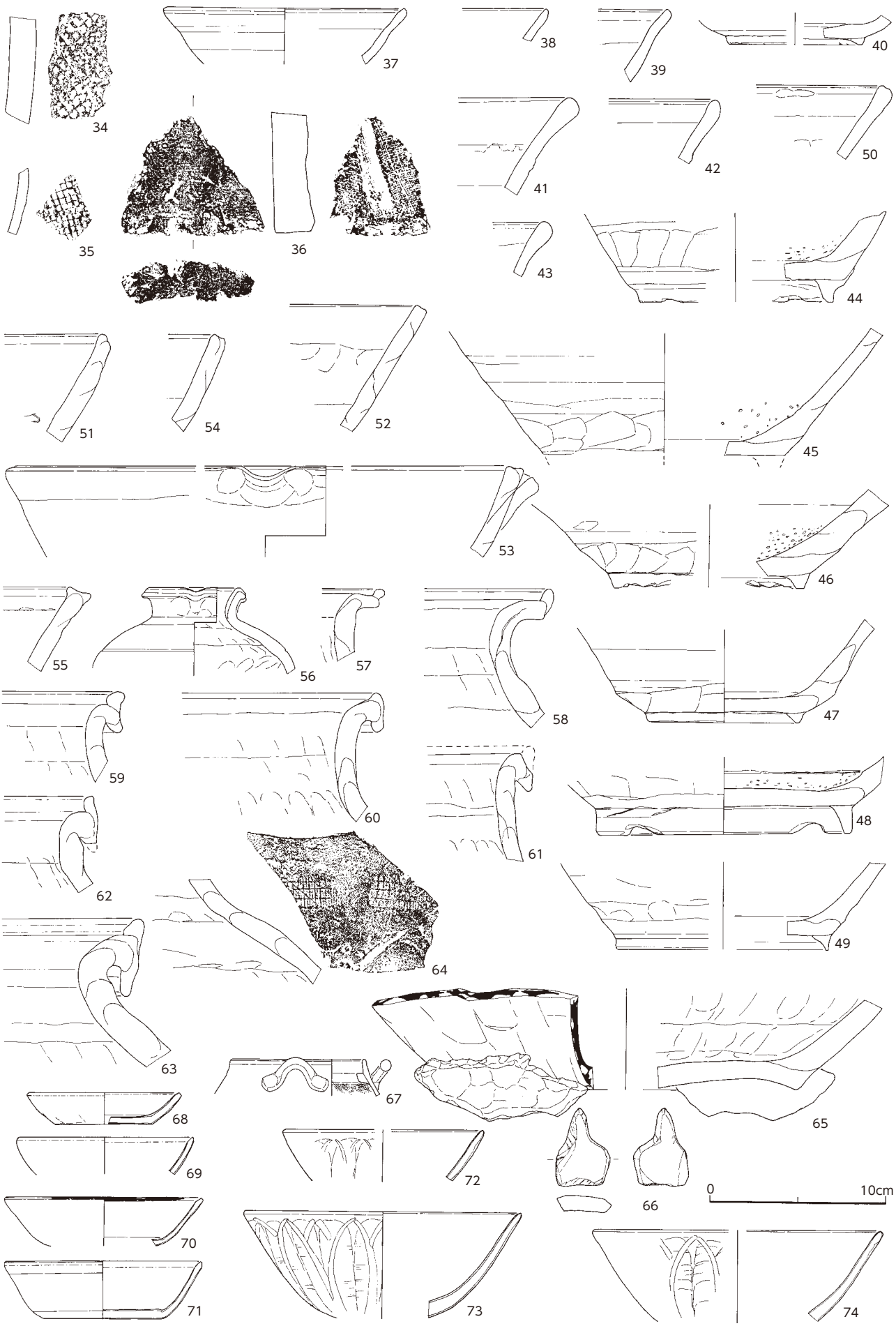
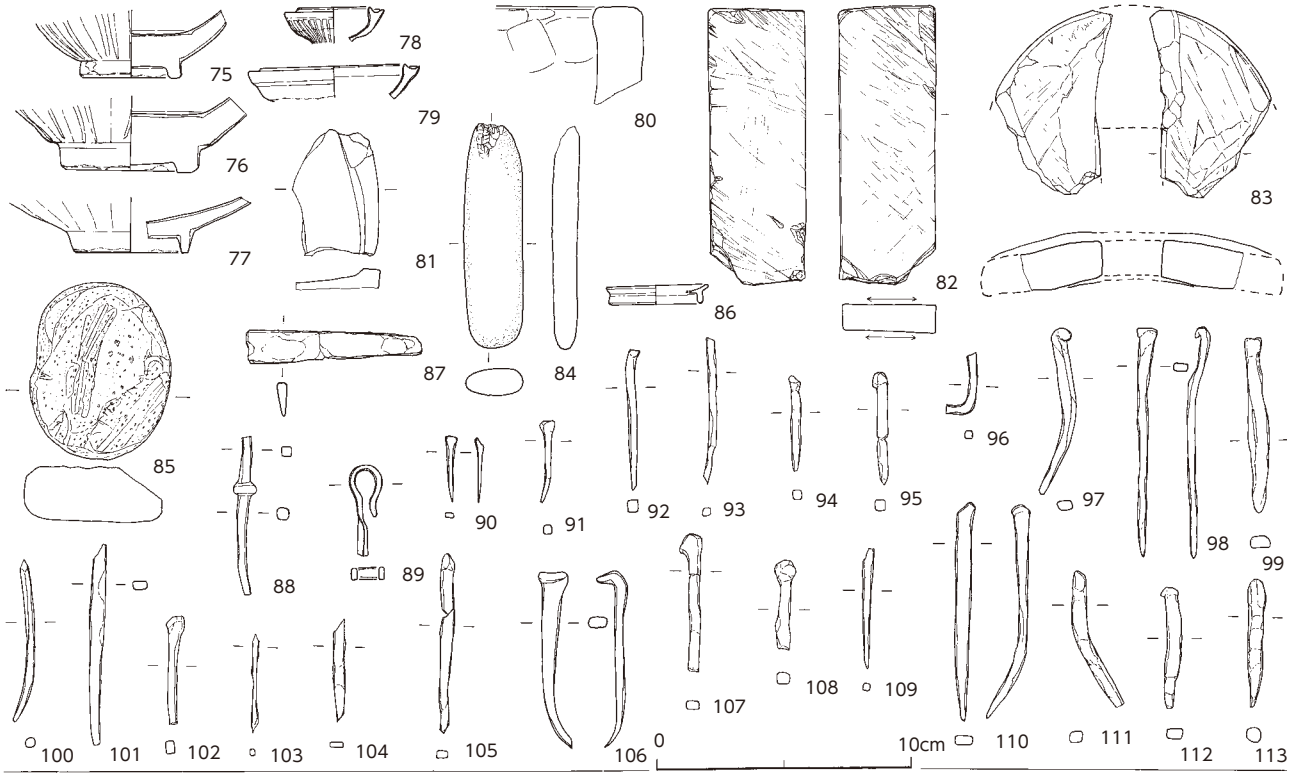
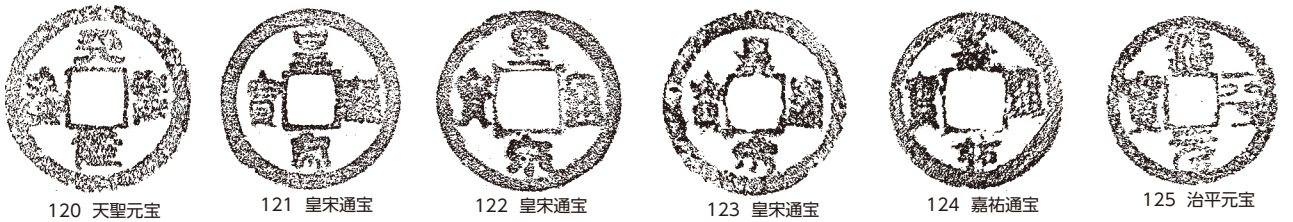
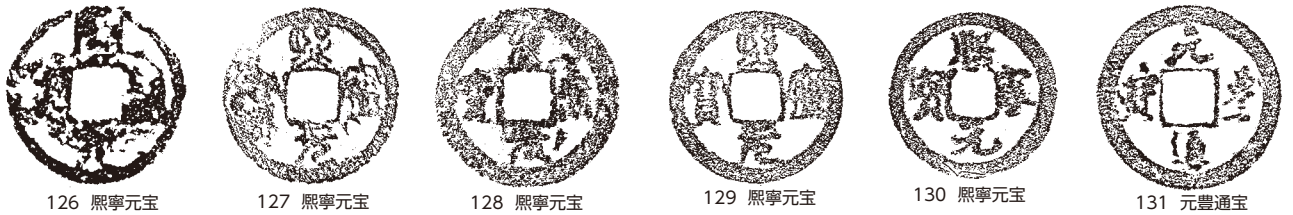

34
35
36
37
38
39
40
41
42
50
43
44
51
54
52
45
53
46
55
56
57
58
47
59
60
61
48
62
64
49
63
67
68
65
69
72
66
0
10cm
70
71
73
74

図9　Ⅰa面出土遺物（2）

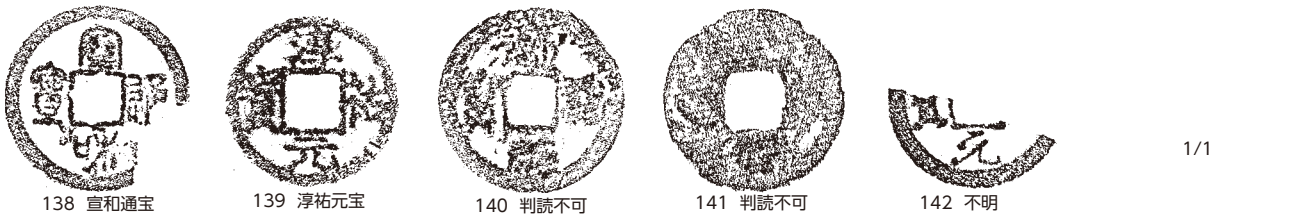


114 淳化元宝　115 景德元宝　116 景德元宝　117 祥符元宝　118 天聖元宝　119 天聖元宝


120 天聖元宝　121 皇宋通宝　122 皇宋通宝　123 皇宋通宝　124 嘉祐通宝　125 治平元宝

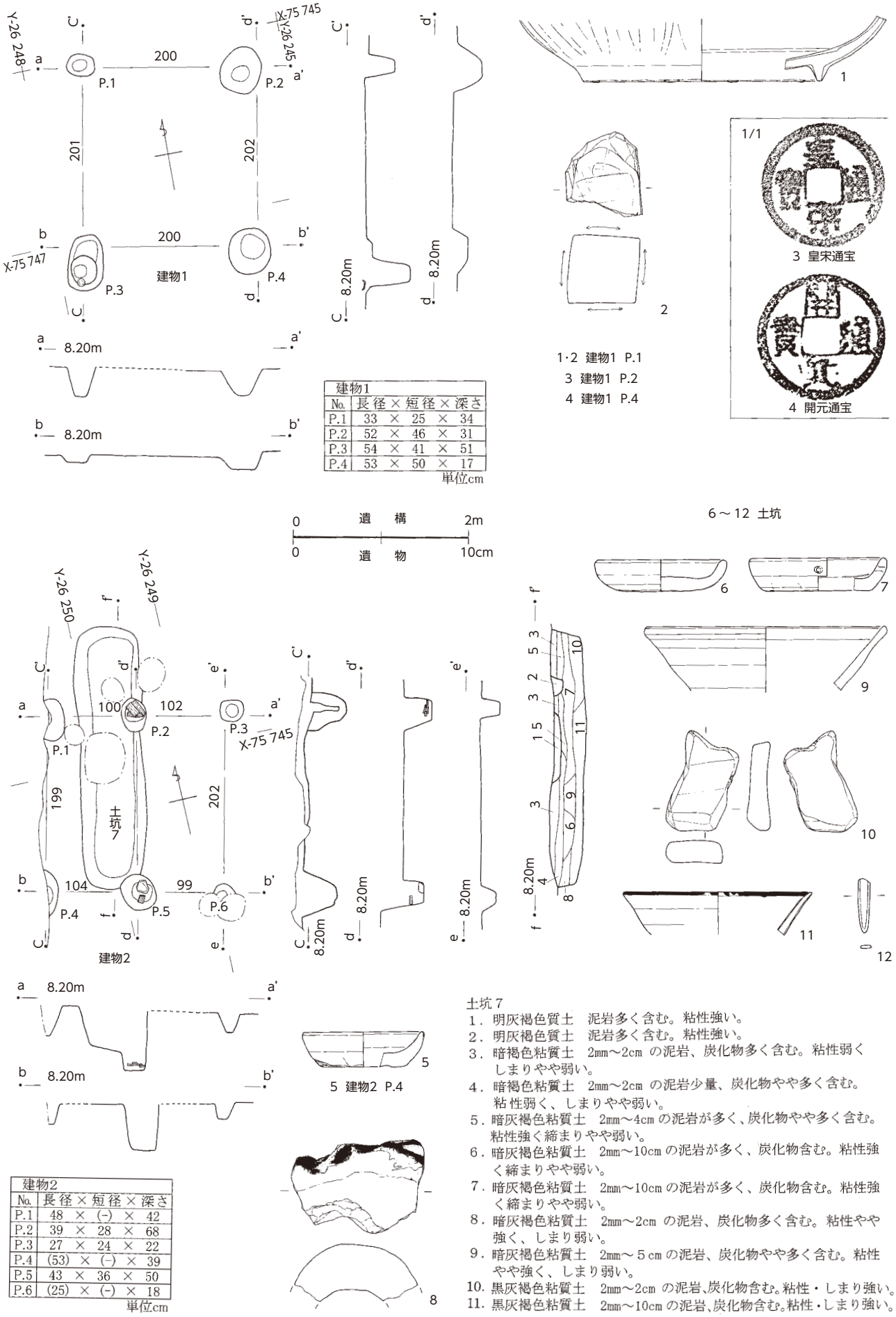

126 熙寧元宝　127 熙寧元宝　128 熙寧元宝　129 熙寧元宝　130 熙寧元宝　131 元豊通宝

132 元豊通宝　133 元祐通宝　134 紹聖元宝　135 紹聖元宝　136 元符通宝　137 政和通宝


138 宣和通宝　139 淳祐元宝　140 判読不可　141 判読不可　142 不明

1/1

図10　Ⅰa面出土遺物（3）



建物1						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	33	×	25	×	34
P.2	52	×	46	×	31
P.3	54	×	41	×	51
P.4	53	×	50	×	17

単位cm

建物2						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	48	×	(-)	×	42
P.2	39	×	28	×	68
P.3	27	×	24	×	22
P.4	(53)	×	(-)	×	39
P.5	43	×	36	×	50
P.6	(25)	×	(-)	×	18

単位cm

土坑７

1．明灰褐色質土　泥岩多く含む。粘性強い。
2．明灰褐色質土　泥岩多く含む。粘性強い。
3．暗褐色粘質土　2mm～2cm の泥岩、炭化物多く含む。粘性弱くしまりやや弱い。
4．暗褐色粘質土　2mm～2cm の泥岩少量、炭化物やや多く含む。粘性弱く、しまりやや弱い。
5．暗灰褐色粘質土　2mm～4cm の泥岩が多く、炭化物やや多く含む。粘性強く締まりやや弱い。
6．暗灰褐色粘質土　2mm～10cm の泥岩が多く、炭化物含む。粘性強く締まりやや弱い。
7．暗灰褐色粘質土　2mm～10cm の泥岩が多く、炭化物含む。粘性強く締まりやや弱い。
8．暗灰褐色粘質土　2mm～2cm の泥岩、炭化物多く含む。粘性やや強く、しまり弱い。
9．暗灰褐色粘質土　2mm～５cm の泥岩、炭化物やや多く含む。粘性やや強く、しまり弱い。
10．黒灰褐色粘質土　2mm～2cm の泥岩、炭化物含む。粘性・しまり強い。
11．黒灰褐色粘質土　2mm～10cm の泥岩、炭化物含む。粘性・しまり強い。

図11　Ⅰa面建物１・２、土坑７、同出土遺物

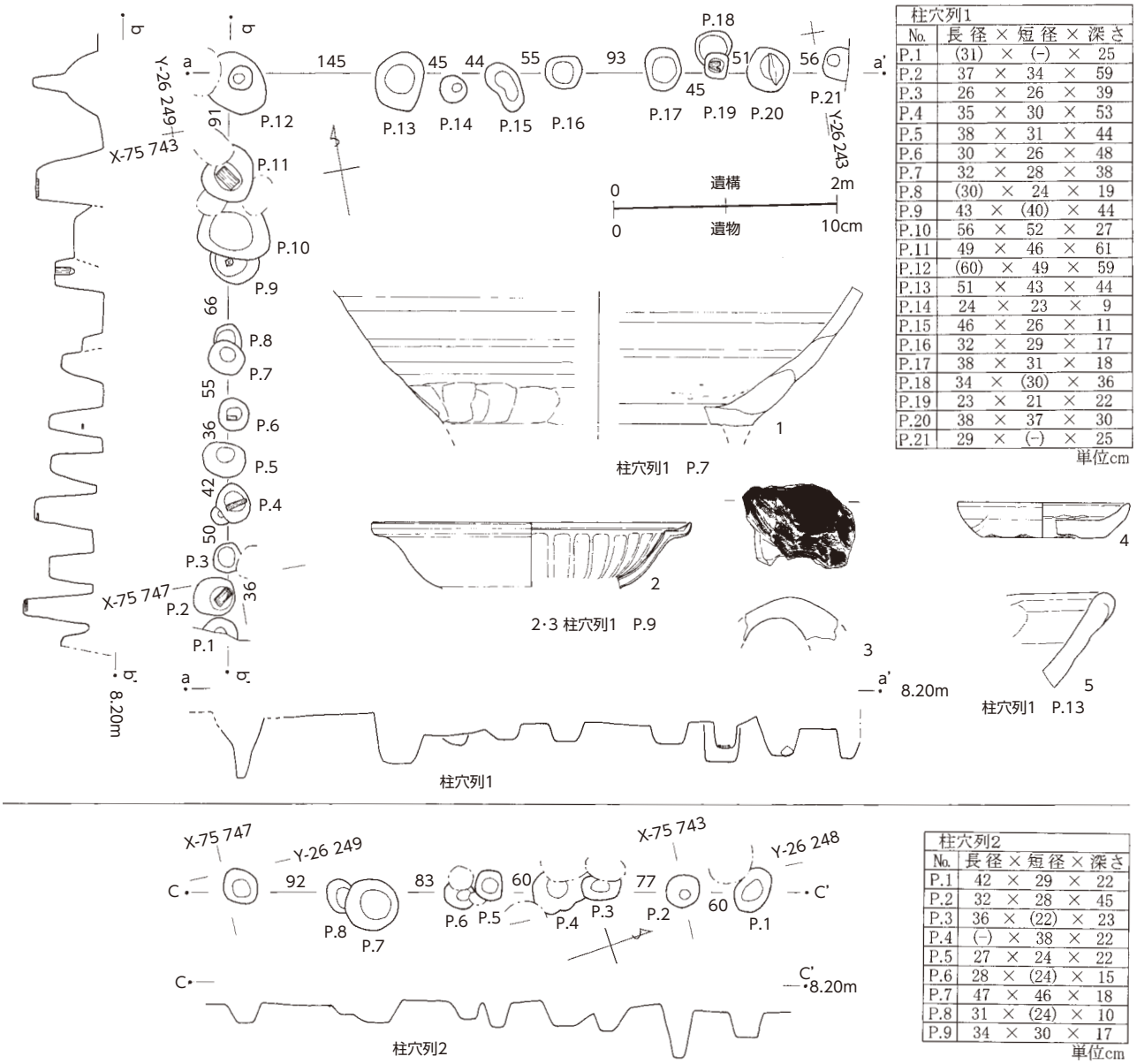


図12　Ⅰa面柱穴列１・２、柱穴列１出土遺物

柱穴列１（図12）

位置：X－75.742 33 ～－75.747 55　Y－(26.24 240) ～－(26.249 42)　**平面形**：カギ形　**規模**：東西5.63ｍ×南北5.24ｍ（５×６間）　**主軸方位**：N－9°－E　**出土遺物**：(P.7) 常滑片口鉢Ⅰ類 (1)・(P.9) 竜泉窯青磁陰刻蓮弁文折縁鉢 (2)・(同) ふいご羽口 (3)・(P.11) 土師器皿R種小型 (4)・(P.13) 常滑片口鉢Ⅰ類 (5)　**特記事項**：通常の半間よりもさらに短い間隔で柱が並ぶ。時期の重複が考えられるが、分別が困難なためひとまず同一遺構として提示する。屋敷地の北と西を画する塀のようなものか。遺物年代は13世紀後半。

柱穴列２（図12）

位置：X－75 742.19 ～－75 747.02　Y－26 247.65 ～－26 249.02　**平面形**：直線　**規模**：南北495㎝（５間）　**主軸方位**：N－13°－E　**重複関係**：建物２に切られる　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：柱穴列１とは異なり、北側の溝沿いに列が見られない。あるいは、調査区北辺を流れる溝が

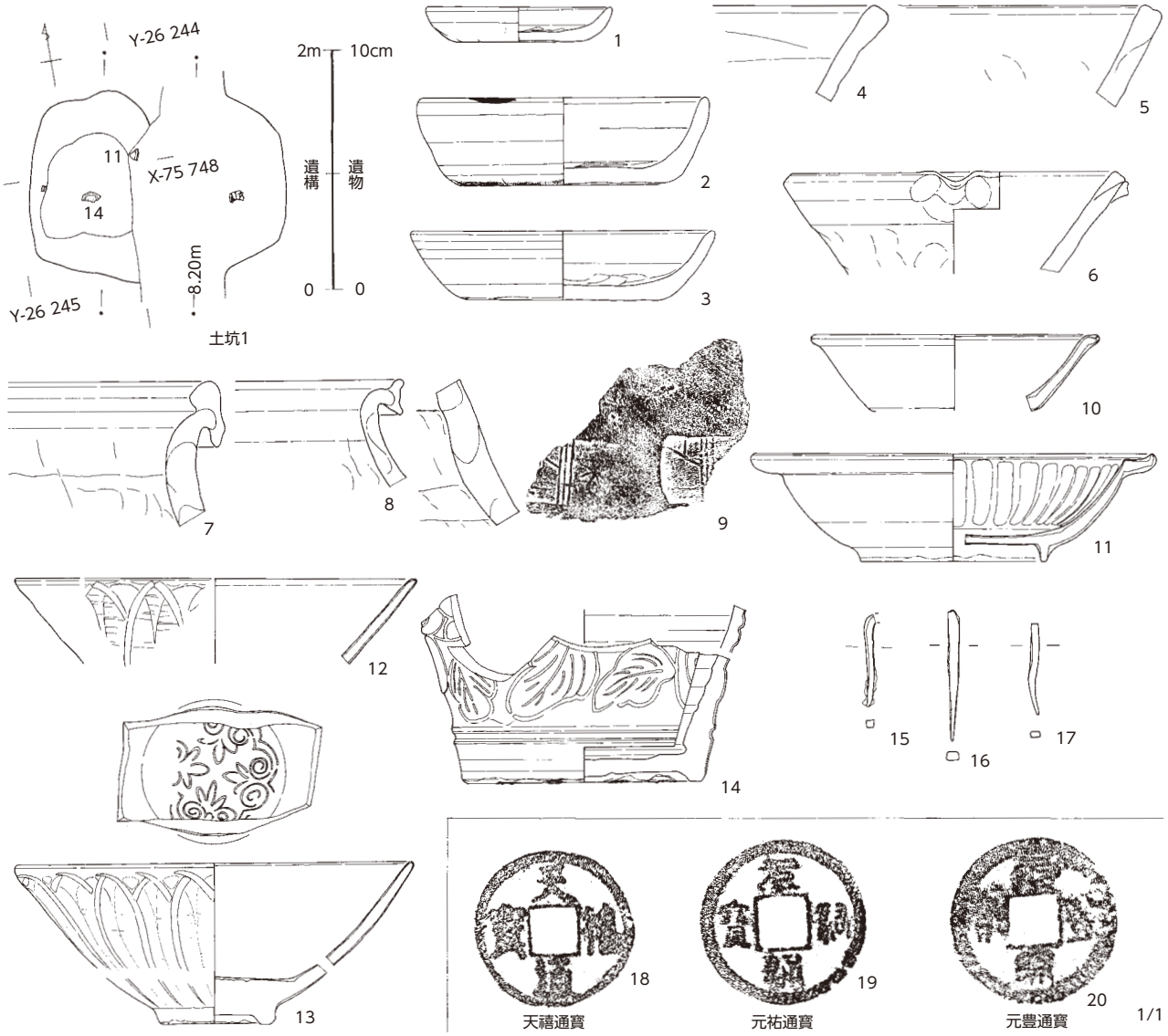


図13　Ⅰa面土坑1、同出土遺物

この時期には北側に移動しており、本来それに沿って存在していた柱列が、後世の溝1によって消滅させられた可能性がある。出土遺物に乏しく年代判定の根拠を欠くが、おおむね13世紀後半とみて大過ない。

土坑1（図13）

位置：X－75 747.44 ～－(75 749.04)　Y－(26 243.73) ～－26 244.90　**平面形**：隅丸長方形　**断面形**：逆台形、または深皿形　**規模**：南北（長辺）162㎝×東西（115）㎝×深さ65㎝　**主軸方位**：N－6°－W　**重複関係**：P.15ほかを切る　**出土遺物**：土師器皿R種小型（1）・土師器皿R種大型（2・3）・常滑片口鉢Ⅰ類（4）・常滑片口鉢Ⅱ類（5・6）・常滑甕（7 ～ 9）・竜泉窯青磁無文折縁鉢（10）・竜泉窯青磁陰刻蓮弁文折縁鉢（11）・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（12）・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（13）・青白磁梅瓶（14）・鉄釘（15 ～ 17）・天禧通宝（18）・元祐通宝（19）・元豊通宝（20）　**特記事項**：遺物は多く、なかでも貿易陶磁が目立つ。14の梅瓶は彫りの深い牡丹唐草文で、13世紀前半代に遡る可能性があるが、遺物の全体的な年代は13世紀第3四半期だろう。

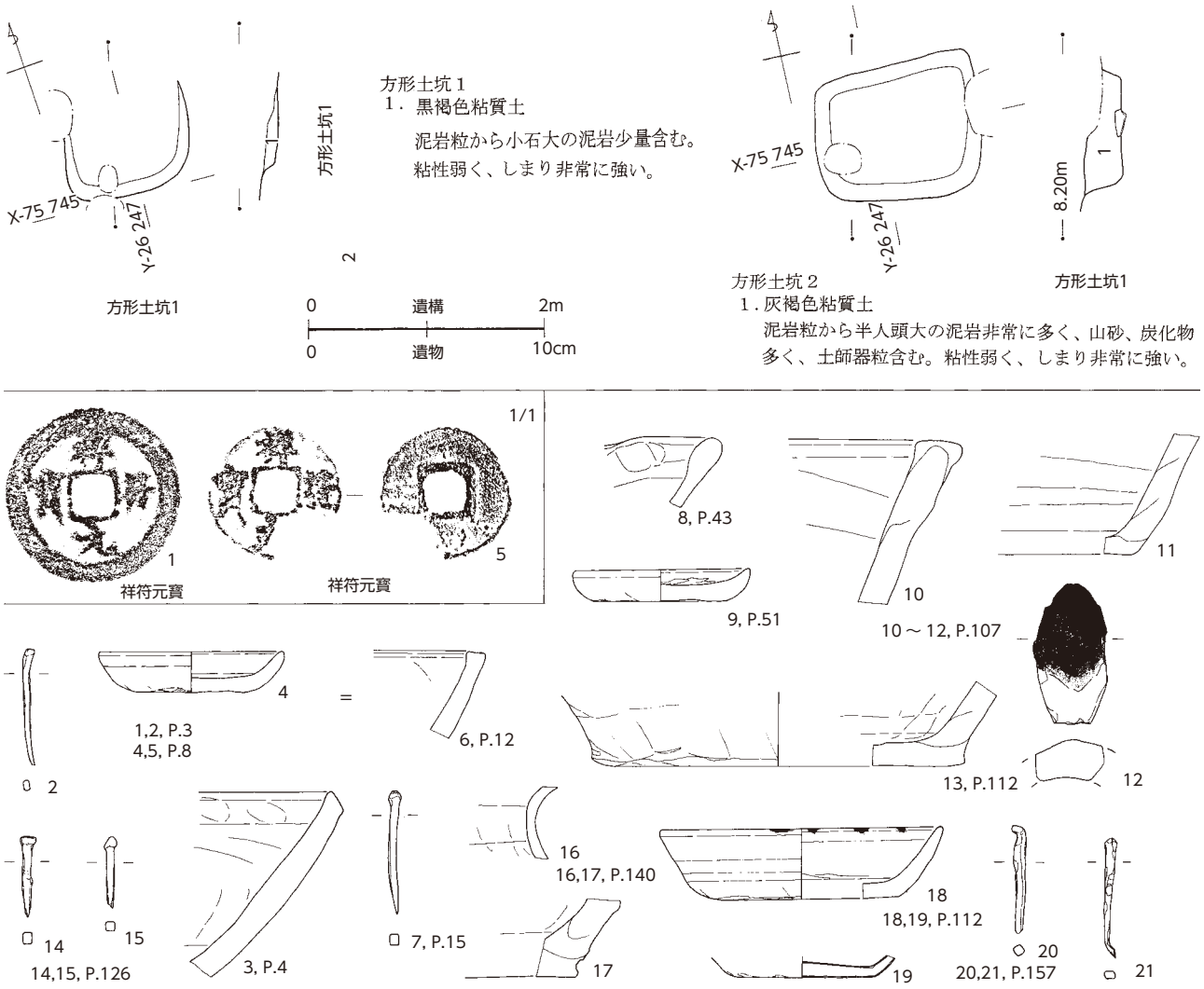


図14　Ⅰa面方形土坑１・２、Ⅰa面小穴出土遺物

方形土坑１（図14）

位置：X－(75 744.22)～－75 745.00　Y－26 246.10～－26 247.58　**平面形**：隅丸長方形　**断面形**：浅い逆台形　**規模**：東西（長辺）107㎝×南北(81)㎝×深さ12㎝　**主軸方位**：N－85°－E　**重複関係**：方形土坑２を切る　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：方形土坑２に重なるが性格不明。出土遺物はなく、年代の判断も難しい。

方形土坑２（図14）

位置：X－75 744.42～－75 745.55　Y－26 246.10～－26 247.55　**平面形**：隅丸方形　**断面形**：逆台形　**規模**：東西（長辺）144㎝×南北115㎝×深さ34㎝　**主軸方位**：N－80°－E　**重複関係**：方形土坑２に切られる　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：やはり性格・年代とも不明だが、屋敷地西北の隅近くに位置するとすれば、例えば便槽のようなものも視野に入れておくべきだろう。

Ⅰa面小穴出土遺物（図14）

（P.3）祥符元宝（1）・（同）鉄釘（2）・（P.4）常滑片口鉢Ⅱ類（3）・（P.8）土師器皿R種小型（4）・（同）祥符元宝（5）・（P.12）常滑片口鉢Ⅱ類（6）・（P.15）鉄釘（7）・（P.43）常滑片口鉢Ⅰ類（8）・（P.51）土師器

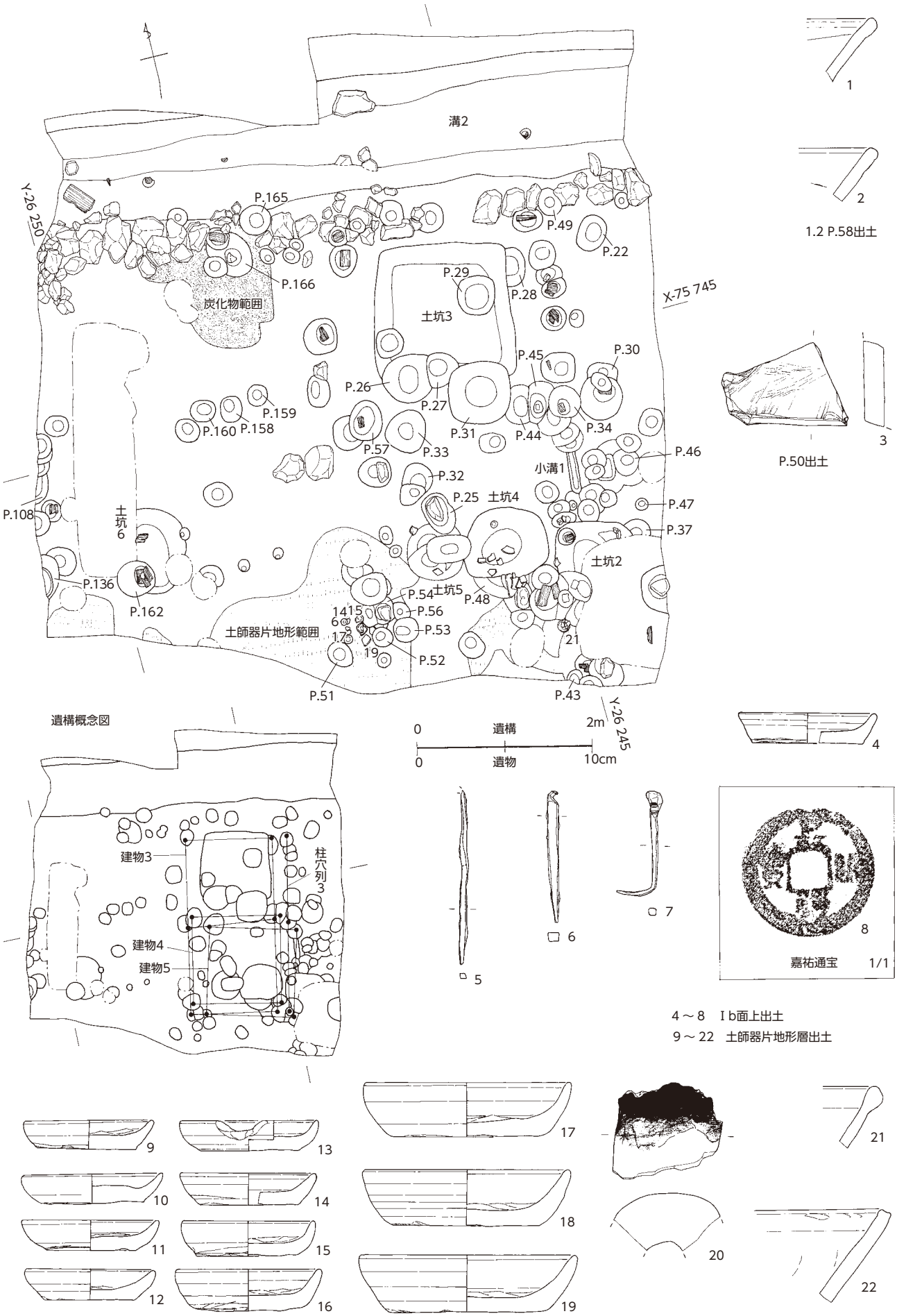


図15 Ｉb面遺構全図、同出土遺物、土師器片地形出土遺物

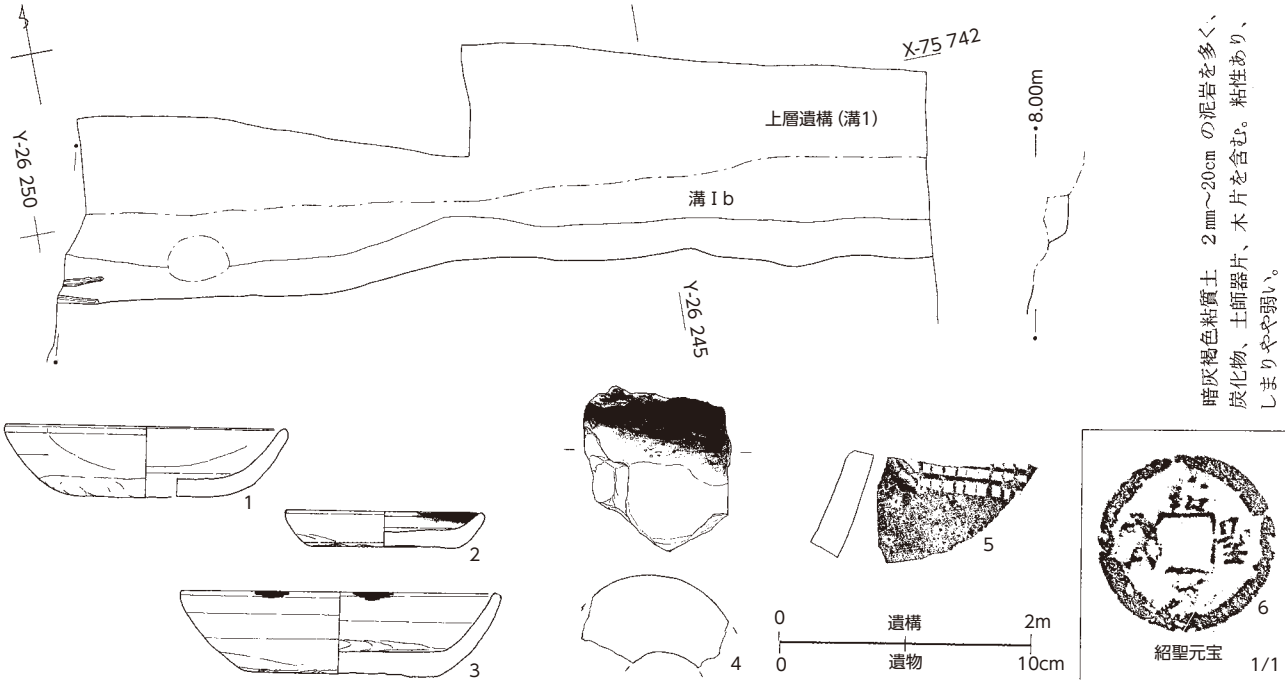


図16　Ｉb面溝１b、同出土遺物

皿Ｒ種小型（9）・（P.107）瓦器火鉢（10）・（同）瓦器火鉢（11）・（同）ふいご羽口（12）・（P.112）常滑甕（13）・（P.126）鉄釘（14）・（同）鉄釘（15）・（P.140）南伊勢系土鍋（16）・（同）常滑片口鉢Ⅱ類（17）・（P.147）土師器皿Ｒ種大型（18）・（同）白磁口はげ皿（19）・（P.157）鉄釘（20）・（同）鉄釘（21）　**特記事項**：全体的な年代は13世紀中葉～第３四半期といえる

３．Ｉb面

Ｉb面小穴出土遺物（図15）

（P.58）常滑片口鉢Ｉ類（1・2）・（同）砥石仕上砥（3）　**特記事項**：1・2は13世紀中葉～第３四半期

Ｉb面面上出土遺物（図15）

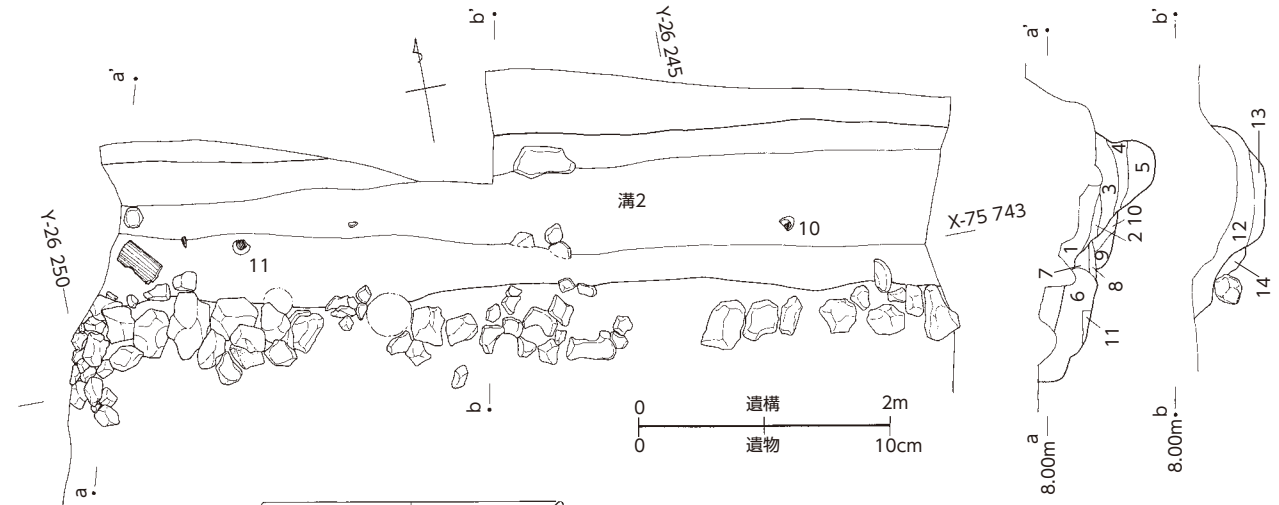
土師器皿Ｒ種小型（4）・鉄釘（5～7）・銭（8）　**特記事項**：4は13世紀第２四半期または中葉とすべきであろう

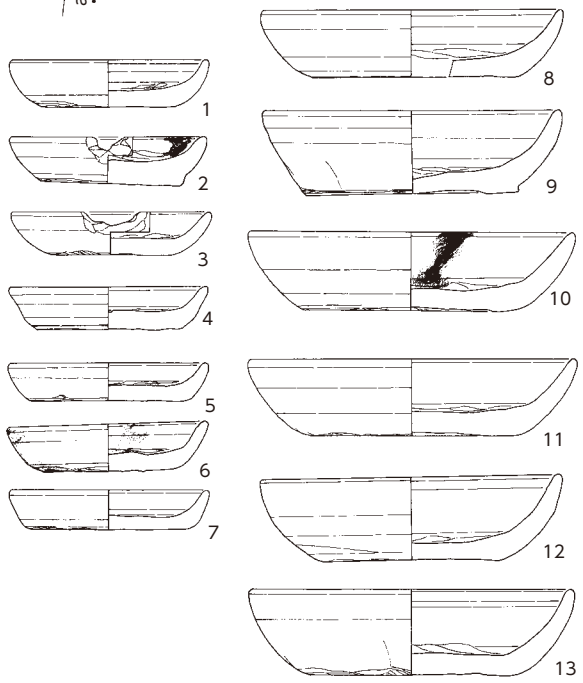
Ｉb面土師器片地形出土遺物（図15）

土師器皿Ｒ種小型（9～16）・土師器皿Ｒ種大型（17～19）・ふいご羽口（20）・常滑片口鉢Ｉ類（21）・常滑片口鉢Ⅱ類（22）　**特記事項**：土師器皿は全体に器高低く、やや厚手の器肉を持つ。13世紀第２四半期または中葉とみていい。

溝1b（図16）

位置：X－(75 741.16)～－(75 743.55)　Y－(26 242.76)～－(26 249.95)　平面形：ほぼ直線　**断面形**：逆台形　**規模**：幅（1.70）m×深さ34㎝　**主軸方位**：N－84°－W　**流下方向**：西→東　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種大型（１）・土師器皿Ｒ種小型（2）・土師器皿Ｒ種大型（3）・ふいご羽口（4）・常滑甕（5）・紹聖元宝（6）　**特記事項**：何度も掘り直されている溝と面の対応関係を確実に把握するのは難しいが、層位の相対的な関係から本址が当該面にともなうものと判断した。調査区西壁際の南岸に溝枠部材が残存してい





1．明灰褐色粘質土　2mm～10cm の泥岩多く、炭化物土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。
2．明灰褐色粘質土　2mm～10cm の泥岩非常に多く、炭化物、土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。
3．明灰褐色粘質土　2mm～10cm の泥岩が２層より更に多く、炭化物、土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。
4．黒灰褐色粘質土　2mm～5cm の泥岩多く、貝殻、木片含む。粘性しまり強い。
5．黒灰褐色粘質土　2～10cm の泥岩、貝殻粒含む。粘性、しまり強い。
6．暗灰褐色粘質土　2mm～30cm の泥岩多く、土師器片含む。粘性、しまり強い。(裏込め)
7．暗灰褐色粘質土　2mm～５mm の泥岩非常に多い。粘性、しまり強い。(裏込め)
8．暗灰褐色粘質土　2mm～５cm の泥岩含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
9．暗灰褐色粘質土　2mm～１0cm の泥岩多く含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
10. 暗灰褐色粘質土　2mm～５cm の泥岩含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
11. 暗灰褐色粘質土　2mm～１cm の泥岩含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
12. 暗灰褐色粘質土　泥岩粒から小石大の泥岩非常に多く、炭化物多く含む。
13. 暗青灰色粘質土　拳大の泥岩やや多く、貝殻若干含む。
14. 黒褐色粘質土　炭化物を多く含む。(裏込め)

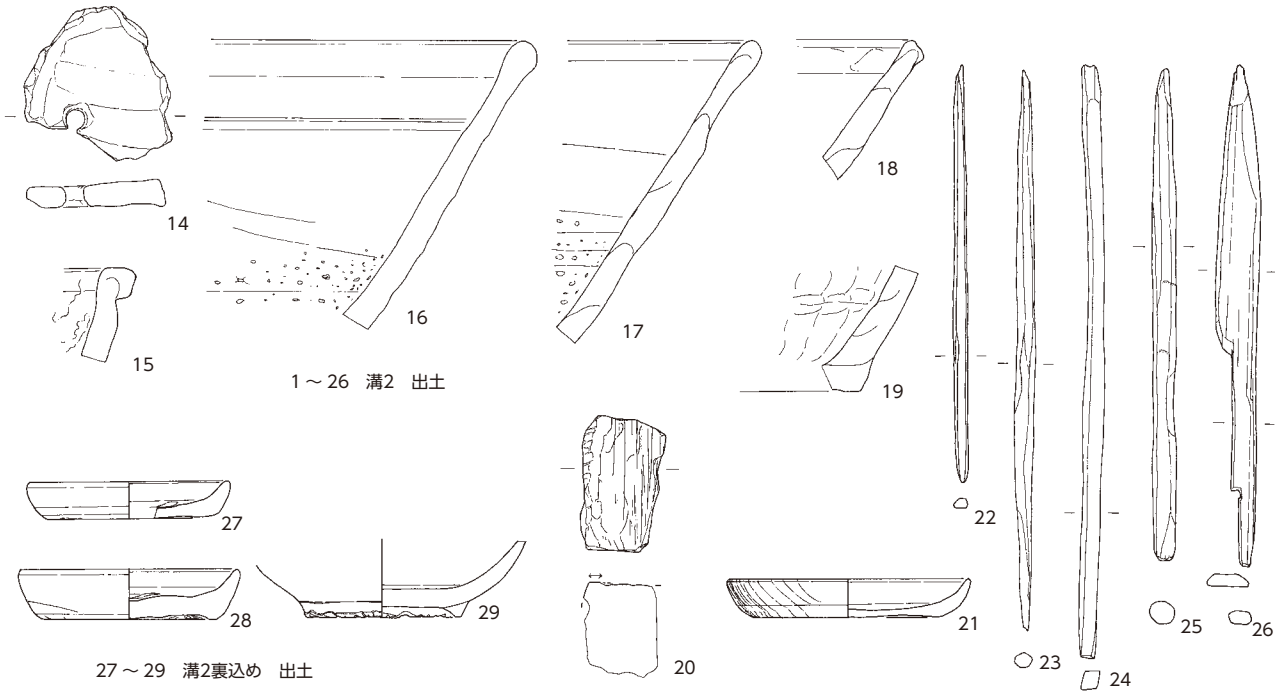
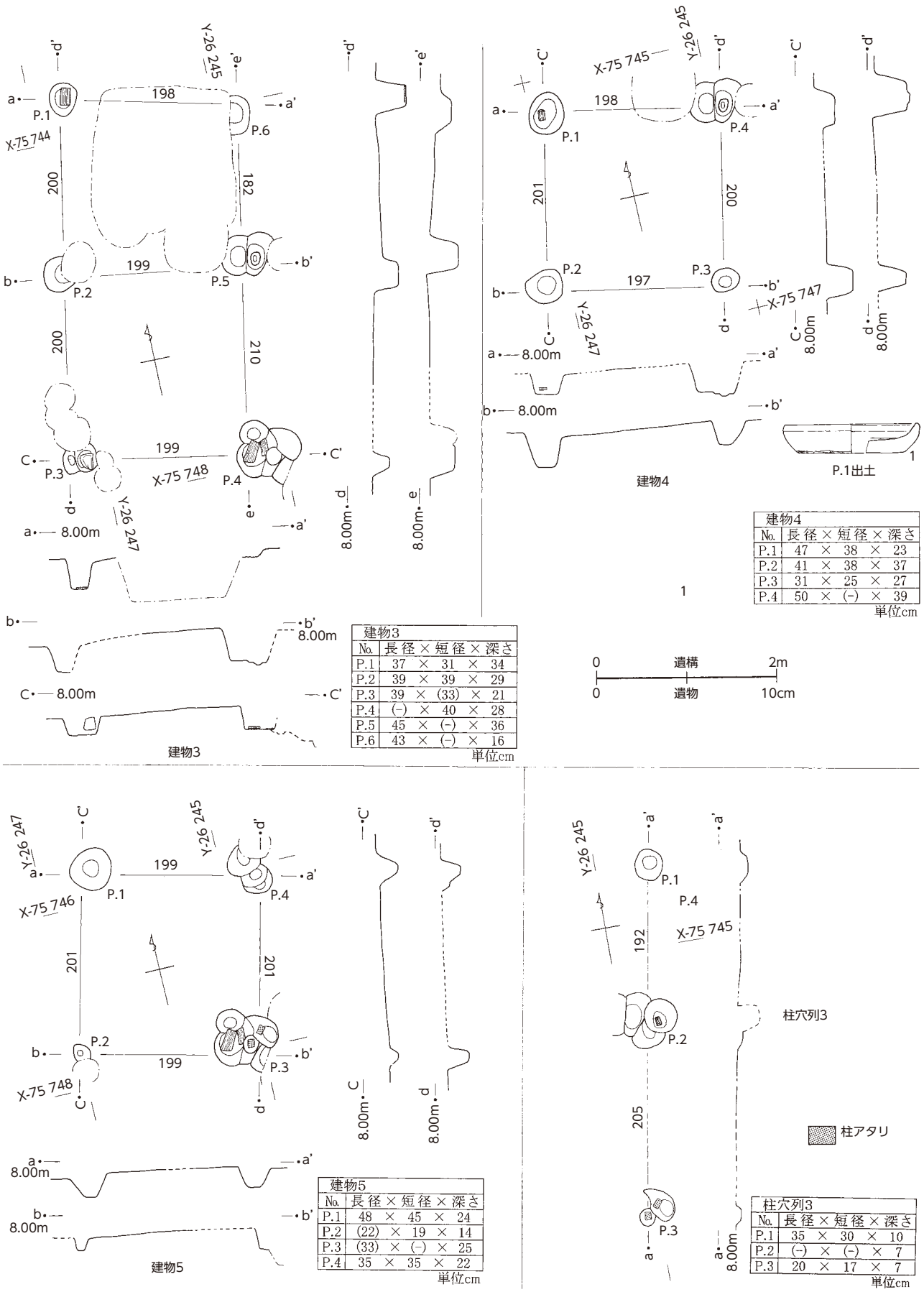


図17　Ｉb面溝２、同出土遺物



建物3						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	37	×	31	×	34
P.2	39	×	39	×	29
P.3	39	×	(33)	×	21
P.4	(-)	×	40	×	28
P.5	45	×	(-)	×	36
P.6	43	×	(-)	×	16

単位cm

建物4						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	47	×	38	×	23
P.2	41	×	38	×	37
P.3	31	×	25	×	27
P.4	50	×	(-)	×	39

単位cm

建物5						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	48	×	45	×	24
P.2	(22)	×	19	×	14
P.3	(33)	×	(-)	×	25
P.4	35	×	35	×	22

単位cm

柱穴列3						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	35	×	30	×	10
P.2	(-)	×	(-)	×	7
P.3	20	×	17	×	7

単位cm

図18　Ⅰb面建物３～５、柱穴列３、同出土遺物

る。遺物年代は13世紀中葉～第３四半期。

溝２（図17）

位置：X－(75 741.22)～－(75 743.38)　Y－(26 242.75)～－(26 250.10)　**平面形**：ほぼ直線　**断面形**：逆台形またはU字形，中位に段を持つ　**規模**：幅135㎝×深さ90㎝　**主軸方位**：N－81°－E　**流下方向**：東→西（？）　**出土遺物**：土師器皿R種小型（1～7）・土師器皿R種大型（8～13）・土師器皿加工品（14）・瓦器火鉢（15）・常滑片口鉢Ⅰ類（16・17）・常滑片口鉢Ⅱ類（18）・常滑壺（19）・砥石中砥（20）・漆器皿（21）・箸状木製品（22・23）・棒状木製品（24・25）・ヘラ状木製品（26）　**特記事項**：南側に人頭大泥岩の雑多な並びがともなう。土塁または築地塀の基礎の可能性がある。東から西に向かって深くなっているが、これはやはり計測間隔の短いことに由来すると考えたい。遺物年代は13世紀中葉～第３四半期か。

溝２裏込め出土遺物（図17）

土師器皿R種小型（27・28）・東濃型山茶碗（29）　**特記事項**：13世紀中葉前後であろう

建物３（図18）

位置：X－75 743.34～－75 748.12　Y－26 244.60～－26 247.45　**平面形**：長方形　**規模**：南北448㎝×東西240㎝（２×１間）　**主軸方位**：N－10°－E　**重複関係**：建物４と重なるが、本址が古い　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：溝２に直交する形で南北に長いが、東と南の調査区外に延びる可能性が高い。後述の土坑３はちょうどこの東西１間の中に収まる。

建物４（図18）

位置：X－75 745.15～－75 746.78　Y－26 244.64～－26 247.50　**平面形**：方形　**規模**：南北238㎝×東西240㎝（１×１間）　**主軸方位**：N－11°－E　**重複関係**：建物３に重なるが本址が新しい　**出土遺物**：[P.1] 土師器皿R種小型（1）　**特記事項**：一帯に群集する建物の一つ。建物３・柱穴列３とほぼ同じ主軸方位を持つ。これも調査区外の東と南に延びる可能性がある。1は13世紀中葉～第３四半期

建物５（図18）

位置：X－75 745.39～－75 748.26　Y－26 244.45～－26 247.06　**平面形**：方形　**規模**：南北247㎝×東西228㎝（１×１間）　**主軸方位**：N－14°－E　**重複関係**：柱穴列３と重なるが本址が古い　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：他の建物・柱穴列とわずかに方位を異にし、層位的には最も古い。

柱穴列３（図18）

位置：X－75 743.90～－75 748.07　Y－26 244.25～－26 245.21　**平面形**：直線状　**規模**：南北420㎝　**主軸方位**：N－10.5°－E　**重複関係**：建物５と重なるが本址が新しい　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：一群の建物と柱穴列のうちでは相対的に新しく、柱穴も全体に浅い。

土坑２（図19）

位置：X－75 747.12～－(75 747.66)　Y－26 244.16～－(26 245.10)　**平面形**：不整円形？　**断面形**：浅い逆台形、中位に段あり　**規模**：東西（92）㎝×南北（55）㎝×深さ18㎝　**主軸方位**：N－82°－W　**重複関係**：小穴と重なるが新旧確認できず　**出土遺物**：土師器皿R種大型（1）・鉄釘（2・3）　**特記事項**：

土坑３
１．暗灰褐色砂質土　3mm～2cm の泥岩多く、炭化物やや多い。粘性・しまり強い。
２．暗灰褐色粘質土　5mm～3cm の泥岩多く、炭化物少ない。粘性・しまり弱い。
３．暗灰褐色粘質土　3mm～2cm の泥岩含む、炭化物多い。粘性弱く、しまり強い。
４．暗灰褐色粘質土　2mm～1cm の泥岩、炭化物少量含む。粘性弱く、しまり強い。
５．黒灰褐色粘質土　１～５cm の泥岩少量、炭化物微量含む。粘性、しまり強い。
６．黒灰色粘質土　１～５cm の泥岩少量、炭化物含む。粘性強く、しまりやや強い。

土坑４・５
１．暗褐色砂質土　２mm～５cm の泥岩、炭化物微量含む。粘性強く、しまり弱い。
２．暗褐色砂質土　3mm～2cm の泥岩、炭化物やや多く含む。粘性、しまり強い。
３．暗褐色砂質土　２mm～３cm の泥岩やや多く、炭化物少ない。粘性強く、しまりやや弱い。

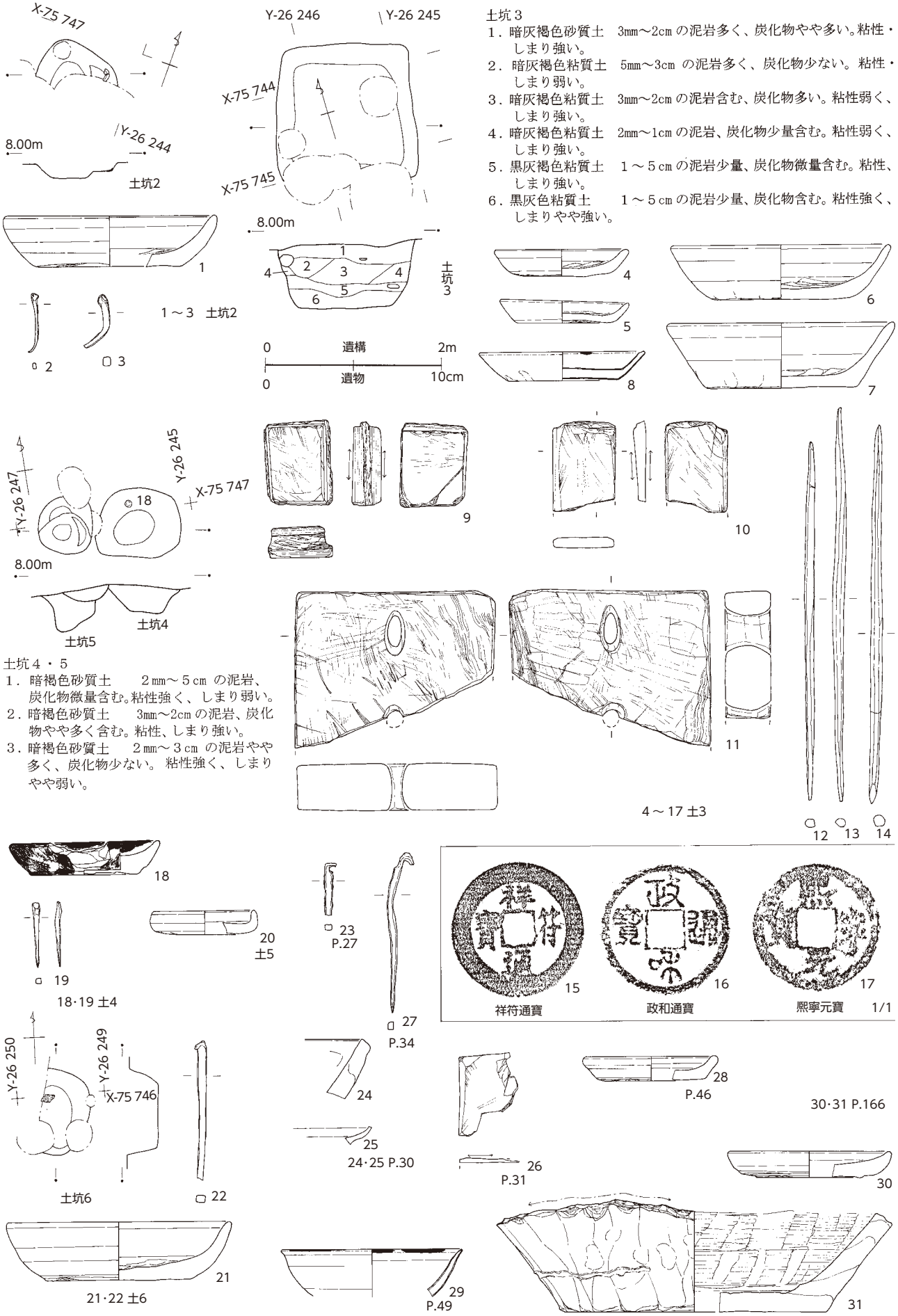


図19　土坑２～６、同出土遺物、Ｉｂ面小穴出土遺物

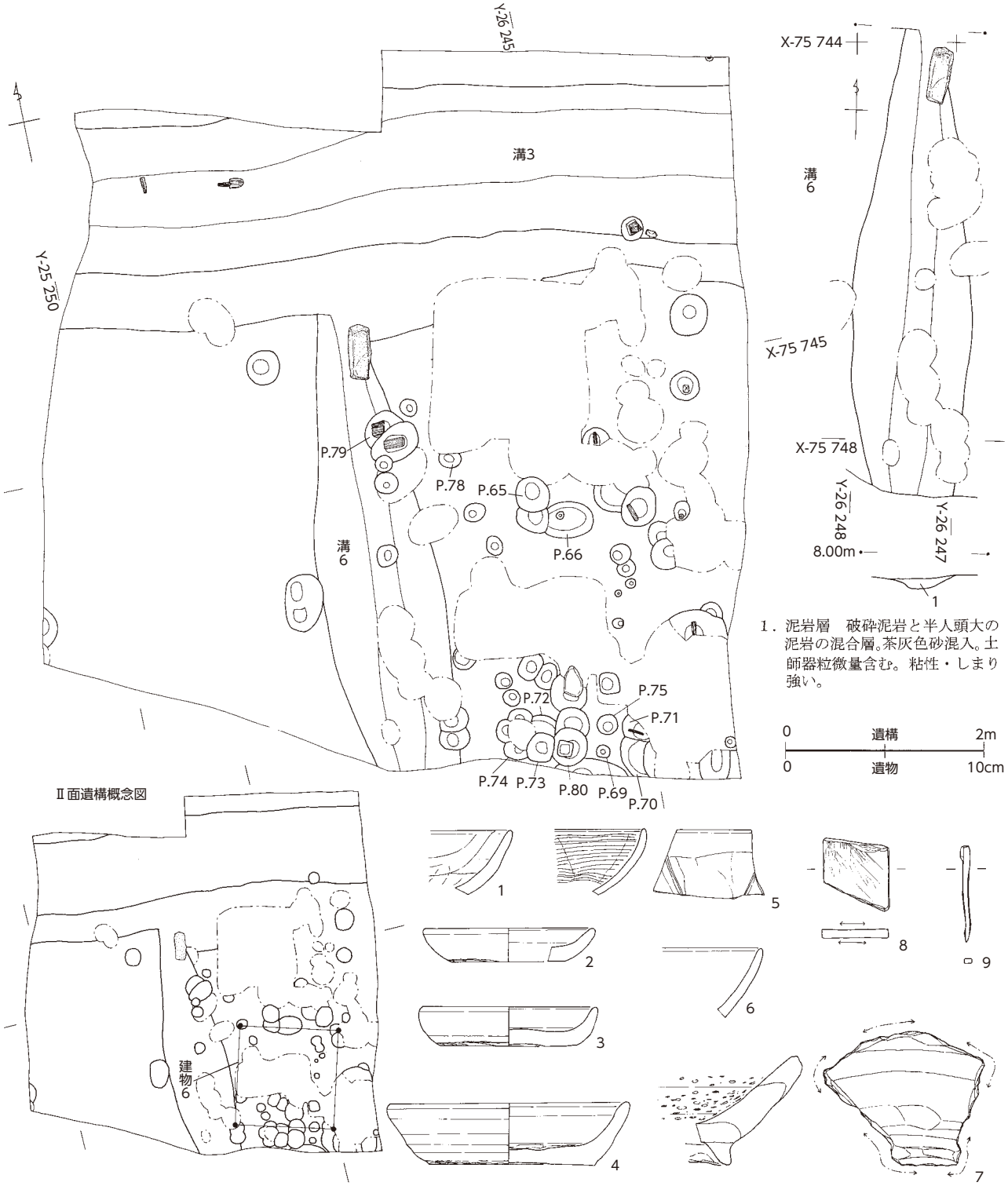
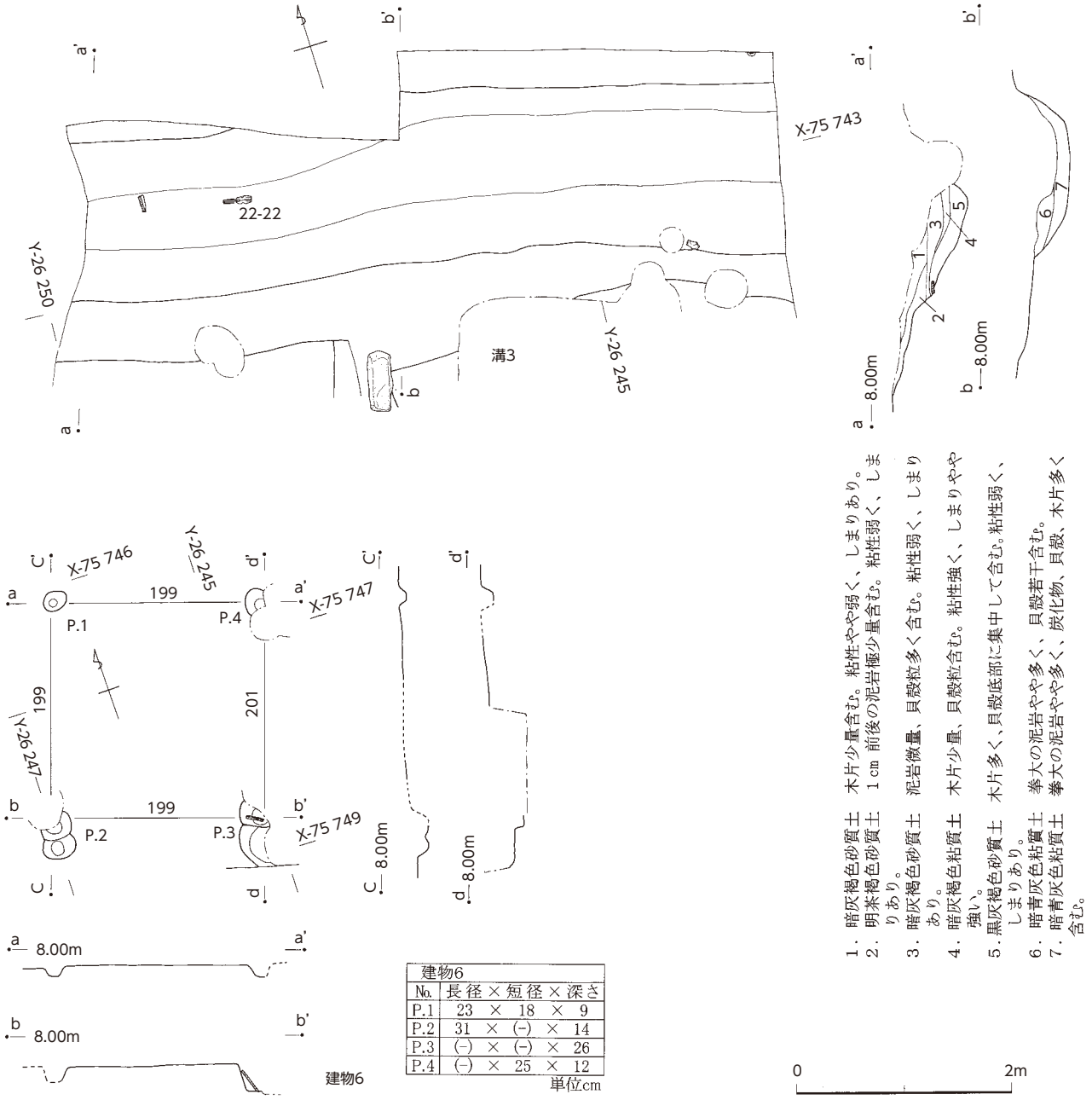


図20　Ⅱ面遺構全図、溝６、Ⅱ面出土遺物

建物３～４・柱穴列１の東南部にかかる。土坑４・５や、少し西に離れるが土坑６とも横並びの位置にある。建物の付随施設か。1は13世紀第３四半期

土坑３（図19）

位置：X－75 743.54～－75 745.30　Y－(26 244.78)～－(26 246.55)　**平面形**：方形　**断面形**：箱形　**規模**：南北(160)㎝×東西160㎝×深さ80㎝　**主軸方位**：N－1°－E　**重複関係**：P.26・27・29・



建物6						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	23	×	18	×	9
P.2	31	×	(-)	×	14
P.3	(-)	×	(-)	×	26
P.4	(-)	×	25	×	12

図21　Ⅱ面溝３、建物６

31に切られる　**出土遺物**：土師器皿R種小型（4・5）・土師器皿R種大型（6・7）・白磁口はげ皿（8）・砥石仕上砥（9・10）・温石（11）・箸状木製品（12～14）・祥符通宝（15）・政和通宝（16）・熙寧元宝（17）**特記事項**:大型の方形土坑。建物群に近接する。上層Ⅰa面の近い場所にも方形土坑があり（「方形土坑１・２」)、居住者の継続性がうかがえる。これも便槽の可能性があろう。出土遺物の年代は大きくみて13世紀後半

土坑４（図19）

位置：X－75 746.74～－75 747.56　Y－26 245.13～－26 246.15　**平面形**：円または隅丸方形　**断面形**：逆台形　**規模**：東西（長径）99㎝×南北（短径）81㎝×深さ32㎝　**主軸方位**：N－85°－W　**出土遺物**：土師器皿R種小型（18）・鉄釘（19）　**特記事項**：一帯に横並びで存在する土坑の一つ。18の年代は13世紀第２四半期

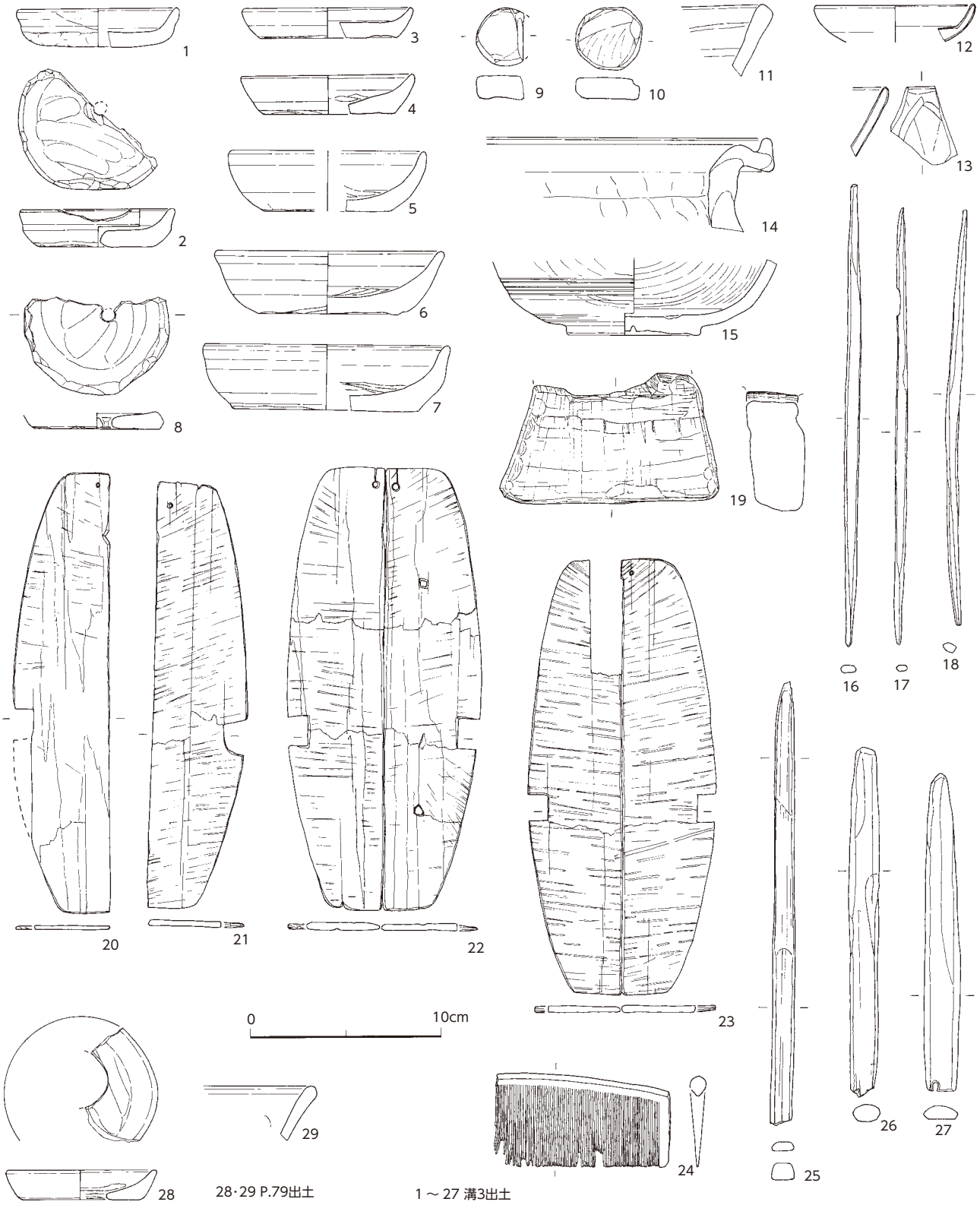


図22　溝３・P79出土遺物

土坑５（図19）

位置：X－75 746.72～－75 747.37　Y－26 246.14～－26 246.77　**平面形**：円形　**断面形**：不整逆台形　**規模**：南北（長径）66㎝×東西（短径）63㎝×深さ50㎝　**主軸方位**：N－5°－E　**出土遺物**：白色系土師器皿T種極小型（20）**特記事項**：一帯に横並びで存在する土坑の一つ。段部を持つ。年代は13世紀第２四半期頃か

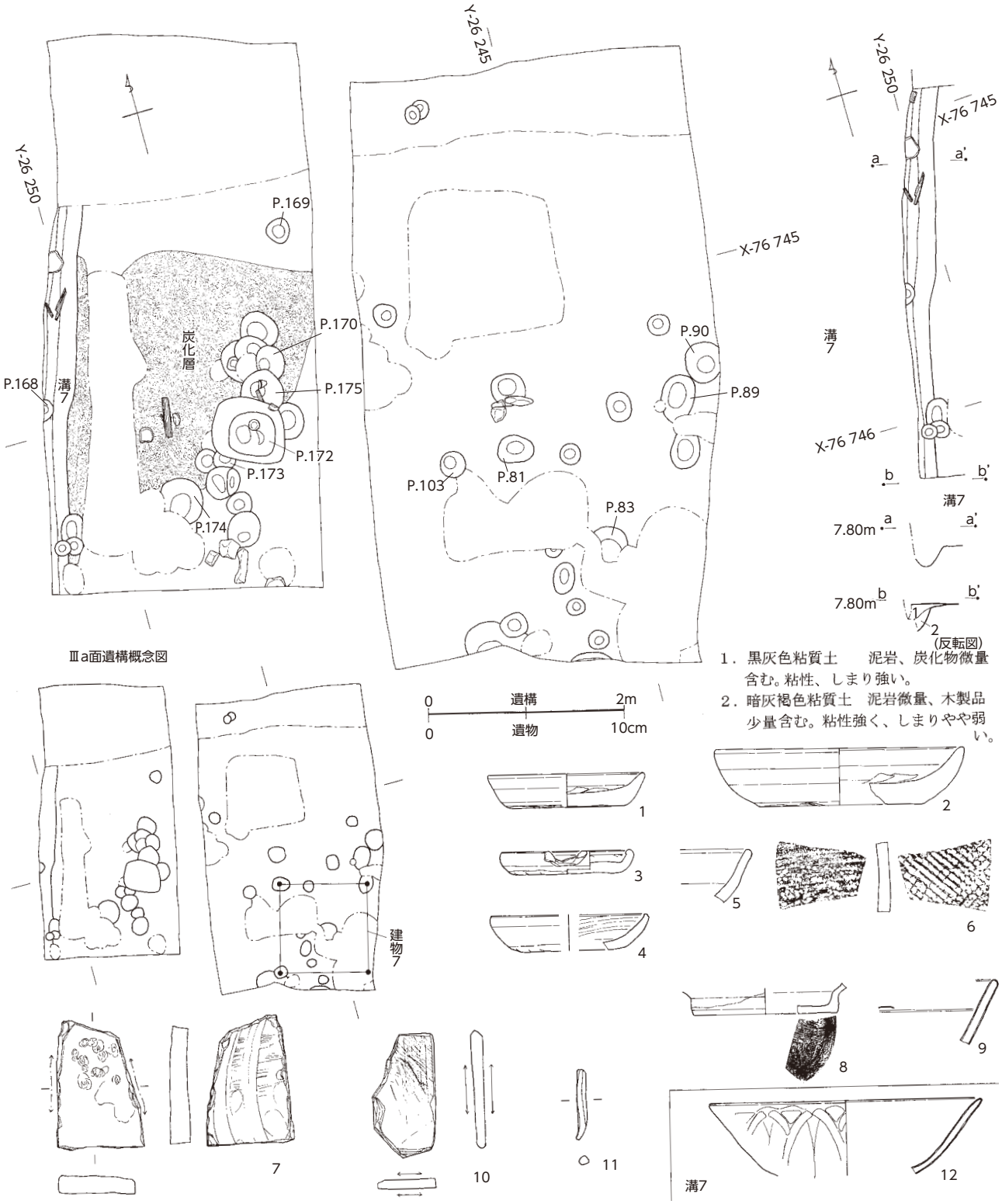


図23　Ⅲa面遺構全図、Ⅲa面出土遺物、溝7、同出土遺物

土坑6（図19）

位置：X－76 745.69～－76 746.68　Y－26 249.18～－(26 249.78)　**平面形**：隅丸方形または楕円形　**断面形**：逆台形　規模：南北（長径）100㎝×東西（67）㎝×深さ33㎝　**主軸方位**：N－15°－E　**出土遺物**：土師器皿R種大型（21）・鉄釘（22）**特記事項**：西半部を上層遺構により失うが、平面形は隅丸もしくは楕円形、断面は逆台形で全体として整った形状を呈する。建物群よりもいくらか西に離れているが、これも上記土坑群と同様の性格のものとみたい。21は質量があり、13世紀中葉前後とみるべき。

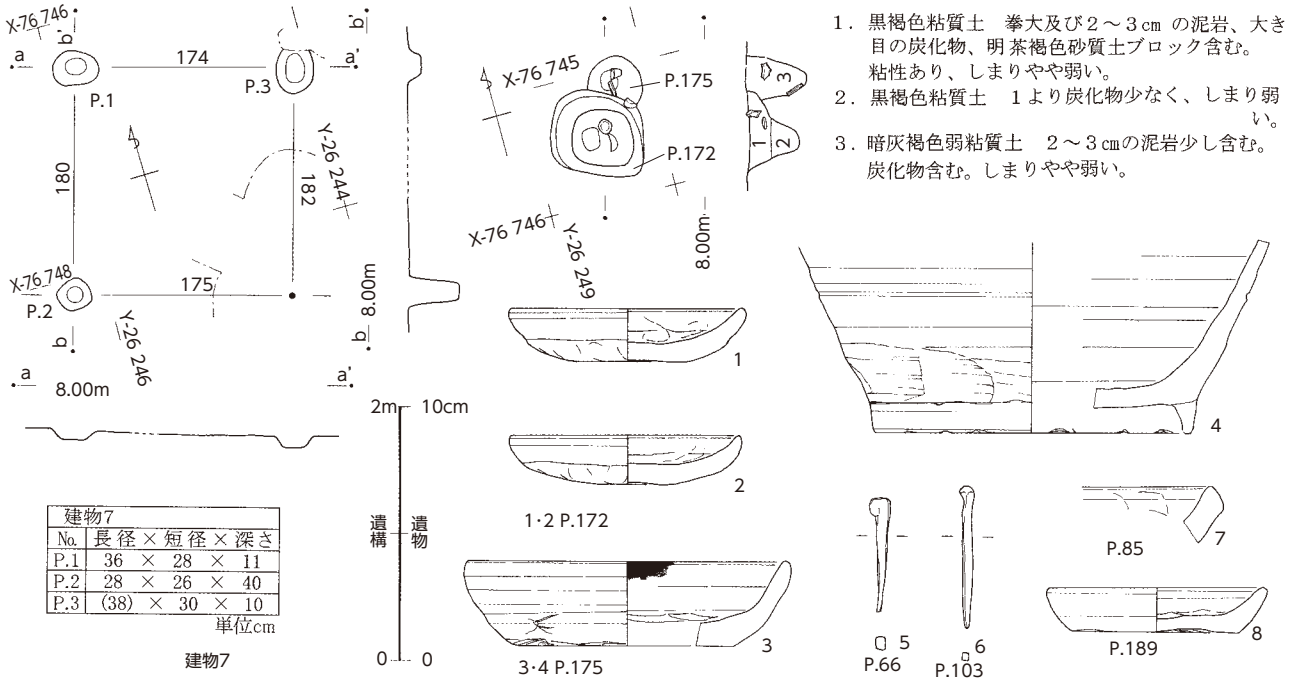


図24　建物７、Ⅲａ面小穴出土遺物

Ⅰｂ面小穴出土遺物（図19）

［P.27］鉄釘（23）・［P.30］常滑片口鉢Ⅱ類（24）・（同）東遠型山皿（25）・［P.31］砥石仕上砥（26）・［P.34］鉄釘（27）・［P.46］土師器皿Ｒ種小型（28）・［P.49］白磁口はげ皿（29）・［P.166］土師器皿Ｒ種小型（30）・（同）常滑片口鉢Ⅱ類（31）　**特記事項**：全体に13世紀第２四半期ないし中葉か

４．Ⅱ面

Ⅱ面出土遺物（図20）

土師器皿Ｔ種大型（1）・土師器皿Ｒ種小型（2・3）・土師器皿Ｒ種大型（4）・瓦器碗（5）・東遠型山茶碗（6）・常滑片口鉢Ⅰ類（7）・砥石仕上砥（8）・鉄釘（9）　**特記事項**：年代は13世紀中葉～第３四半期だろう

溝３（図21・22）

位置：Ｘ－75 741.50 ～－(75 744.45)　Ｙ－(26 242.95) ～－(26 250.06)　**平面形**：２区でわずかに南に折れまた西に向く　**断面形**：逆台形　**規模**：東西（675）cm×南北（255）cm×深さ52cm　**主軸方位**：Ｎ－90°－Ｗ　**重複関係**：溝６と切り合うが重複関係は確認できない。同時期であろう　**流下方向**：西→東　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種（図22-1）・土師器皿Ｒ種小型（２～４）・土師器皿Ｒ種中型（５）・土師器皿Ｒ種大型（６・７）・土師器皿加工品（８）・土師器転用円盤（９・10）・常滑片口鉢Ⅰ類（11）・白磁無文皿（12）・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（13）・常滑甕（14）・漆器椀（15）・箸状木製品（16～18）・連歯下駄（19）・草履芯（20～23）・木製櫛（24）・串状木製品（25）・棒状木製品（26）・ヘラ状木製品（27）　**特記事項**：調査区北辺を通過する溝。幅2.5ｍを超える大型溝。断面からは木枠の存在は観察できない。遺物年代は13世紀中葉。

溝６（図20）

位置：Ｘ－75 743.87 ～－(75 748.57)　Ｙ－(26 246.80) ～－(26 248.57)　**平面形**：直線形だが溝３との接点で細く、南に数ｍの辺りで膨らむ　**断面形**：皿形　**規模**：幅122cm×深さ38cm　**主軸方位**：Ｎ

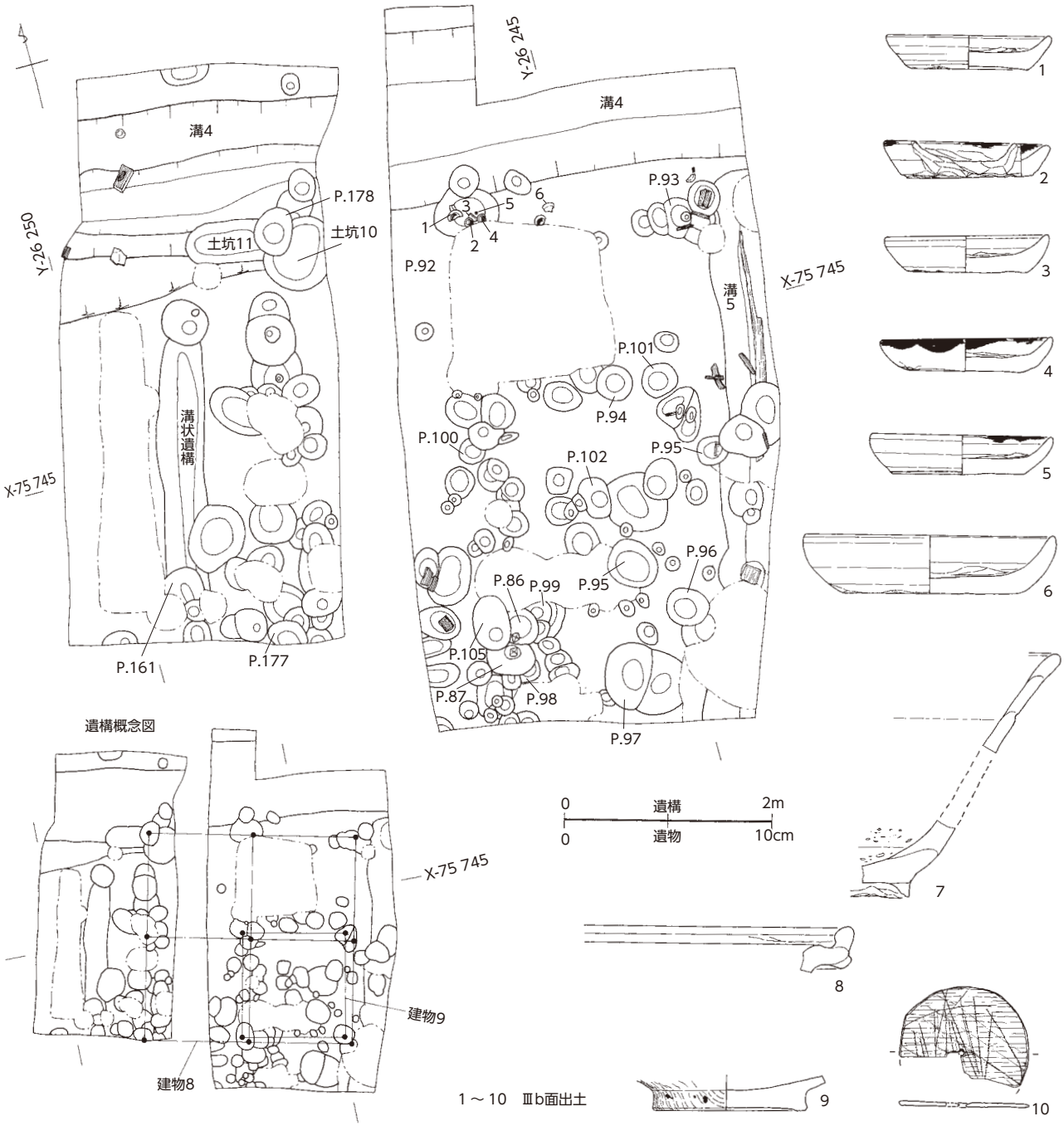


図25　Ⅲb面遺構全図、同出土遺物

－4°－E　**重複関係**：溝6と切り合うが重複関係は確認できない。同時期であろう　**流下方向**：南→北　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：溝3に流れ込む南北溝。全体に浅く、地割溝かまたは建物の雨落ちのような役割があるのかもしれない。

建物6（図21）

位置：X－75 746.05 ～－75 748.24　Y－(26 244.44) ～－(26 247.16)　**平面形**：方形　**規模**：南北251㎝×東西215㎝　**主軸方位**：N－18°－E　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：東と南の調査区外に延びると予想される。上層にもこの付近に建物があり、地割あるいは屋敷空間の連続性がうかがえる。

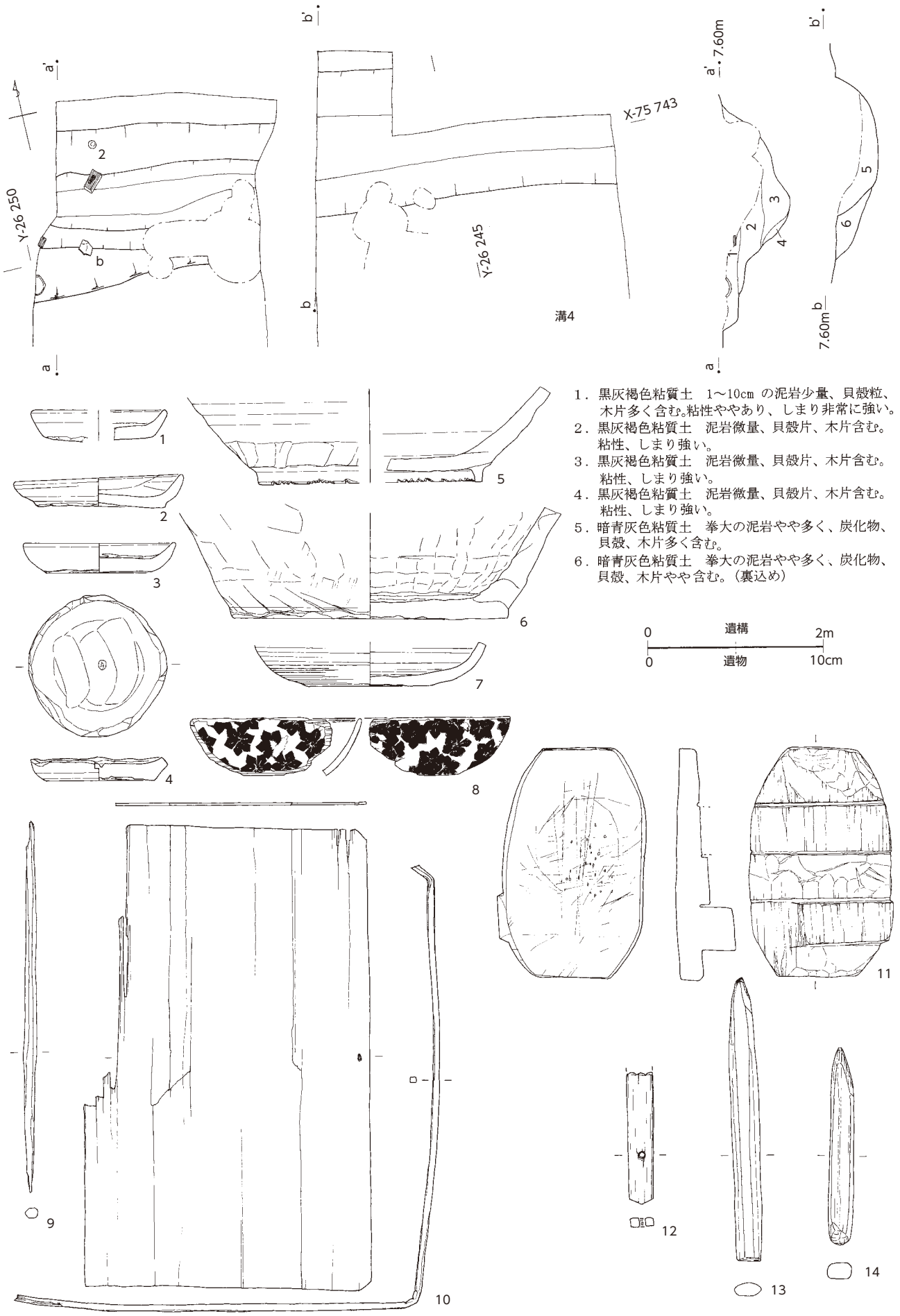


図26　Ⅲb面溝4、同出土遺物

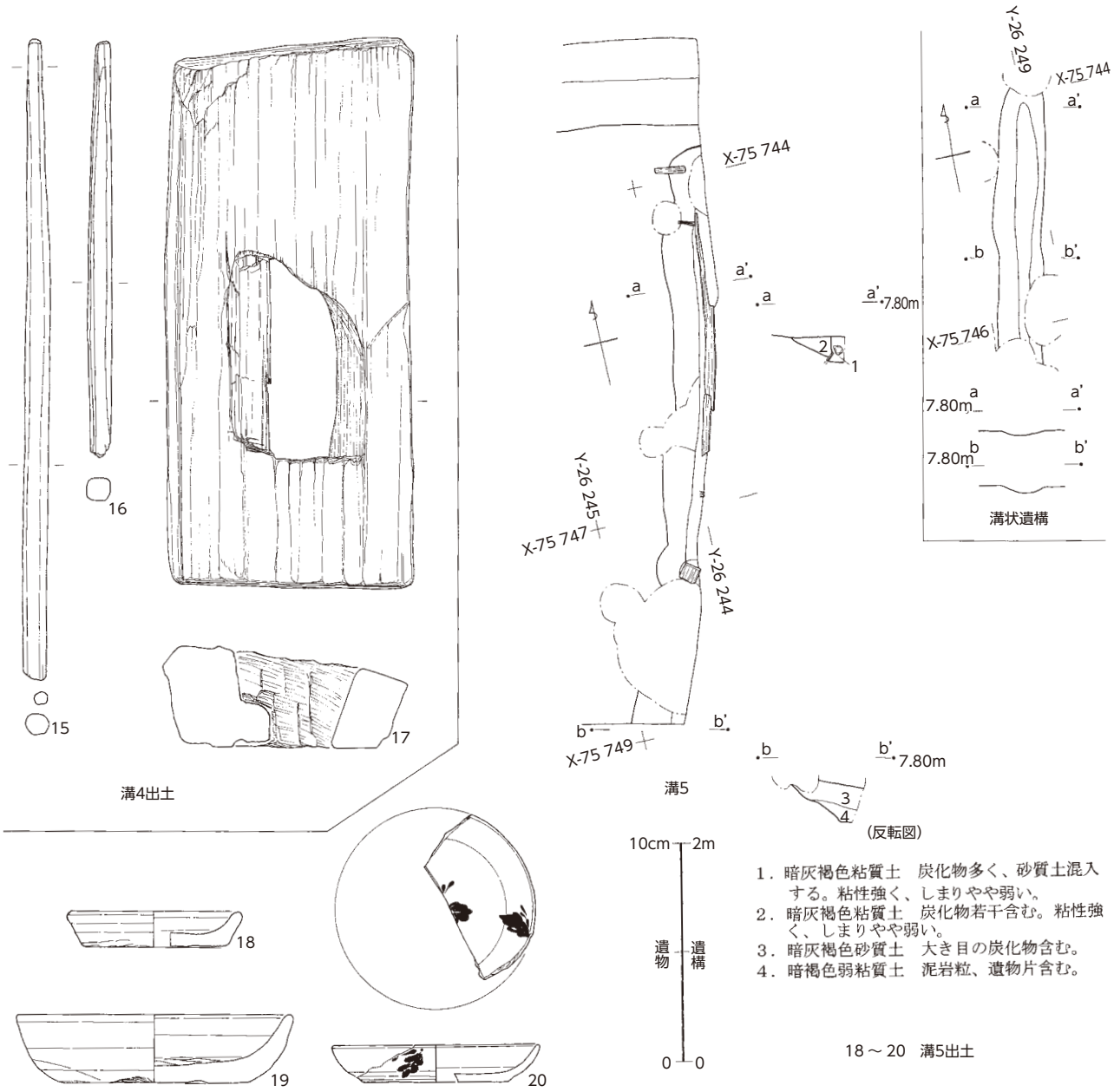


図27　溝４出土遺物（2）、溝５、溝状遺構

P.79出土遺物（図22）

土師器皿R種小型（28）・常滑片口鉢Ⅰ類（29）　**特記事項**：年代は13世紀中葉～第３四半期か

5．Ⅲａ面

Ⅲａ面出土遺物（図23）

土師器皿R種小型（1）・土師器皿R種大型（2）・白色系土師器皿T種小型（3・4）・尾張型山茶碗（5）・亀山甕（6）・亀山甕転用陶片（7）・緑釉茶入れ（8）・竜泉窯青磁画花文碗（9）・砥石仕上砥（10）・鉄釘（11）
特記事項：全体に13世紀前半～中葉の様相を持つ

溝７（図23）

位置：X－(75 744.77)～－(75 746.63)　Y－(26 249.53)～－(26 250.88)　**平面形**：ほぼ直線　**断面形**：

U字形　**規模**：幅（35）㎝×長さ（397）㎝×深さ（30）㎝　**主軸方位**：N－18°－E　流下方向：南→北　**出土遺物**：竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（12）　**特記事項**：溝底に木杭が残る。前後の時代にこの位置に溝はなく、当該面時のみの地割であることがわかる。北辺の東西溝との関係は、上層溝に削り取られているため不明だが、南から北へという流下方向からみてまず流れ込んでいると考えてよい。12は蓮弁の幅が非常に広く、13世紀中葉～第３四半期に位置付けられる。

建物７（図24）

位置：X－76 746.23 ～－(7674825)　Y－26 243.95 ～－26 246.42　**平面形**：方形　**規模**：南北208㎝×東西207㎝（１×１間）　**主軸方位**：N－15°－E　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：現況で１間×１間だが、南と東側の調査区外に延びると予想される。あるいは１・２区境界の未掘部分にも一連の柱穴がある可能性も否定できない。上層建物とほぼ重なる位置にあるが、上述溝７の存在から、居住者の継続性は薄いとみるべきだろう。

Ⅲａ面小穴出土遺物（図24）

（P.172）土師器皿Ｔ種小型（1）・（同）土師器皿Ｔ種小型（2）・（P.175）土師器皿Ｒ種大型（3）・（同）常滑片口鉢Ⅰ類（4）・（P.66）鉄釘（5）・（P.103）鉄釘（6）・（P.85）常滑片口鉢Ⅱ類（7）・（P.189）土師器皿Ｒ種小型（8）　**特記事項**：13世紀第２四半期頃としたい

６．Ⅲｂ面

Ⅲｂ面出土遺物（図25）

土師器皿Ｒ種小型（1 ～ 5）・土師器皿Ｒ種大型（6）・常滑片口鉢Ⅰ類（7）・常滑甕（8）・漆器椀（9）・円板状木製品（10）　**特記事項**：９はいまだ鎌倉時代後期の大量生産品の段階には至っておらず、13世紀前半に属する。遺物全体でも13世紀第２四半期の様相を持つ。

溝４（図26・27）

位置：X－(75 741.57) ～－(75 743.46)　Y－(26 243.10) ～－(26 248.20)　**平面形**：西半部でやや南にずれる　**断面形**：浅皿形　**規模**：幅（東西）93㎝×深さ80㎝　**主軸方位**：N－86°－W　**流下方向**：東←西　**出土遺物**：土師器皿Ｔ種小型（図26-1・2）・土師器皿Ｒ種小型（3）・土師器皿加工品（4）・常滑片口鉢Ⅰ類（5）・常滑甕（6）・漆器椀（7・8）・箸状木製品（9）・折敷（10）・子供用下駄（11）・用途不明木製品（12）・ヘラ状木製品（13・14）・棒状木製品（図27-15・16）・部材（17）　**特記事項**：柱穴の多い当該面の北側を区切る東西溝。東から西に流れているが、これもやはり検討を要しよう。調査区西域では途中に段を持つ。漆器の７は大量生産以前の製品だが、８は13世紀中葉以降とみていい。全体的には13世紀中葉の様相を呈している。

表１　溝４貝類出土表

ハマグリ	チョウセンハマグリ	サザエ	アカニシ	マダカアワビ	イボキサゴ	ダンペイキサゴ	ツメタガイ	サルボウガイ	イガイ	クボガイ	バイガイ	ウニ
355	62	6	7	5	1	326	14	2	1	3	3	1

溝５（図27）

位置：X－75 743.77 ～－(75 748.93)　Y－(26 243.30) ～－(26 245.11)　**平面形**：南に向かいやや西に曲がる　**断面形**：皿形または逆台形　**規模**：幅（50）㎝×長さ（532）㎝×深さ40㎝　**主軸方位**：N

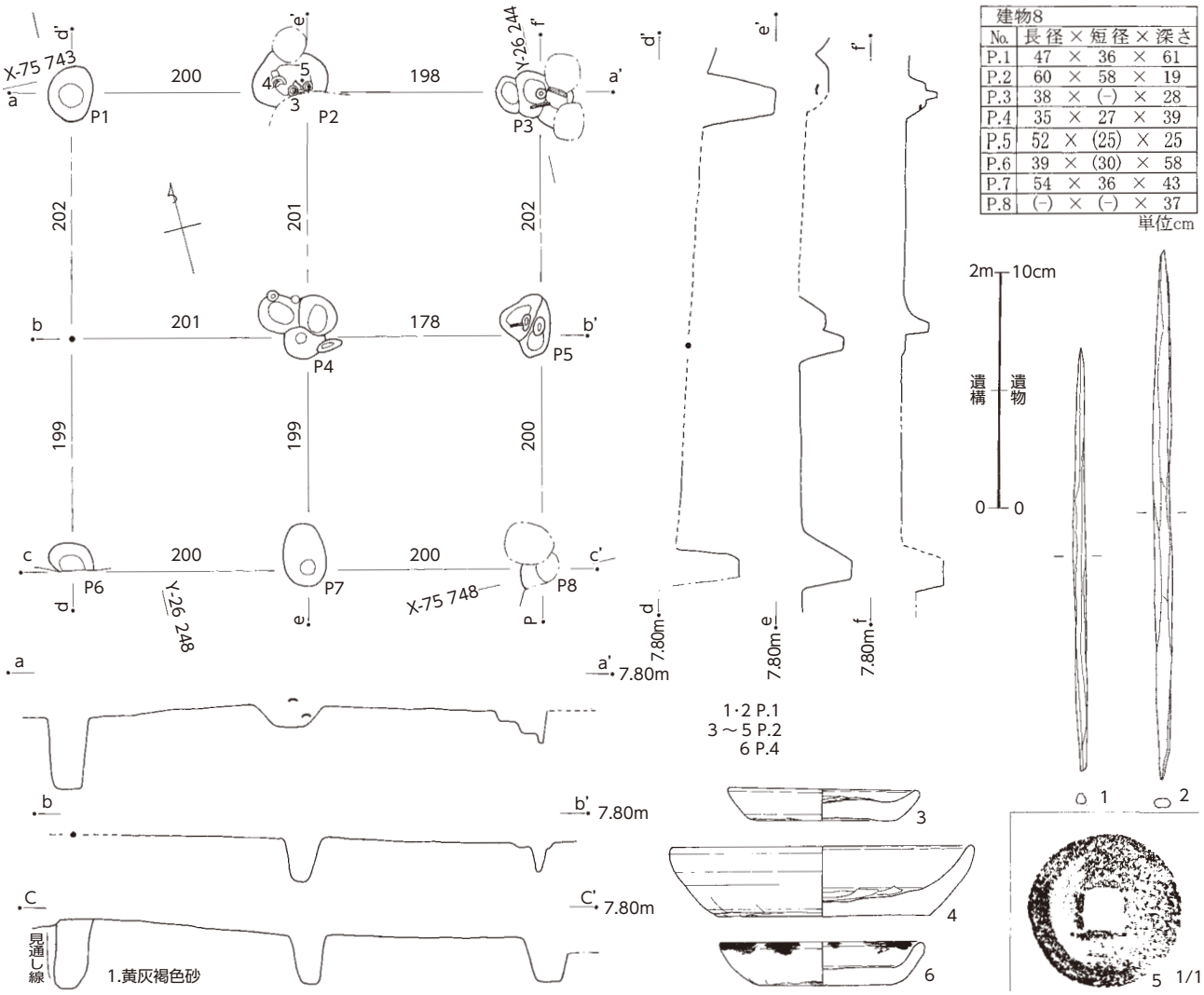


図28　Ⅲb面建物8、同出土遺物

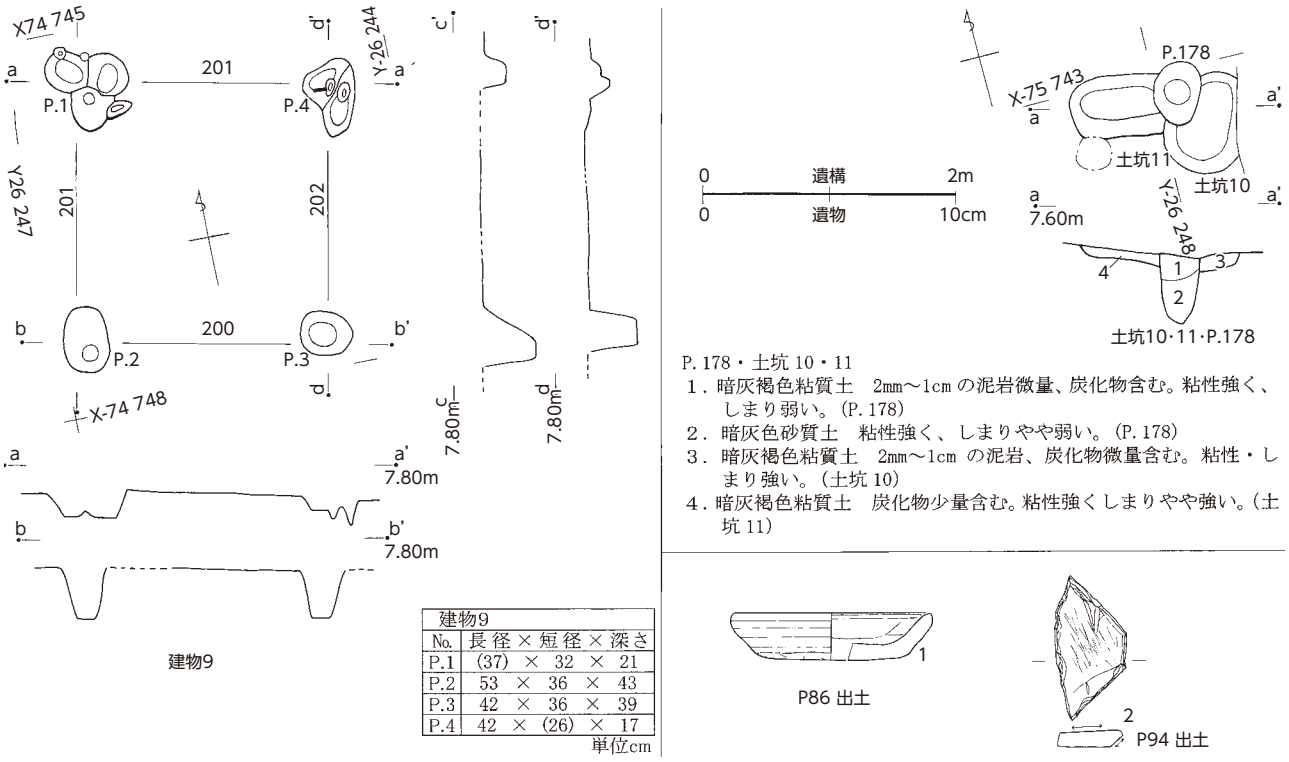
－14°－E　**流下方向**：→南　**出土遺物**：土師器皿R種小型（18）・土師器皿R種大型（19）・漆器皿（20）
特記事項：東壁際に溝枠らしい板材が残る。次述の「溝状遺構」は本址から約5.5m西の平行した位置にある。年代は13世紀中葉～第3四半期。

溝状遺構（図27）

位置：X－(75 743.92)～－(75 746.37)　Y－26 248.81～－(26 249.72)　**平面形**：ほぼ直線　**断面形**：浅皿形　**規模**：幅48㎝×長さ（247）㎝×深さ7㎝　**主軸方位**：N－13°－E　**流下方向**：北→南　**重複関係**：P.161に切られる　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：前述溝5の西5.5mに平行して存在する。本址以西には柱穴等がほとんど見られないので、溝のような何らかの境界標識機能が想定できる。遺物が乏しいが、年代的には溝5や次述の建物8・9と同様とみなくてはならない。

建物8（図28）

位置：X－75 742.95～－(75 748.10)　Y－26 243.88～－26 248.90　**平面形**：方形　**規模**：東西4.27m（1間）×南北（1間）458㎝　**主軸方位**：N－11°－E　**重複関係**：建物9に切られる　**出土遺物**：(P.1) 箸状木製品（1・2）・(P.2) 土師器皿R種小型（3）・(同) 土師器皿R種大型（4）・(同) 銭（5）・(P.4) 土師器皿R種小型（6）　**特記事項**：溝5と溝状遺構に挟まれた位置に収まっているので、東西には拡がら



建物9						
No.	長径	×	短径	×	深さ
P.1	(37)	×	32	×	21
P.2	53	×	36	×	43
P.3	42	×	36	×	39
P.4	42	×	(26)	×	17

単位cm

図29　建物9、土坑10・11・P178、Ⅲb面小穴出土遺物

ない可能性がある。柱穴のいくつかを建物9と共有するが、本址が古い。遺物年代は13世紀中葉前後であろう。

建物9（図29）

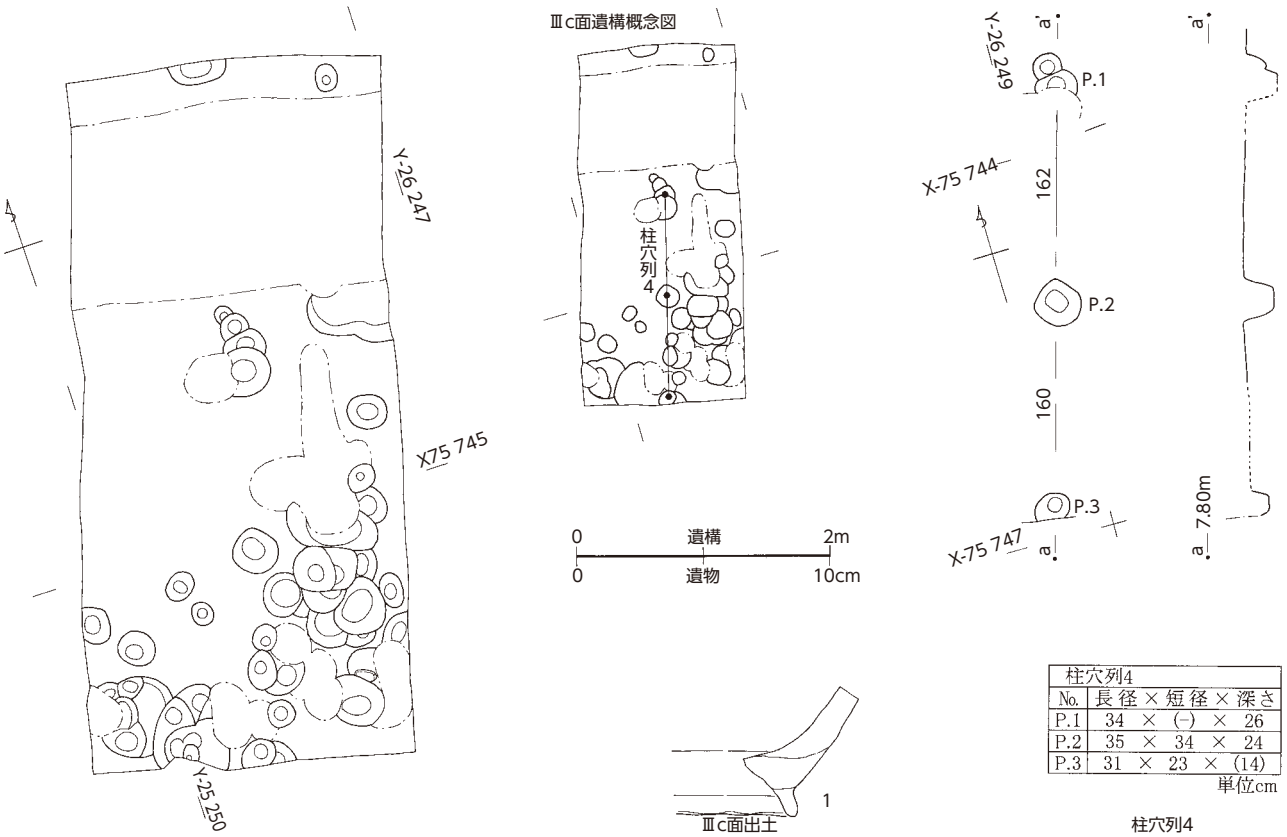
位置：X－75 745.10～－74 747.90　Y－26 244.12～－26 247.02　**平面形**：方形　**規模**：東西253㎝（1間）×南北248㎝（1間）　**主軸方位**：N－11°－E　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：一群の建物の一つで、これ以後Ⅰ面時までこの付近にはずっと建物が存在し続けることになる。

土坑10（図29）

位置：X－75 743.11～－75 743.80　Y－26 247.35～－26 247.98　**平面形**：楕円　**断面形**：皿形　**規模**：東西（76）㎝×62㎝×深さ13㎝　**主軸方位**：N－49°－E　**重複関係**：P.178に切られる，土坑11との新旧は不明　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：東西溝脇の溝状遺構との交点近くに位置する

土坑11（図29）

位置：X－(75 742.92)～－75 743.42　Y－(26 247.95)～－26 248.71　**平面形**：長円形　**断面形**：皿形　**規模**：長軸（78）㎝×短軸42㎝×深さ13㎝　**主軸方位**：N－78°－W　**重複関係**：P.178に切られる，土坑10との新旧は不明　**出土遺物**：図化可能なものなし　**特記事項**：これも上述土坑10同様、東西溝脇の溝状遺構との交点近くに位置する



柱穴列4	
No.	長径×短径×深さ
P.1	34 × (-) × 26
P.2	35 × 34 × 24
P.3	31 × 23 × (14)

図30　Ⅲc面遺構全図、Ⅲc面出土遺物、柱穴列4

Ⅲb面小穴出土遺物（図29）

（P.86）土師器皿T種小型（1）・（P.94）砥石仕上砥（2）　**特記事項**：1は13世紀中葉以前に属する

7. Ⅲc面

Ⅲc面出土遺物（図30）

常滑片口鉢Ⅰ類（1）　**特記事項**：年代は13世紀中葉前後か

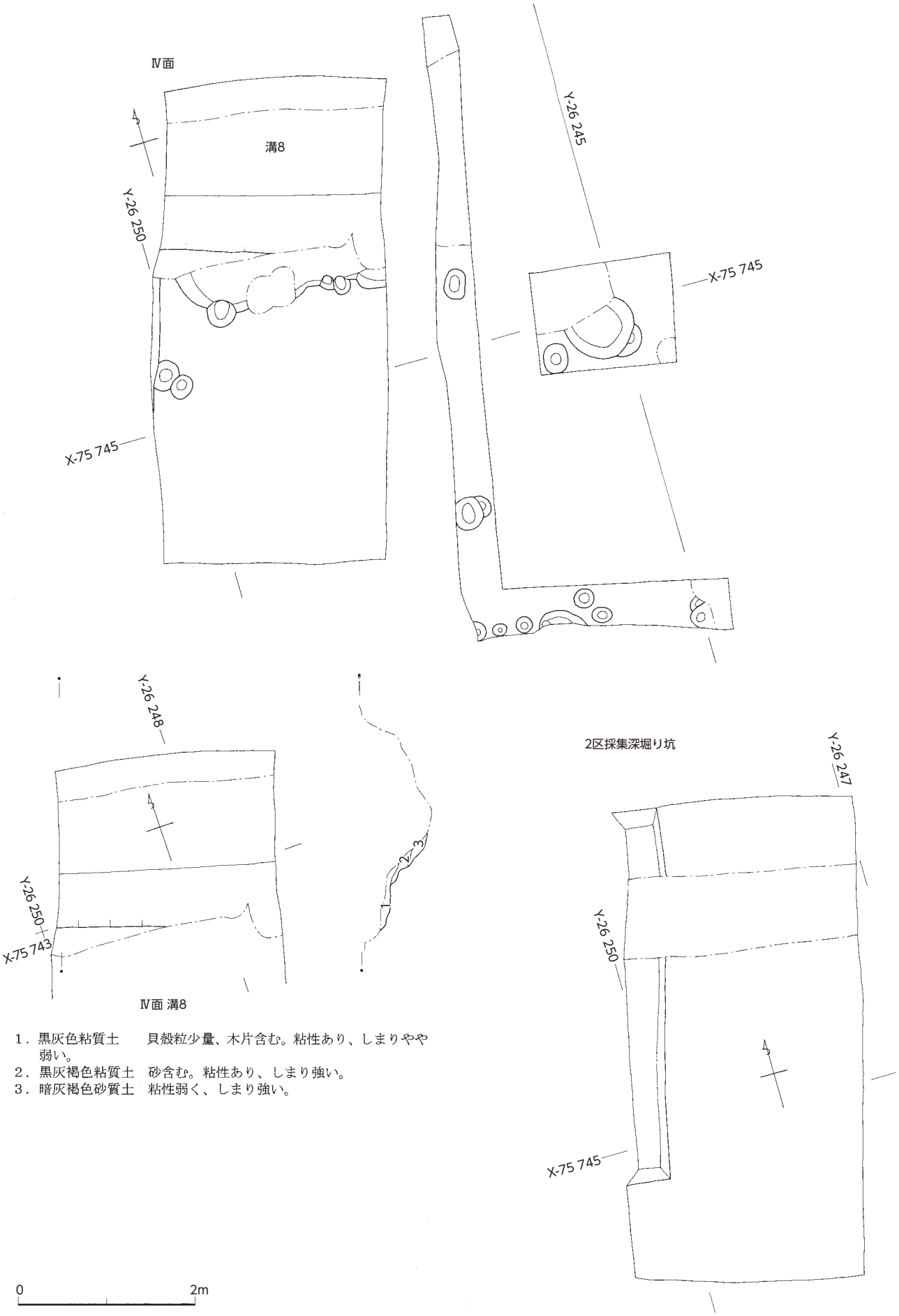
柱穴列4（図30）

位置：X－75 743.35～－75 746.85　Y－26 248.38～－26 249.59　**規模**：南北長3.63m（2間）**主軸方位**：N－15°－E　**出土遺物**：図化可能遺物なし　**特記事項**：1区には調査が及んでいないが、東と南に延びると考えるべきだろう

8. Ⅳ面

溝8（図31）

位置：X－(75 741.66)～－(75 743.41)　Y－(24 246.92)～－(26 249.83)　**平面形**：直線状　**断面形**：**規模**：長さ（258）㎝×深さ78㎝　**主軸方位**：N－75°－W　**特記事項**：上層溝に削られて南岸の一部しか残っていないが、北辺を東西によぎる溝が鎌倉時代初期から存在していることがわかる。



1．黒灰色粘質土　貝殻粒少量、木片含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2．黒灰褐色粘質土　砂含む。粘性あり、しまり強い。
3．暗灰褐色砂質土　粘性弱く、しまり強い。

図31　Ⅳ面遺構全図、溝８、２区最終深掘り

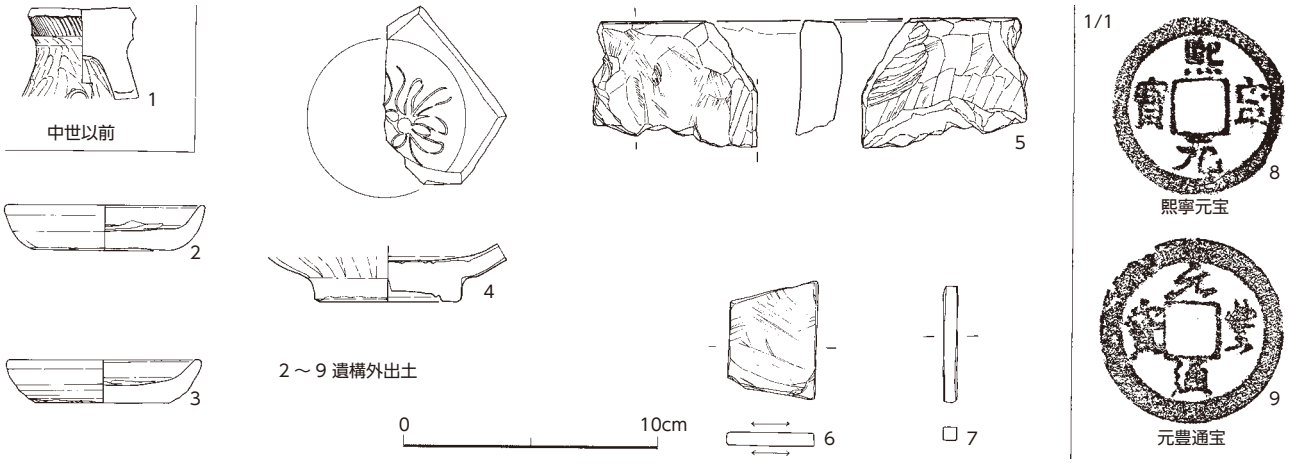


図32　中世以前・遺構外採集遺物

9. 中世以前・採集遺物

中世以前（図32）

土師器器台（1）

遺構外採集遺物（図32）

土師器皿R種小型（2・3）・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗（4）・滑石鍋転用品（5）・砥石仕上砥（6）・鉄釘（7）・熙寧元宝（8）・元豊通宝（9）

（馬淵）

表１　出土遺物観察表（１）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図５－１	調査区西壁	常滑 甕	底部片　底径 17.0cm　輪積み成形、 胎芯は暗灰色、長石・石英粒・黒色粒含む　器表は茶褐色　内底面に降灰、外底面に離れ砂
2	調査区南壁	竜泉窯米色青磁 鎬蓮弁文折縁鉢	口縁～胴部片　　素地は淡黄灰色、黒色粒少量含みやや粗め　釉は飴色半透明で厚く掛かり細かい貫入が入る　なると思われる
図７－１	溝１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8)cm　底径（6.0）cm　器高 1.2cm　回転ロクロ　板状圧痕あり　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は黄灰色、微砂粒・海綿骨芯・雲母を含む
2	溝１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（6.9)cm　底径（4.4）cm　器高 1.7cm　右回転ロクロ　板状圧痕あり　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒・白色粒を含む粗土　口縁部に油煤付着
3	溝１	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.5cm　底径 5.0cm　器高 1.8cm　右回転ロクロ　板状圧痕あり　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む砂質粗土　口縁部に少量油煤付着
4	溝１	土師器皿 Ｒ種大型	口径 11.9cm　底径 8.3cm　器高 3.1cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕あり　内底部ナデ　胎土は肌色、微砂粒・赤色粒子・海綿骨芯・雲母を含む　口縁部に少量油煤付着
5	溝１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.5)cm　底径（7.8）cm　器高 3.5cm　右回転ロクロ　　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、微砂粒・海綿骨芯・雲母・赤色粒子を含む粗土
6	溝１	白色系土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.8)cm　底径（8.0）cm　器高 2.9cm　回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は赤味を帯びた灰白色、微砂粒・赤色粒子を少量含む粉質土　熱を受け質量が軽く変質している
7	溝１	瓦器　火鉢	口縁部片　胎土は灰色、胎芯は橙色を帯びる　微砂粒・赤色粒子・白色粒子含む
8	溝１	尾張型山茶碗	底部～体部片　底径 5.2㎝　胎土は灰色、砂・白色粒子・黒色粒子・礫含む　ロクロ成形　貼り付け高台、籾殻痕あり　内底部ナデ
9	溝１	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～体部片　胎土・器表とも明灰色、微砂粒・白色粒子・黒色粒子含む　口唇部から内側にかけて降灰、常滑
10	溝１	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部～体部片　胎土・器表とも橙褐色、微砂粒・白色粒子・礫含む
11	溝１	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部～体部片　胎土・器表とも橙褐色、微砂粒・白色粒子・礫・雲母含む　内側口縁部下に菊花文と思われる押印あり
12	溝１	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部～体部片　胎土・器表とも明橙褐色、砂粒・白色粒子・黒色粒子含む　口唇部から内側にかけて降灰
13	溝１	常滑　甕	口縁部～頸部片　胎土は灰色、石英・長石粒・黒色粒子含む　器表は灰色
14	溝１	常滑　甕	口縁部～頸部片　胎土は淡灰褐色、白色粒子・黒色粒子少量含む　器表は褐色　口縁部に降灰
15	溝１	常滑　甕	口縁部～頸部片　胎土は淡灰色、白色粒子・黒色粒子・気孔・礫含む　器表は褐色　口縁部及び外側に降灰
16	溝１	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片　口径（12.3）cm　ロクロ成形　素地は明灰色、黒色微粒子多く含む　釉は青緑色、半透明、細かい気泡含む　単弁　太宰府Ⅲ類
17	溝１裏込め	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.0)cm　底径（6.0）cm　器高 1.3cm　右回転ロクロ　　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
18	溝１裏込め	土師器皿 Ｒ種小型	口径（8.8)cm　底径（5.8）cm　器高 2.0cm　回転ロクロ　薄く板状圧痕あり　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、微砂粒・海綿骨芯・雲母・白色粒子・赤色粒子を含む
19	溝１裏込め	土師器皿 Ｒ種極小型	口径 4.1cm　底径 3.2cm　器高 0.9cm　回転ロクロ　薄く板状圧痕あり　底面糸切り　内底部ナデ　内折れ　胎土は橙色、微砂粒・海綿骨芯・雲母・赤色粒子を含む
20	溝１裏込め	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～体部片　胎土・器表とも灰色、砂粒・長石・石英粒・気孔含む　口唇部から内側にかけて降灰
21	溝１裏込め	常滑　甕	口縁部～頸部片　胎土・器表とも灰色、砂粒・長石・石英粒多く含む　口縁部から外側にかけて降灰
22	溝１裏込め	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部～体部片　口径（13.1）cm　ロクロ成形　素地は明灰色、黒色微粒子含む　釉は緑灰色、半透明、細かい気泡含む　内面下位に擦過痕すこしあり　単弁　太宰府Ⅲ類
23	溝１裏込め	高島 硯	残存長（6.0)cm　最大幅 7.5cm　残存厚（1.1）cm　硯頭に雲型水滴座が付く　色調は明灰色
図8-1	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.5ｃｍ　底径 5.2cm　器高 1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・多量の砂粒・雲母を含む砂質粗土
2	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.1ｍ　底径 5.4cm　器高 1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母を含む砂質粗土
3	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.8ｃｍ　底径 5.4cm　器高 1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は黄灰色、赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む粗土　口縁部に少量煤付着
4	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.4ｃｍ　底径 6.0cm　器高 1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む粗土
5	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.4cm　底径 6.2cm　器高 1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り、板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒を含む砂質粗土
6	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.0cm　底径 5.4cm　器高 21.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り、板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・砂粒・泥岩粒を含む砂質粗土
7	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.3cm　底径 5.2ｃｍ　器高 1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒を含む砂質粗土
8	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.3cm　底径 5.2cm　器高 1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は赤橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒を含む粗土
9	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.8cm　底径 6.1cm　器高 1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は黄灰色、白色粒子・赤色粒子・砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土　口縁部油煤付着
10	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.8cm　底径 5.1cm　器高 1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
11	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.6cm　底径 5.8cm　器高 1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
12	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.6cm　底径 6.1cm　器高 1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質土
13	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.5cm　底径 5.3cm　器高 1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母を含む砂質粗土
14	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.2cm　底径 4.5cm　器高 1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒を含む粗土
15	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 8.1cm　底径 5.8cm　器高 1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は黄灰色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・雲母を含む砂質土　口縁部に油煤付着
16	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径 7.6cm　底径 5.3cm　器高 1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
17	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径 11.8cm　底径 7.3cm　器高 3.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は赤橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む粗土
18	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径 12.0cm　底径 7.2cm　器高 3.1cm　右回転ロクロ　底面糸切り　　内底部ナデ　胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
19	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径 13.4cm　底径 8.6cm　器高 3.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り、板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯精良土
20	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径（13.7)cm　底径（8.8)cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒含む砂質土
21	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.6）cm　底径（9.6）cm　器高 3.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は赤橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒含む粗土　外側は炭化
22	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径 12.4cm　底径 8.9cm　器高 3.4cm　右回転ロクロ　底面糸切り　板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
23	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径 12.7cm　底径 8.2cm　器高 3.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、赤色粒子・海綿骨芯・微砂粒を含む　やや紛質　口縁部油煤付着

表２　出土遺物観察表（２）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
24	Ⅰａ面	土師器皿 Ｒ種極小型	口径4.3cm　底径3.5cm　器高0.9cm　回転ロクロ　底面糸切り、内底部ナデ　胎土は橙色、赤色粒子・砂粒・泥岩粒を含む
25	Ⅰａ面	白色系土師器皿 Ｔ種	口縁部片　手づくね後口縁部ナデ　器表は灰桃色、胎芯は灰色
26	Ⅰａ面	瓦器　火鉢	口縁部片　胎土は灰桃色、礫・多量の砂粒・雲母含む　外側口縁部下から斜め上方向に孔貫通
27	Ⅰａ面	瓦器　火鉢	口縁部片　胎土は灰橙色、赤色粒子・多量の砂粒・雲母含む
28	Ⅰａ面	瓦器　火鉢	口縁部から胴部片　胎土は橙褐色、白色粒子・赤色粒子・雲母・微砂粒含む
29	Ⅰａ面	瓦器　火鉢	口縁部から胴部片　胎土は灰白色、雲母・微砂粒含む
30	Ⅰａ面	瓦器　火鉢	底部から胴部片　胎土は淡灰橙色、器表は灰色　白色粒子・砂粒・雲母含む
31	Ⅰａ面	瀬戸　入子	口径（3.9）cm　底径（3.0）cm　器高0.9cm　ロクロ成形　　胎土は淡灰色、緻密土　内側縁部分に降灰
32	Ⅰａ面	ふいご　羽口	胎土は淡橙色、赤色粒子・雲母・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
33	Ⅰａ面	ふいご　羽口	胎土は淡赤橙色、赤色粒子・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
図9－34	Ⅰａ面	亀山　甕	胴部片　胎土は灰色、白色粒子
35	Ⅰａ面	亀山　甕	胴部片　胎土は明灰色、白色粒子・砂粒含む
36	Ⅰａ面	丸瓦	遺存長(7．0)cm　遺存幅（7.7）cm　厚2.1cm　胎土は白色粒を少し含む肌理の細かく質量のある赤橙色土　凸面は縄目、凹面は平行条叩き文ａ類をナデ調整で消す　桶巻き作り　古代瓦（８世紀）
37	Ⅰａ面	尾張型山茶碗	口径(13.7)cm　ロクロ成形　胎土は灰色、砂粒・白色粒子含む
38	Ⅰａ面	尾張型山茶碗	口縁部片　回転ロクロ　　胎土は灰橙色、白色粒子を含み、肌理細かく堅い
39	Ⅰａ面	尾張型山茶碗	口縁部片　回転ロクロ　　胎土は灰色、白色粒子・砂粒を含む
40	Ⅰａ面	尾張型山茶碗	底部片　底径（7.7）㎝　回転ロクロ　貼り付け高台　胎土は明灰色、白色粒子・砂粒を含む
41	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、やや大粒の石英・砂粒含む　内面の上位に降灰
42	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、石英・砂粒含む　口縁部及び内面の上位に降灰
43	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、石英・長石・砂粒含む
44	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片　底径（11.2）㎝　輪積み成形　貼り付け高台　胎土は明灰色､やや大粒の石英・長石・砂粒を含む　内底面は使用により磨耗
45	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径（14.0）㎝　輪積み成形　高台部は剥離　胎土は明灰色、石英・長石・砂粒・礫を含む　内底面は使用によりやや磨耗
46	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径（14.8）㎝　輪積み成形　貼り付け高台　胎土は灰色、石英・長石・砂粒を含む　内底面は使用によりやや磨耗
47	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径（8.2）㎝　輪積み成形　貼り付け高台　胎土は灰色、石英・長石・砂粒・黒色粒子を含む　内底面は使用によりやや磨耗
48	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径（14.5）㎝　輪積み成形　貼り付け高台　胎土は明灰色、石英・長石・砂粒を含む　内底面は使用により磨耗　熔着痕あり
49	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径（12.0）㎝　輪積み成形　貼り付け高台　胎土は明灰色、石英・長石・砂粒・気孔を含む　内底面は使用により磨耗
50	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、器表は茶色
51	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、長石・石英・砂粒を含む　器表は明茶色　内側に少し降灰
52	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰橙色、長石・石英・砂粒を含む　器表は橙褐色　口縁及び内側に少し降灰
53	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　口径（28.5）㎝　輪積み成形　胎土は灰橙色、長石・石英・砂粒を含む　器表は灰褐色
54	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰橙色、白色粒子・砂粒・灰黒色ブロックを含む　器表は茶色
55	Ⅰａ面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は橙褐色、胎芯灰色、長石・石英・砂粒を含む　器表は茶色　内側に降灰
56	Ⅰａ面	常滑　鳶口壺	口縁部から肩部片　輪積み成形　胎土は灰色、砂粒・灰黒色粒子を含む　器表は灰褐色　外側に降灰
57	Ⅰａ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰褐色、砂粒・長石を含む　器表は灰褐色　口縁部上側に降灰
58	Ⅰａ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、砂粒・礫・白色粒子を含む　器表は褐色　口縁部上側・頚部外側に降灰
59	Ⅰａ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・灰黒色粒少し含む　器表は茶色　口縁部上側・頚部外側に降灰
60	Ⅰａ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・礫含む　器表は茶色　口縁部上側・肩部外側に降灰
61	Ⅰａ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・灰黒色粒含む　器表は灰褐色
62	Ⅰａ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む　器表は灰褐色
63	Ⅰａ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　　胎土は灰色、長石・石英多く含む　器表は茶色
64	Ⅰａ面	常滑　甕	肩部片　輪積み成形　　胎土は淡灰色、白色粒・灰黒色粒・砂粒含む　器表は灰褐色　格子に斜線の叩き目あり
65	Ⅰａ面	常滑　甕	底部片　輪積み成形　胎土は淡灰色、白色粒・灰黒色粒・砂粒含む　器表は茶褐色　割れ口は故意に打ち欠き、その上に黒色の漆状の物質が付着　内底面に厚く降灰　外底面縁に焼き台（砂・大粒の石英・長石などを多量に含んだ粘土）付着
66	Ⅰａ面	常滑片加工品	長さ4.5cm　幅3.3cm　厚さ1.0cm　胎土は灰色、砂粒・白色粒子を含む　常滑片口鉢Ⅰ類の破片使用　一端が尖り、周縁は滑らかに磨く
67	Ⅰａ面	褐釉 双耳広口小壺	口縁部片　口径（7.6）㎝　ロクロ成形　胎土暗紫灰色で期目が非常に細かく、きわめて堅緻　釉薬は褐色で口縁端部までかかる 耳貼り付け　不明舶載品
68	Ⅰａ面	白磁　口はげ皿	口径（8.6）cm　底径（5.6）cm　器高（1.8）cm　ロクロ成形　素地は淡灰色でムラあり　釉は乳白色不透明、厚めだがムラがある焼が甘い
69	Ⅰａ面	白磁　口はげ皿	口径（10.7）cm　ロクロ成形　素地は灰白色　釉は乳白色半透明
70	Ⅰａ面	白磁　口はげ皿	口径（11.2）cm　ロクロ成形　素地は灰白色　釉は緑色を帯びた乳白色、反透明　口縁に煤付着
71	Ⅰａ面	白磁　口はげ皿	口径（11.2）cm　底径6.8cm　器高3.3cm　ロクロ成形　素地は灰白色　釉は青みを帯びた乳白色半透明
72	Ⅰａ面	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部～体部片　口径（11.4）cm　ロクロ成形　素地は明灰色、黒色微粒子含む　釉は青緑色、半透明、細かい気泡含む　単弁　太宰府Ⅲ類
73	Ⅰａ面	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部～体部片　口径（16.0）cm　ロクロ成形　素地は灰色、黒色微粒子多く含む　釉は緑灰色、半透明、ややムラあり　複弁　太宰府Ⅱ類
74	Ⅰａ面	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部～体部片　口径（16.6）cm　ロクロ成形　素地は明灰色、黒色微粒子少し含む　釉は緑灰色、透明、大き目の貫入あり　内面下位に擦過痕すこしあり　複弁　太宰府Ⅱ類
図10－75	Ⅰａ面	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	底部片　底径3.8cm　ロクロ成形　削り出し高台　畳付きより内側露胎　素地は淡灰色で黒色微粒子少量含む精良土　釉は青灰色半透明、気泡・貫入あり　内底面に擦過痕あり　太宰府Ⅱ類
76	Ⅰａ面	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	底部片　底径5.0m　ロクロ成形　削り出し高台　畳付きより内側露胎　素地は灰色で黒色微粒子含む　釉は緑灰色半透明、気泡・貫入あり　内底面に擦過痕あり　太宰府Ⅱ類
77	Ⅰａ面	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	底部片　底径（4.2）m　ロクロ成形　削り出し高台　畳付きのみ露胎　素地は灰白色で黒色微粒子含む　釉は水色半透明、細かい貫入あり　内底面に擦過痕あり　太宰府Ⅲ類
78	Ⅰａ面	青白磁　合子	身部分　口径（2.9）cm　素地は灰白色　釉は青味を帯びた乳白色不透明　側面は型押しで幅の狭い蓮弁を配する

表３　出土遺物観察表（３）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
79	Ⅰａ面	青白磁　合子	身部分　口径（5.8）cm　素地は淡灰色　釉は灰色不透明、貫入あり　側面は型押しで幅の狭い蓮弁を配する
80	Ⅰａ面	滑石　鍋	口縁部片　厚さ2.0cm
81	Ⅰａ面	硯	遺存長（4.5）cm　遺存幅（3.4）cm　遺存厚（0.8）cm　鳴滝産仕上げ砥材（黄灰色　頁岩）を使用したもので、実用には向かない
82	Ⅰａ面	砥石　仕上砥	遺存長(10.7)cm　幅3.8cm　厚さ1.1cm　砥面２面　灰色　鳴滝産
83	Ⅰａ面	滑石鍋　加工品	遺存長(7.2)cm　遺存幅（3.2）cm　厚さ2.0cm　用途不明
84	Ⅰａ面	敲打痕ある石	長さ8.8cm　幅2.3cm　厚さ1.0cm　凝灰岩　片方の先端に敲打による剥離あり
85	Ⅰａ面	軽石製円盤	長さ7.0cm　幅5.5cm　厚さ2.2cm　楕円形に整形
86	Ⅰａ面	鉄製　小皿	口径（4.0）cm　底径（3.7）cm　器高0.75cm　高台あり　仏具の器台か
87	Ⅰａ面	刀子	遺存長（7.0）cm　幅1.3cm　最大厚0.4cm
88	Ⅰａ面	鉄製　火箸	遺存長(6.5)cm　幅0.5cm　厚さ0.5cm
89	Ⅰａ面	鉄製　掛け金具	長さ3.5cm　幅0.2cm　厚さ0.5cm
90	Ⅰａ面	鉄釘	長さ2.6cm　幅0.3cm　厚さ0.2cm　重さ0.4ｇ
91	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（3.2）cm　幅0.3cm　厚さ0.4cm　重さ1.4ｇ
92	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（5.5）cm　幅0.4cm　厚さ0.5cm　重さ3.0ｇ
93	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（5.8）cm　幅0.3cm　厚さ0.3cm　重さ2.5ｇ
94	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（6.5）cm　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ3.2ｇ
95	Ⅰａ面	鉄釘	長さ4.5cm　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ2.7ｇ
96	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（3.0）cm　幅0.3cm　厚さ0.3cm　重さ0.8ｇ
97	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（6.6）cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　重さ5.6ｇ
98	Ⅰａ面	鉄釘	長さ9.1cm　幅0.5cm　厚さ0.3cm　重さ6.5ｇ
99	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（7.0）cm　幅0.⑦cm　厚さ0.5cm　重さ10.8ｇ
100	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（6.5）cm　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ3.2ｇ
101	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（8.0）cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　重さ6.2ｇ
102	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（4.3）cm　幅0.3cm　厚さ0.5cm　重さ2.5ｇ
103	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（4.0）cm　幅0.2cm　厚さ0.2cm　重さ0.6ｇ
104	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（4.0）cm　幅0.5cm　厚さ0.2cm　重さ1.2ｇ
105	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（7.0）cm　幅0.5cm　厚さ0.3cm　重さ3.0ｇ
106	Ⅰａ面	鉄釘	長さ7.0cm　幅0.7cm　厚さ0.4cm　重さ8.5ｇ
107	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（5.5）cm　幅0.5cm　厚さ0.3cm　重さ3.5ｇ
108	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（3.6）cm　幅0.5cm　厚さ0.5cm　重さ2.5ｇ
109	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（4.7）cm　幅0.3cm　厚さ0.3cm　重さ1.3ｇ
110	Ⅰａ面	鉄釘	長さ8.5cm　幅0.6cm　厚さ0.3cm　重さ8.7ｇ
111	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（5.3）cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　重さ3.9ｇ
112	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（4.8）cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm　重さ2.8ｇ
113	Ⅰａ面	鉄釘	遺存長（5.7）cm　幅0.6cm　厚さ0.6cm　重さ4.0ｇ
114	Ⅰａ面	淳化元宝	初鋳990年　北宋　行書
115	Ⅰａ面	景徳元宝	初鋳1004年　北宋　楷書
116	Ⅰａ面	景徳元宝	初鋳1004年　北宋　楷書
117	Ⅰａ面	祥符元宝	初鋳1008年　北宋　楷書
118	Ⅰａ面	天聖元宝	初鋳1023年　北宋　楷書
119	Ⅰａ面	天聖元宝	初鋳1023年　北宋　楷書
120	Ⅰａ面	天聖元宝	初鋳1023年　北宋　篆書
121	Ⅰａ面	皇宋通寶	初鋳1039年　北宋　楷書
122	Ⅰａ面	皇宋通寶	初鋳1039年　北宋　楷書
123	Ⅰａ面	皇宋通寶	初鋳1039年　北宋　楷書
124	Ⅰａ面	嘉祐通宝	初鋳1056年　北宋　楷書
125	Ⅰａ面	治平元宝	初鋳1064年　北宋　篆書
126	Ⅰａ面	熙寧元宝	初鋳1068年　北宋　楷書
127	Ⅰａ面	熙寧元宝	初鋳1068年　北宋　篆書
128	Ⅰａ面	熙寧元宝	初鋳1068年　北宋　篆書
129	Ⅰａ面	熙寧元宝	初鋳1068年　北宋　篆書
130	Ⅰａ面	熙寧元宝	初鋳1068年　北宋　楷書
131	Ⅰａ面	元豊通宝	初鋳1078年　北宋　行書
132	Ⅰａ面	元豊通宝	初鋳1078年　北宋　篆書
133	Ⅰａ面	元祐通宝	初鋳1086年　北宋　行書
134	Ⅰａ面	紹聖元寶	初鋳1094年　北宋　行書
135	Ⅰａ面	紹聖元寶	初鋳1094年　北宋　篆書
136	Ⅰａ面	元符通宝	初鋳1098年　北宋　行書
137	Ⅰａ面	政和通宝	初鋳1111年　北宋　楷書
138	Ⅰａ面	宣和通宝	初鋳1119年　北宋　篆書

表４　出土遺物観察表（４）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
139	Ⅰａ面	淳祐元宝	初鋳1241年　南宋　楷書
140	Ⅰａ面	銭	判読不可
141	Ⅰａ面	銭	判読不可
142	Ⅰａ面	銭	判読不可
図１１－１	建物１　P.1	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文鉢	底部片　底径（13.6）cm　ロクロ成形　削り出し高台　畳付のみ露胎　素地は淡灰色で黒色微粒子含む　釉は青灰色半透明、細かい気泡含む　内底面に擦過痕あり　畳付きに目跡残る
2	建物１　P.1	砥石　中砥	遺存長(4.8)cm　幅4.2cm　厚さ3.8m　砥面４面　淡黄灰色　天草産
3	建物１　P.2	皇宋通寶	初鋳1039年　北宋　楷書
4	建物１　P.4	開元通寶	初鋳621年　唐　楷書
5	建物２　P.4	土師器皿 Ｒ種小型	口径（6.8）cm　底径（4.9）cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子を含む
6	土坑７	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.2)cm　底径5.0cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は赤橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・赤色粒子を含む
7	土坑７	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.6）cm　底径（6.0）cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　胎土は赤橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・礫を含む粗土　口縁部下に小孔貫通
8	土坑７	ふいご　羽口	胎土は淡橙色、赤色粒子・雲母・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
9	土坑７	尾張型山茶碗	口径(13.6)cm　ロクロ成形　胎土は灰色、砂粒・白色粒子少し含む　口縁部内側に降灰
10	土坑７	常滑片口鉢片 加工品	長さ（7.9）cm　幅3.5cm　厚さ1.2cm　胎土は灰色、砂粒・白色粒子を含む　常滑片口鉢Ⅰ類の破片使用　周縁の４辺磨耗く
11	土坑７	白磁口はげ皿	口径（10.3）cm　ロクロ成形　素地は灰白色、黒色微粒子含む　釉は青味を帯びた乳白色、半透明　口唇部に煤付着
12	土坑７	骨製　笄	遺存長（3.0）cm　遺存幅（0.7）cm　厚さ0.2cm　先端部
図12-1	柱穴列1P.7	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片　底径（14.0）㎝　輪積み成形　高台部は剥離　胎土は灰色、石英・長石・砂粒を含む　内底面は使用によりやや磨耗
2	柱穴列1P.9	竜泉窯青磁陰刻 蓮弁文折縁鉢	口縁～胴部片　口径（14.3）cm　ロクロ成形　素地は淡灰色で黒色微粒子含む　釉は青緑色半透明、細かい気泡含み、大きい貫入入る　内面に単弁の陰刻蓮弁文
3	柱穴列1P.9	ふいご　羽口	胎土は赤橙色、白色粒子・泥岩粒・砂粒含む粗土
4	柱穴列1P.11	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.7）cm　底径（5.7）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は黄灰色、海綿骨芯・砂粒・礫・雲母を含む粗土
5	柱穴列1P.13	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は明灰色、石英・長石・砂粒・礫を含む
図13-1	土坑１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.9）cm　底径（5.9）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
2	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.4）cm　底径（9.0）cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土　外底面は黒く炭化
3	土坑１	土師器皿 Ｒ種大型	口径（13.1）cm　底径（9.0）cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む粗土
4	土坑１	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰褐色、大粒の石英・長石・多量の砂粒・礫を含む
5	土坑１	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰橙色、石英・長石・多量の砂粒・灰黒色粒を含む　器表は茶色　口縁部に降灰
6	土坑１	常滑片口鉢Ⅱ類	口径（14.4）㎝　輪積み成形　胎土は灰色、石英・長石・砂粒・礫を含む　器表は灰褐色で内側に降灰　火を受けたため表面に剥離がみられる
7	土坑１	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、長石・灰黒色粒少し含む　器表は茶色　縁帯部分に厚く降灰
8	土坑１	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、長石・砂粒含む　器表は茶色　口縁部・頚部に厚く降灰　火を受け一部剥離
9	土坑１	常滑　甕	肩部片　輪積み成形　胎土は灰色、長石・石英・砂粒含む　叩き目あり
10	土坑１	竜泉窯青磁 無文折縁鉢	口縁～胴部片　口径（12.2）cm　ロクロ成形　素地は淡灰色で黒色微粒子含む　釉は青緑色半透明、細かい気泡含む　貫入少し入る　内底面に擦過痕あり　畳付きに目跡残る　太宰府Ⅲ類
11	土坑１	竜泉窯青磁陰刻 蓮弁文折縁鉢	口径（17.4）cm　底径(8.1)cm　高さ4.65cm　ロクロ成形　削り出し高台　畳付のみ露胎　素地は淡灰色で黒色微粒子含む　釉は青灰色半透明、貫入入る　胴部内側に単弁の蓮弁文　内底面に擦過痕あり　太宰府Ⅲ類
12	土坑１	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部～体部片　口径（17.4）cm　ロクロ成形　素地は明灰色、黒色微粒子含む　釉は緑灰色、半透明　太宰府Ⅱ類
13	土坑１	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口径（17.4）cm　底径4.7cm　ロクロ成形　素地は灰白色、精良土　釉は青緑色、透明　複弁　削り出し高台、畳付きより内側は露胎　内底面に蓮華文型押し、表面は擦過痕あり　太宰府Ⅱ類
14	土坑１	青白磁梅瓶	底径10.2cm　ロクロ成形　素地は灰白色、黒色粒子・気孔少し含む　釉は水色、不透明　削り出し高台、畳付きより内側は露胎　高台上に一条の沈線　胴部は牡丹唐草を陽刻
15	土坑１	鉄釘	遺存長（4.3）cm　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ2.7ｇ
16	土坑１	鉄釘	遺存長（5.6）cm　幅0.5cm　厚さ0.4cm　重さ2.8ｇ
17	土坑１	鉄釘	遺存長（4.0）cm　幅0.4cm　厚さ0.3cm　重さ1.9ｇ
18	土坑１	天禧通寶	初鋳1017　北宋　楷書
19	土坑１	元祐通宝	初鋳1086年　北宋　篆書
20	土坑１	元豊通宝	初鋳1078年　北宋　篆書
図14-1	P.3	祥符元宝	初鋳1008年　北宋　楷書
2	P.3	鉄釘	遺存長（4.9）cm　幅0.3cm　厚さ0.4cm　重さ2.3ｇ
3	P.4	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部～体部片　胎土明灰褐色、砂粒・白色粒子・灰黒色ブロック含む　器表茶褐色　口唇部から内側にかけて降灰
4	P.8	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.8）cm　底径（4.6）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・礫・雲母を含む砂質粗土　口縁部に煤薄く少量付着
5	P.8	祥符元宝	初鋳1008年　北宋　楷書　周辺部を削った加工銭
6	P.12	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　胎土・器表とも暗灰色、砂粒・白色粒子・黒色粒子含む　口唇部から内側にかけて降灰
7	P.15	鉄釘	長5.2cm　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ2.7ｇ
8	P.43	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・砂粒・気孔含む
9	P.51	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.4)cm　底径(5.7)cm　器高1.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
10	P.107	瓦器　火鉢	口縁部片　胎土は灰桃色、白色粒子・多量の砂粒・雲母含む
11	P.107	瓦器　火鉢	胴部から底部片　胎土は灰色、白色粒子・黒色微粒子・雲母・礫含む　胴部下位縦方向櫛状工具痕、最下位は箆削り
12	P.107	ふいご　羽口	胎土は淡橙色、雲母・白色粒子・砂粒・赤色粒含む粗土

表5　出土遺物観察表（5）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
13	P.112	常滑　甕	底部片　胎土は灰褐色、白色粒・砂粒・灰黒色粒・雲母も含む　器表は灰褐色　叩き目（格子）あり
14	P.126	鉄釘	遺存長（3.4）cm　幅0.4cm　厚さ0.5cm　重さ1.2ｇ
15	P.126	鉄釘	遺存長（2.9）m　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ1.2ｇ
16	P.140	南伊勢系土鍋	頸部片　胎土は灰黄色から灰色、白色粒子・雲母・砂粒・赤色粒含む　内側灰色に炭化
17	P.140	常滑片口鉢Ⅱ類	底部片　胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む　内側に降灰　内底面使用により磨耗
18	P.147	土師器皿 R種大型	口径11.9cm　底径8.2cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土　口縁部に油煤付着
19	P.147	白磁口はげ皿	底径6.1cm　ロクロ成形　　胎土は灰白色、微砂粒を含み緻密　釉は緑色を帯びた灰色、半透明　断面の一部に朱漆が付着する
20	P.157	鉄釘	遺存長（4.5)cm　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ1.0ｇ
21	P.157	鉄釘	遺存長（5.0）cm　幅0.4cm　厚さ0.3cm　重さ2.4ｇ
図15-1	P.58	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・黒色粒子・砂粒含む　口縁部から内側にかけて降灰
2	P.58	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・黒色粒子・砂粒含む　器表は灰茶褐色　口縁部から内側にかけて降灰
3	P.50	砥石　仕上砥	遺存長(7.0)cm　遺存幅(5.0)cm　厚さ1.2cm　砥面１面　灰桃色　鳴滝産
4	Ⅰｂ面	土師器皿 R種小型	口径（7.8）cm　底径（6.4）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底面に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・泥岩粒を含む砂質粗土
5	Ⅰｂ面	鉄釘	遺存長（10.2）cm　幅0.4cm　厚さ0.3cm　重さ5.5ｇ
6	Ⅰｂ面	鉄釘	長さ7.6cm　幅0.5cm　厚さ0.7cm　重さ7.3ｇ
7	Ⅰｂ面	鉄釘	長さ7.7ｃｍ　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ4.5ｇ
8	Ⅰｂ面	銭	判読不可
9	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径7.3cm　底径5.7cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・白色粒子を含む
10	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径7.9cm　底径6.0cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・微砂粒・雲母を含む
11	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径（7.7）cm　底径（5.0）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子を含む砂質土
12	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径（7.3）cm　底径（6.1）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質粗土
13	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径（7.8）cm　底径（5.7）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土　口縁部を一部浅いU字形に割り取る
14	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径（7.6）cm　底径（5.9）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
15	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径（7.4）cm　底径（5.9）cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質粗土
16	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径（8.1）cm　底径（7.6）cm　器高2.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質粗土
17	土師器皿片地行	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm　底径(8.7)cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、多量の砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質粗土
18	土師器皿片地行	土師器皿 R種大型	口径（11.7）cm　底径（8.4）cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯・雲母を含む粗土
19	土師器皿片地行	土師器皿 R種大型	口径12.3cm　底径9.3cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯・雲母・泥岩粒を含む差質粗土　焼成きわめて良好
20	土師器皿片地行	ふいご　羽口	胎土は橙色、雲母・白色粒子・砂粒・赤色粒子・泥岩粒含む粗土
21	土師器皿片地行	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む
22	土師器皿片地行	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　胎土は暗灰色、長石・石英含む　器表は灰茶褐色　内側に降灰
図16-1	溝１ｂ	土師器皿 T種大型	口径(10.9)cm　器高(2.6)cm　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は黄灰色、赤色粒子・微砂粒・海面骨芯・雲母を含む
2	溝１ｂ	土師器皿 R種小型	口径（7.8）cm　底径（5.8）cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　底面糸切り　　内底部ナデ　胎土は黄灰色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子含む　口縁部に煤薄く付着
3	溝１ｂ	土師器皿 R種大型	口径12.5cm　底径7.6cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子を含む　口縁部に油煤少量付着
4	溝１ｂ	ふいご　羽口	胎土は淡橙色、雲母・白色粒子・砂粒・赤色粒含む粗土
5	溝１ｂ	常滑　甕	胴部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む　格子叩き目あり
6	溝１ｂ	紹聖元寶	初鋳1094年　北宋　行書
図17-1	溝２	土師器皿 R種小型	口径（7.8）cm　底径（5.4）cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む粗土
2	溝２	土師器皿 R種小型	口径7.6cm　底径5.5cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・白色粒子・雲母を含む粗土　口縁部の一部をU字形に割り取る
3	溝２	土師器皿 R種小型	口径（7.9）cm　底径（5.2）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・礫を含む粗土　口縁部の一部を浅いU字形に割り取る
4	溝２	土師器皿 R種小型	口径（7.7）cm　底径5.9cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ、中央に不貫通の小孔あり　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
5	溝２	土師器皿 R種小型	口径（7.8）cm　底径（5.8）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は灰黄色、海綿骨芯・砂粒・雲母を含む
6	溝２	土師器皿 R種小型	口径7.8cm　底径5.1cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　外底部に板状圧痕　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・白色粒子・雲母を含む　薄く煤付着
7	溝２	土師器皿 R種小型	口径（7.7）cm　底径（6.6）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板に薄く状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒含む粗土
8	溝２	土師器皿 R種大型	口径（11.8）cm　底径（8.5）cm　器高2.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子含む粗土
9	溝２	土師器皿 R種大型	口径11.6cm　底径8.4cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒含む砂質粗土
10	溝２	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm　底径8.5cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　外底部に薄く板状圧痕　胎土は淡橙色～橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・赤色粒子含む砂質粗土　薄く煤付着
11	溝２	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm　底径8.4cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　外底部に板状圧痕　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒・赤色粒子含む砂質粗土
12	溝２	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm　底径7.0cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　外底部に板状圧痕　胎土は淡橙色、砂粒・雲母・泥岩粒・赤色粒子・白色粒子含む粗土
13	溝２	土師器皿 R種大型	口径(11.6)cm　底径8.4cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒・赤色粒子含む粗土

表6　出土遺物観察表（6）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
14	溝２	土師器皿 加工品	土師器皿Ｒ種大型の底部使用　厚さ1.0cm　径0.8cmの小孔貫通、ほかに大小画１穴の不貫通の孔あり　底部の周囲は打ち欠かれている　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・赤色粒子含む粗土
15	溝２	瓦器　火鉢	口縁部片　胎土は灰桃色、白色粒子・多量の砂粒・雲母含む
16	溝２	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～胴部片　輪積み成形　胴部下位ヘラ切り　胎土は灰色、長石・石英・砂粒含む　内側下位は使用のためやや磨耗
17	溝２	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～胴部片　輪積み成形　胴部下位ヘラ切り　胎土は灰色、長石・石英・砂粒・礫・気孔含む　内側下位は使用のためやや磨耗
18	溝２	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　胎土は灰色、白色粒子・砂粒・気孔含む　器表は茶色　内側・口縁部に少量降灰
19	溝２	常滑　壺	底部片　胎度は灰色、白色粒・砂粒含む
20	溝２	砥石　中砥	遺存長(5.2)cm　遺存幅(3.0)cm　遺存厚(3.3)cm　砥面１面　灰桃色　天草産
21	溝２	漆器　皿	口径（9.5）cm　底径（7.4）cm　器高1.5cm　内・外とも黒漆塗り、無紋　外底部木地　無高台
22	溝２	箸状木製品	長16.6cm　幅0.55cm　厚0.4cm　両口
23	溝２	箸状木製品	長22.7cm　幅0.6cm　厚0.3cm　両口
24	溝２	棒状木製品	長23.3cm　幅0.7cm　厚0.8cm　断面は四角で一端が斜めに尖る
25	溝２	棒状木製品	長19.5cm　幅0.9cm　厚0.9cm　断面は丸く、一端が尖る
26	溝２	ヘラ状木製品	遺存長(19.8）cm　幅1.7cm　厚0.5cm
27	溝２裏込め	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.9）cm　底径（6.6）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母含む粗土　中央に小孔貫通
28	溝２裏込め	土師器皿 Ｒ種小型	口径(8.6)cm　底径(7.0)cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・微砂粒・雲母含む
29	溝２裏込め	東濃型山茶碗	底部片　底径6.2㎝　回転ロクロ　貼り付け高台、籾殻痕あり　胎土は明灰色、良質　内底部に紅色の物質が薄く付着　内側と外底部に茶色の物質が付着
図18-1	建物４　Ｐ．１	土師器皿 Ｒ種小型	口径（7.4）cm　底径（6.0）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子を含む砂質土
図19-1	土坑２	土師器皿 Ｒ種大型	口径（11.9）cm　底径8.4cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒を含む砂質粗土
2	土坑２	鉄釘	長さ3.3cm　幅0.2cm　厚さ0.4cm　重さ1.0ｇ
3	土坑２	鉄釘	遺存長（3.6）cm　幅0.4cm　厚さ0.5cm　重さ1.6ｇ
4	土坑３	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.6cm　底径5.2cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質粗土
5	土坑３	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.3cm　底径5.1cm　器高1.2cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む粗土
6	土坑３	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.4cm　底径8.0cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色･海綿骨芯･砂粒･赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む粗土
7	土坑３	土師器皿 Ｒ種大型	口径12.8cm　底径8.7cm　器高3.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色･砂粒･赤色粒子･雲母・泥岩粒を含む粗土
8	土坑３	白磁口はげ皿	口径9.4cm　底径6.7cm　器高1.65cm　ロクロ成形　素地は白色　釉は青味を帯びた乳白色半透明　貫入あり
9	土坑３	砥石　仕上砥	長さ4.8cm　幅3.8cm　厚さ1.6cm　砥面２面　側面４面に鋸痕残る(生産地での切り出しと思われる）　灰緑色　鳴滝産
10	土坑３	砥石　仕上砥	遺存長(5.0)cm　幅3.5cm　厚さ0.4～0.7cm　砥面２面　灰緑色　鳴滝産
11	土坑３	温石	遺存長(8.9)cm　幅11.5cm　厚さ2.7cm　長径2.7cm、短径1.0cmの孔貫通、寸法は分からないが同様の孔がもう一箇所貫通している　表面は全体に無数の傷あり、黒く炭化している　西彼杵産
12	土坑３	箸状木製品	長20.2cm　幅0.5cm　厚0.45cm　両口
13	土坑３	箸状木製品	長22.4cm　幅0.65cm　厚0.45cm　両口
14	土坑３	箸状木製品	長21.3cm　幅0.6cm　厚0.6cm　両口
15	土坑３	祥符通宝	初鋳1008年　北宋　楷書
16	土坑３	政和通宝	初鋳1111年　北宋　篆書
17	土坑３	熙寧元宝	初鋳1068年　北宋　楷書
18	土坑４	土師器皿 Ｒ種小型	口径8.4cm　底径6.0cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質土　口縁部を一部割り取る。半分に厚めに油煤付着
19	土坑４	鉄釘	長さ3.7cm　幅0.3cm　厚さ0.3cm　重さ0.8ｇ
20	土坑５	白色系土師器皿 Ｔ種極小型	口径(5.7)cm　器高(1.3)cm　外底面指頭痕　側面はやや内折れ　胎土は淡灰色から乳白色、粉質精良土　器表は肌色
21	土坑６	土師器皿 Ｒ種大型	口径（12.7）cm　底径（8.4）cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
22	土坑６	鉄釘	遺存長（8.0）cm　幅0.5cm　厚さ0.4cm　重さ4.6ｇ
23	P.27	鉄釘	遺存長（3.0）cm　幅0.5cm　厚さ0.5cm　重さ1.4ｇ
24	P.30	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　胎土は灰色、長石・石英・砂粒・礫含む　器表は茶褐色　内側に降灰
25	P.30	東遠型山皿	胴部片　胎土は肌理細かく堅緻
26	P.31	砥石　仕上砥	遺存長(4.5)cm　遺存幅（3.3）cm　遺存厚0.3cm　砥面１面　灰橙色　鳴滝産
27	P.34	鉄釘	長さ8.8cm　幅0.4cm　厚さ0.4cm　重さ4.5ｇ
28	P.46	土師器皿 Ｒ種小型	口径7.4cm　底径6.2cm　器高1.4cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
29	P.49	白磁口はげ皿	口縁部から胴部片　口径(10.3)cm　ロクロ成形　素地は灰白色　釉は青味を帯びた乳白色半透明　口縁部に煤少し付着
30	P.166	土師器皿 Ｒ種小型	口径(8.2)cm　底径6.0cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、多量の砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒子を含む砂質土
31	P.166	常滑片口鉢Ⅱ類	底部片　底径(16.0)cm　胎土は橙色、砂粒・長石・石英・気孔含む　器表は茶色～橙褐色　内面使用により滑らかに磨耗
図20-1	Ⅱ面	土師器皿 Ｔ種大型	口縁部～胴部片　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は橙色、赤色粒子・微砂粒・海面骨芯・雲母を含む
2	Ⅱ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径(8.5)cm　底径(5.7)cm　器高1.7cm　回転ロクロ　底面糸切り　胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・雲母を含む
3	Ⅱ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径8.8cm　底径7.0cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底面ナデ　胎土は淡橙色、多量の砂粒・赤色粒子・雲母・海面骨芯を含む砂質土　口縁部に少量油煤付着
4	Ⅱ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径11.9cm　底径8.4cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底面薄く板状圧痕　内底面ナデ　胎土は橙色、多量の砂粒・赤色粒子・雲母・海面骨芯・泥岩粒を含む砂質土

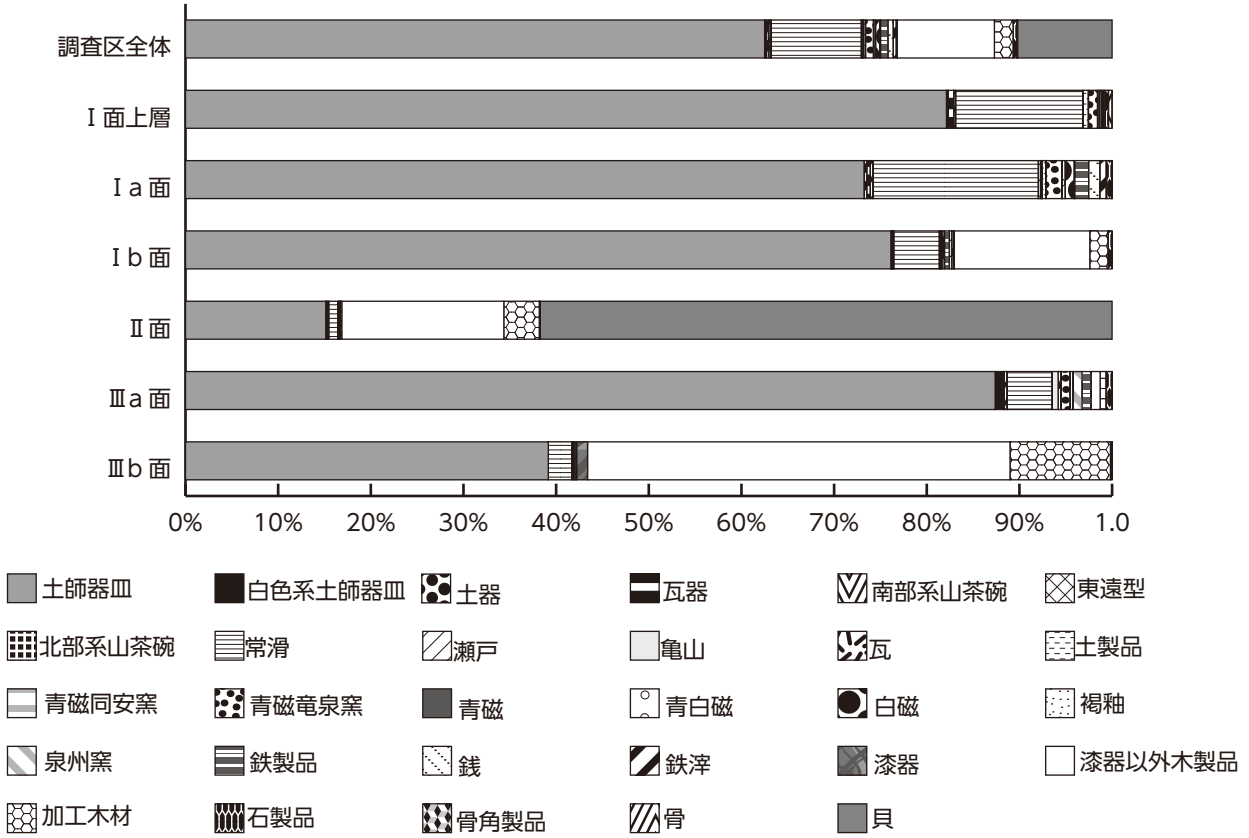
表7　出土遺物観察表（7）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
5	Ⅱ面	瓦器輪花碗	口縁～胴部片　胎土は淡灰色　器表は茶色　内側及び外側上位は磨き　内側は横位の暗文、炭素吸着により暗灰色～灰色を呈す　胴部下位はヘラにより輪花を形成　楠葉型
6	Ⅱ面	東遠型山茶碗	口縁部片　胎土は灰色、白色粒子含む　口縁部に降灰
7	Ⅱ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片　胎土は灰色、砂粒・長石・石英・礫含む　内底面使用により磨耗　破片の周辺は打ち欠かれている
8	Ⅱ面	砥石　仕上砥	遺存長(3.5)cm　幅3.4cm　厚さ0.4cm　砥面２面　淡黄橙色　鳴滝産
9	Ⅱ面	鉄釘	長さ4.8cm　幅0.3cm　厚さ0.2cm　重さ1.5ｇ
図22-1	溝３	土師器皿 Ｔ種小型	口径(8.3)cm　器高(2.0)cm　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は黄灰色、微砂粒・海面骨芯・雲母を含む
2	溝３	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.9)cm　底径(6.0)cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む　中央に小孔貫通　口縁部の一部を打ち欠く
3	溝３	土師器皿 Ｒ種小型	口径(8.7)cm　底径(7.2)cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　胎土は黄灰色、海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む
4	溝３	土師器皿 Ｒ種小型	口径(8.9)cm　底径(7.4)cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は黄灰色、砂粒・赤色粒子・雲母を含む
5	溝３	土師器皿 Ｒ種中型	口径(9.9)cm　底径(6.7)cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・雲母を含む　煤少量付着
6	溝３	土師器皿 Ｒ種大型	口径(11.8)cm　底径(7.8)cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・雲母を含む
7	溝３	土師器皿 Ｒ種大型	口径(12.6)cm　底径(9.8)cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒子を含む砂質土　煤少量付着
8	溝３	土師器皿 加工品	土師器皿Ｒ種底部を使用　底径6.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　外底面板状圧痕　底部周辺を打ち欠き円盤状となし、径0.6cmの孔一箇所貫通　胎土は灰黄色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒子・泥岩粒を含む砂質土
9	溝３	土師器転用円盤	土師器皿Ｒ種の底部を転用　直径3.0cm　厚1.0cm　胎土は橙色、赤色粒子・白色粒子・砂粒・泥岩粒を含む
10	溝３	土師器転用円盤	土師器皿Ｒ種の底部を転用　直径3.2～3.4cm　厚1.0cm　胎土は橙色、赤色粒子・海綿骨芯・砂粒を含む
11	溝３	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　胎土は淡灰褐色、砂粒・長石・石英含む
12	溝３	白磁無文皿	口縁から体部片　口径(8.3)cm　ロクロ成形　素地は灰白色、黒色微粒子含む　釉は青味を帯びた乳白色半透明
13	溝３	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部～体部片　ロクロ成形　素地は灰白色、黒色微粒子含む　釉は緑灰色、半透明　太宰府Ⅱ類
14	溝３	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰色、白色粒子・橙色ブロック含む　器表は茶色　縁帯部分・頸部に厚く降灰
15	溝３	漆器　椀	底部～体部片　底径6.9cm　内・外とも黒漆塗り、無紋　輪高台
16	溝３	箸状木製品	長24.0cm　幅0.7cm　厚0.45cm　両口
17	溝３	箸状木製品	長22.7cm　幅0.6cm　厚0.3cm　両口
18	溝３	箸状木製品	長21.8cm　幅0.7cm　厚0.5cm　両口
19	溝３	連歯下駄	遺存高(6.6)cm　最大幅11.5cm　厚さ2.8cm
20	溝３	草履芯	長23.0cm　幅展開推測値10.0cm　厚0.2cm　植物圧痕残る
21	溝３	草履芯	長22.2cm　幅展開推測値10.0cm　厚0.3cm　植物圧痕残る
22	溝３	草履芯	長22.2cm　幅10.0cm　厚0.4cm　植物圧痕残る
23	溝３	草履芯	長22.7cm　幅9.9cm　厚0.4cm　植物圧痕残る
24	溝３	木製櫛	遺存幅(9.2)cm　高さ4.8cm　最大厚0.8cm　棟は緩い弧を描く　歯は密(cmあたり11～12本)
25	溝３	串状木製品	遺存長(23.1)cm　幅1.2cm　厚0.9cm　先端は尖る
26	溝３	棒状木製品	遺存長(18.2)cm　幅1.5cm　厚0.9cm　断面楕円形に削りを施す　先端はやや窄まる
27	溝３	ヘラ状木製品	遺存長16.5cm　幅1.8cm　最大厚0.7cm　側面丸く削りを施す　一端は丸み帯びてを尖り、他端には小孔貫通
28	P.79	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.7)cm　底径(6.5)cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土　内底面を円く刳り抜く
29	P.79	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片　胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む
図23－1	Ⅲａ面	土師器皿 Ｒ種小型	口径(7.9)cm　底径(6.0)cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
2	Ⅲａ面	土師器皿 Ｒ種大型	口径(12.6)cm　底径8.5cm　器高2.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母含む砂質土
3	Ⅲａ面	白色系土師器皿 Ｔ種小型	口径(6.5)cm　器高1.2cm　外底部手ヅクね　口縁部は打ち折れで一部故意に打ち欠く　胎土は乳白色、微砂粒を含む
4	Ⅲａ面	白色系土師器皿 Ｔ種小型	口径(8.5)cm　器高1.8cm　手ヅクね後口縁部・内底部ナデ　胎土は乳白色、微砂粒を含む
5	Ⅲａ面	尾張型山茶碗	口縁部片　ロクロ成形　胎土は灰色、長石・石英・砂粒・灰黒色粒し含む
6	Ⅲａ面	亀山　甕	胴部片　胎土は灰色、微砂粒・白色粒子含み瓦質に近い須惠質　外側は細かい格子叩き目　図23-7と同一個体の可能性あり
7	Ⅲａ面	亀山甕転用陶片	長6.5cm　幅4.5cm　厚0.9cm　亀山甕底部片使用　胎土は灰色、微砂粒・白色粒子含み瓦質　図23-6と同一固体の可能性あり　２辺と外器表面を細かい敲打に使用
8	Ⅲａ面	緑釉茶入れ	底部片　底径(7.0)cm　左回転ロクロ成形、底部糸きり後周縁をヘラで削る　胎土は淡褐色、堅緻　釉は濃緑色で、胴部下位まで掛かり、銀化が認められる
9	Ⅲａ面	竜泉窯青磁 画花文碗	口縁～胴部片　ロクロ成形　素地は黄灰色、黒色微粒子・気孔含む　釉は淡灰緑色、透明、細かい貫入あり　内側に画花文、表面には擦過痕多数　焼成不良のため気泡多くやや失透
10	Ⅲａ面	砥石　仕上砥	長6.3cm　幅3.2cm　厚さ0.6cm　砥面２面　淡灰桃色　鳴滝産
11	Ⅲａ面	鉄釘	遺存長(3.4)cm　幅0.5cm　厚さ0.4cm　重さ1.6ｇ
12	溝７	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁～胴部片　口径(13.8)cm　ロクロ成形　素地は淡灰色、精良土　釉は水色、半透明　複弁 太宰府Ⅱ類
図24－1	P．172	土師器皿 Ｔ種小型	口径(9.3)cm　器高2.1cm　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は淡橙色、砂粒・海面骨芯・雲母・赤色粒子・泥岩粒・礫を含む粗土
2	P．172	土師器皿 Ｔ種小型	口径9.1cm　器高2.0cm　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は橙色、砂粒・海面骨芯・雲母・赤色粒子・白色粒・泥岩粒・礫を含む砂質粗土
3	P.175	土師器皿 Ｒ種大型	口径(12.7)cm　底径(8.5)cm　器高3.4cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒・泥岩粒を含む砂質粗度　口縁部の一部に煤薄く付着
4	P.175	常滑片口鉢Ⅰ類	底部～胴部片　底径(12.6)cm　胎土は灰色、砂粒・長石・石英・灰黒色粒含む　内底面使用によりやや磨耗
5	P.66	鉄釘	長さ4.5cm　幅0.4cm　厚さ0.5cm　重さ3.0ｇ
6	P.103	鉄釘	長さ5.6cm　幅0.3cm　厚さ0.3cm　重さ2.6ｇ

表8　出土遺物観察表（8）

挿図番号	出土遺構	種別	備考
7	P.85	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片　胎土は灰色、砂粒・長石・礫・気孔含む　器表は灰色～暗灰色　内面使用により滑らかに磨耗
8	P.189	土師器皿 R種小型	口径(8.6) cm　底径（6.5）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
図25－1	Ⅲｂ面	土師器皿 R種小型	口径(7.8) cm　底径（5.7）cm　器高1.6cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯･砂粒･赤色粒子･雲母･白色粒を含む砂質粗土
2	Ⅲｂ面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm　底径6.5cm　器高1.7cm　回転ロクロ　火を受けて表面が剥離しているため糸切り痕・ナデははっきりしない　胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土　口縁部に油煤付着　口縁の一部を打ち欠く
3	Ⅲｂ面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm　底径6.5cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質土
4	Ⅲｂ面	土師器皿 R種小型	口径(8.2) cm　底径（5.8）cm　器高1.5cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土　口縁部に油煤付着
5	Ⅲｂ面	土師器皿 R種小型	口径8.6cm　底径7.4cm　器高1.9cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・赤色粒子・砂粒・泥岩粒を含む砂質粗土　口縁部に油煤付着
6	Ⅲｂ面	土師器皿 R種大型	口径(11.8) cm　底径（8.5）cm　器高2.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は淡橙色、多量の砂粒・赤色粒子・白色粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
7	Ⅲｂ面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部・底部片　胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む　　内面下位使用によりやや磨耗
8	Ⅲｂ面	常滑　甕	口縁部片　輪積み成形　胎土は灰褐色、砂粒・白色粒・礫含む　器表は茶色　縁帯部分に降灰
9	Ⅲｂ面	漆器　椀	底部～胴部片　底径7.3cm　輪高台　内底部に厚めに塗ったハケ目残る　外底部は木地　外側には黒漆少量残る
10	Ⅲｂ面	円板状木製品	直径6.2cm　厚さ0.25cm　柾目材　中央に小孔貫通　両面とも傷多数あり
図26－1	溝4	土師器皿 T種小型	口径(7.5)cm　器高1.6cm　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は淡橙色、微砂粒・雲母を含みやや粉質
2	溝4	土師器皿 T種小型	口径9.6cm　器高1.6cm　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は淡橙色、白色粒子・微砂粒・雲母を少量含む粉質土
3	溝4	土師器皿 R種小型	口径(8.6) cm　底径（6.0）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は黄灰色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・雲母を含む
4	溝4	土師器皿 加工品	土師器ⅢR種小型を使用　底径6.4cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、多量の砂粒・白色粒子・雲母を含む砂質土　周縁部を故意に打ち欠く　底部のほぼ中央に両面から小孔を穿つが不貫通
5	溝4	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片　底径(12.8)cm　胎土は灰色、砂粒・白色粒子含む　内面使用により滑らかに磨耗　高台下部に籾殻痕あり
6	溝4	常滑　甕	底部片　底径(15.8)cm　輪積み成形　胎土は灰橙色、砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母含む　器表は暗灰色　内面に降灰
7	溝4	漆器　椀	底部～胴部片　底径7.6cm　内・外とも黒漆塗り、無紋　外底部木地　無高台
8	溝4	漆器　椀	口縁部～胴部片　内・外とも黒漆塗りに朱漆で花紋の押印
9	溝4	箸状木製品	長21.1cm　幅0.75m　厚0.6cm　両口
10	溝4	折敷	長さ26.4cm　遺存幅(16.4)m　厚0.15cm　柾目材　隅を直線的に落とす　縁に用いられた材は0.3cm×0.25cm　遺存長(48.5）cmで角にあたる部分に３箇所刻みを入れて形作った痕がある
11	溝4	子供用下駄	長さ13.1cm　依存幅(8.2)cm　遺存高(3.3)cm　鼻緒の孔が無く、使用による摩滅も見られないことから未成品の可能性があるが、表面に細かな切り傷があるので、失敗品を転用したとみたい
12	溝4	用途不明木製品	遺存長(7.5) cm　幅1.5cm　厚0.5cm　貫通小孔あり　扇骨の基部の可能性あり
13	溝4	ヘラ状木製品	長さ16.1cm　幅1.6cm　厚0.8cm　丁寧な削りで先端は丸みを帯びて薄く作られる
14	溝4	ヘラ状木製品	長さ11.4cm　幅1.4cm　厚0.9cm
図27－15	溝4	棒状木製品	長さ29.2cm　幅1.2cm　厚1.0cm　断面ほぼ円形、やや先細りに削られる
16	溝4	棒状木製品	遺存長(18.7)cm　幅1.1cm　厚1.0cm　断面ほぼ円形、やや先細りに削られる
17	溝4	部材	長さ25.0cm　幅11.3cm　厚さ4.6cm　礎板状　中央に最大値9.0cm×5.8cmの不規則な形状の臍が貫通
18	溝5	土師器皿 R種小型	口径(7.8) cm　底径（6. 7）cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　内底部ナデ　胎土は黄灰色、海綿骨芯･砂粒･赤色粒子･雲母を含む粗土
19	溝5	土師器皿 R種大型	口径(12.6) cm　底径（9.0）cm　器高3.1cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部板状圧痕　内底部ナデ　胎土は黄灰色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質土
20	溝5	漆器　皿	口径（9.4）cm　底径（6.7）cm　器高1.7cm　内・外とも黒漆塗りに朱漆で手描き植物紋　平高台
図28－1	建物8　P．1	箸状木製品	長17.8cm　幅0.45m　厚0.4cm　両口
2	建物8　P．1	箸状木製品	長22.4cm　幅0.7m　厚0.3cm　両口
3	建物8　P．2	土師器皿 R種小型	口径8.1cm　底径6.2cm　器高1.3cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は赤橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・白色粒・雲母・礫を含む砂質粗土
4	建物8　P．2	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm　底径9.0cm　器高3.0cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に薄く板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む粗土
5	建物8　P．2	銭	銭種不明
6	建物8　P．4	土師器皿 R種小型	口径8.5cm　底径5.7cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　外底面は剥離により糸切り痕不鮮明　内底部ナデ　胎土は黄灰色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質土　口縁部油煤付着
図29－1	P .86	土師器皿 T種小型	口径(7.8)cm　器高（2.0）cm　手ヅクね後口縁部内底部ナデ　胎土は橙色、赤色粒子・多量の砂粒・海綿骨芯・雲母を含む砂質土　表面は火を受け剥離
2	P .94	砥石　仕上砥	長さ5.8cm　幅2.8cm　厚さ0.6cm　砥面２面　淡灰橙色　鳴滝産
図30－1	ⅢC面	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片　胎土は灰色、砂粒・白色粒子含む　内面使用により滑らかに磨耗
図32－1	中世以前	土師器器台	脚部片　胎土は砂粒・海綿骨芯・白色粒子・雲母を含み硬質　上面は滑らかに磨耗　脚部側面に透かし孔あり　古墳前期
2	遺構外	土師器皿 R種小型	口径(7.3) cm　底径（5.7）cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
3	遺構外	土師器皿 R種小型	口径(7.6) cm　底径5.4cm　器高1.7cm　右回転ロクロ　底面糸切り　外底部に板状圧痕　内底部ナデ　胎土は淡橙色、海綿骨芯・微砂粒・雲母を含みやや粉質
4	遺構外	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	底部～胴部片　底径（5.5）cm　ロクロ成形　素地は淡灰色、黒色微粒子含む　釉は灰緑色、半透明　複弁　内底部蓮華文型押し、表面は使用による擦過痕あり　削り出し高台、畳み付き脇まで施釉
5	遺構外	滑石鍋転用品	長さ5.0cm　幅6.5cm　厚さ1.6cm　口縁部片使用　色調青灰銀色
6	遺構外	砥石　仕上砥	遺存（4.6）cm　幅3.5cm　厚さ0.5cm　砥面２面　淡灰緑色　鳴滝産
7	遺構外	鉄釘	遺存長（4.5）cm　幅0.5cm　厚さ0.5cm　重さ2.6ｇ
8	遺構外	熙寧元宝	初鋳1068年　北宋　楷書
9	遺構外	元豊通宝	初鋳1078年　北宋　行書

表９　出土遺物計量表



	Ⅰ面上層		Ⅰa面		Ⅰb面		Ⅱ面		Ⅲa面		Ⅲb面		調査区全体	
土師器皿	418	82.12%	2172	73.23%	1422	76.12%	193	15.14%	270	87.38%	231	39.15%	4822	62.50%
白色系土師器皿	1	0.20%	1	0.03%	1	0.05%	0	0.00%	3	0.97%	0	0.00%	6	0.08%
土器	0	0.00%	8	0.27%	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	10	0.13%
瓦器	3	0.59%	11	0.37%	1	0.05%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	18	0.23%
南部系山茶碗	1	0.20%	9	0.30%	1	0.05%	2	0.16%	1	0.32%	0	0.00%	15	0.19%
東遠型	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.03%
北部系山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
常滑	70	13.75%	529	17.84%	92	4.93%	13	1.02%	15	4.85%	15	2.54%	753	9.76%
瀬戸	0	0.00%	7	0.24%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	8	0.10%
亀山	0	0.00%	2	0.07%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.65%	0	0.00%	4	0.05%
瓦	0	0.00%	3	0.10%	1	0.05%	0	0.00%	1	0.32%	0	0.00%	5	0.06%
土製品	3	0.59%	12	0.40%	2	0.11%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	17	0.22%
青磁同安窯	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
青磁竜泉窯	5	0.98%	51	1.72%	1	0.05%	1	0.08%	3	0.97%	1	0.17%	66	0.86%
青磁	1	0.20%	1	0.03%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.04%
青白磁	1	0.20%	10	0.34%	1	0.05%	0	0.00%	1	0.32%	0	0.00%	15	0.19%
白磁	1	0.20%	29	0.98%	5	0.27%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	37	0.48%
褐釉	0	0.00%	1	0.03%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
泉州窯	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.97%	0	0.00%	3	0.04%
鉄製品	1	0.20%	45	1.52%	10	0.54%	1	0.08%	3	0.97%	1	0.17%	62	0.80%
銭	0	0.00%	36	1.21%	5	0.27%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	44	0.57%
鉄滓	0	0.00%	21	0.71%	4	0.21%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	25	0.32%
漆器	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	1	0.08%	0	0.00%	7	1.19%	9	0.12%
漆器以外木製品	0	0.00%	0	0.00%	273	14.61%	223	17.49%	3	0.97%	269	45.59%	808	10.47%
加工木材	0	0.00%	0	0.00%	37	1.98%	49	3.84%	2	0.65%	64	10.85%	157	2.03%
石製品	2	0.39%	17	0.57%	8	0.43%	1	0.08%	2	0.65%	1	0.17%	33	0.43%
骨角製品	0	0.00%	1	0.03%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
骨	2	0.39%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.03%
貝	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	787	61.73%	0	0.00%	0	0.00%	787	10.20%
総計	509	100%	2966	100%	1868	100%	1275	100%	309	100%	590	100%	7715	100%

第四章　まとめと考察

１．東側隣地との関係

近年、東側隣地の由比ガ浜一丁目151番１でも調査が行われている（熊谷ほか2011、図１の２地点）。この調査結果と本調査区との関係についてまず考察したい。

東側隣地の調査は掘削深度が表土下90㎝までとなっていて、基盤層まで掘り下げていない。また、本調査地点では表土が厚さ1.4 ～ 1.6ｍであるのに対し、東側隣地は表土が厚さ40㎝～ 60㎝となっており、本調査地点のほうが、上層を大きく削平された状況となっている。これらのことから、面の標高を基準に対応する面が存在するか探ってみた。

東側隣地の検出最下層面は標高8.20ｍほどとなっている。一方、本調査地点のＩａ面では最も標高の高いＩａ面西側で8.20ｍほど、東側は7.90ｍほどとなっている。また、東側隣地の最下層東西溝の切込み面が標高8.20ｍほどであり、深さも20㎝ほどであるのに対し、本調査地点の最上層溝である溝１の切込み面は、最も標高の高い調査区西側壁面で8.15ｍほど、深さも40㎝ほどとなっている。これらのことや、本調査区での堆積状況から見て、東側隣地の検出最下層面である３面のほうが、本調査地点の最上層面であるＩａ面やＩａ面上層よりも、さらに上層である可能性が高い。

図35の東側隣地調査区と本調査区は、溝の位置や両調査区の位置関係を視覚的にとらえやすくするために、本調査地点の最上層と東側隣地の最下層をあわせて示したものであるが、前述したように、おそらく面は違うと考えられる。本調査地点の東壁から東側隣地調査区までは約３ｍ50㎝、東側隣地の２面南北道路西側側溝までは４ｍ強離れている。

２．遺構の変遷と年代

中世以前

遺構は検出できなかったが、図示したもの以外に古墳時代前期の台付甕と坩が１片ずつ、古墳時代後期の土師器片２点、須恵器片１点、古代の土師器片14点が採集されている。

中世１期―Ⅳ面

調査面積が狭小なため、遺構の広がりを把握することができなかった。また、出土遺物も１点のみと非常に少ないので、詳しい年代はわからないが、１点のみ出土した遺物が尾張型山茶碗の第６型式ないし第７型式であることや、上層面との相対的な関係から、13世紀第２四半期が上限とみてよかろう。

調査区北側の東西溝（溝８）は上層溝に削平されており、南岸をわずかに残すのみである。いずれにしろ本調査地点において終始存在しつづける東西溝の造作が、本調査地点で人的営為の始まるこの時期まで遡ることはわかる。

中世２期―Ⅲｃ面

２区のみで検出された。出土遺物が少ないため年代について確たることはいえない。13世紀第２四半期～ 13世紀中葉か。出土遺物の常滑片口鉢Ｉ類は底部破片のため詳細は不明だが、13世紀第３四半期より新しくなることはない。調査区北辺に東西溝は検出されていないが、下層で検出された溝８が引き続き使用されていた可能性もある。検出された柱穴列であるが、Ⅲｃ面の検出された範囲が狭いため東西の広がりが判明しなかった。上層と状況が同じであるとすれば、東方に広がる可能性がある。

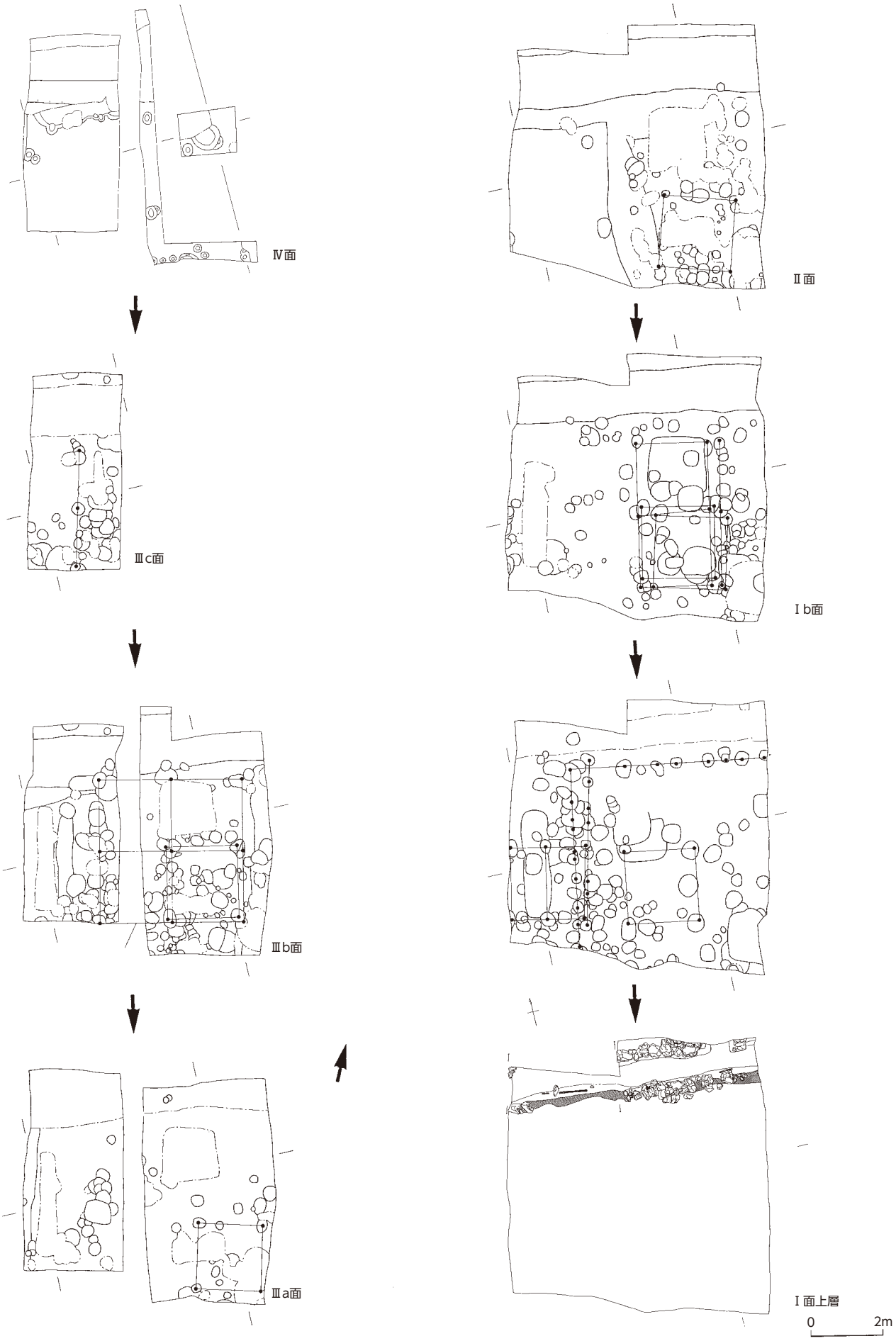


図33　遺構変遷図

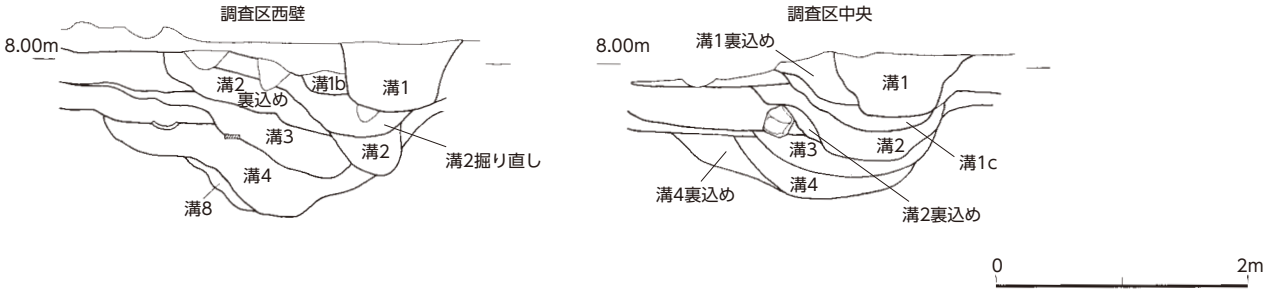


図34　断面から見た溝の変遷

中世３期―Ⅲｂ面

面の年代は13世紀第２四半期～第３四半期。調査区北辺に東西溝（溝４）がある。建物は２棟とも軸方位を東西溝とほぼ同じくする。また、調査区東壁際と調査区西側に東西溝に直交する溝５と溝状遺構が検出されている。これを区画溝とするならば建物８は調査区内から広がらない可能性がある。一方建物９はこれらの遺構群の中では新しい時期になるため、調査区外南東方向に広がる可能性もある。溝４の出土遺物の中には下駄の未成品(図26―11)がある。東側隣地西壁から調査区東壁際南北溝(溝５)までの距離は、約３ｍ70㎝である。

出土土師器皿の比率はＴ種4.76％、Ｒ種95.24％となっている。

中世４期―Ⅲａ面

面の年代は13世紀中葉～第３四半期。中世３期と違い南北溝の位置が西壁際に移動している。また、小穴の数も中世３期と比較すれば大きく減っており、地割や土地利用に変化が生じた可能性がある。しかし、建物の位置は継続して調査区内南東寄りにあり、軸方位もほぼ同じである。

調査区北辺の東西溝は確認されないが、下層の東西溝（溝４）が、引き続き使用されていたと考えられる。調査区西壁際に南北溝（溝７）があるが、これは東西溝（溝４）に流れ込んでいたものであろう。

東側隣地西壁から南北溝（溝７）までの距離は約10ｍ30㎝である。

出土土師器皿の比率はＴ種6.30％、Ｒ種93.70％となっている。

中世５期―Ⅱ面

面の年代は13世紀中葉～第３四半期。この時期にも調査区北辺に東西溝（溝３）がある。調査区中央部に南北溝（溝６）が現れ、遺構はこの南北溝（溝６）の東側に集中する状況となり、中世４期とは様相が異なる。この時期にも地割等に変化が生じた可能性がある。建物の位置は継続して調査区南東寄りにある。ここでも建物の軸方位に変化は見られない。東側隣地西壁から南北溝（溝６）までの距離は約６ｍ50㎝である。

出土土師器皿の比率はＴ種6.74％、Ｒ種93.26％となっている。

中世６期―Ⅰｂ面

年代は13世紀後半。中世５期に調査区中央部にあった南北溝は存在しないが、調査区東側のほうが土坑群を中心に遺構密度が濃い。建物も調査区東側にあり、軸方位にも変化はみられず、中世５期からの連続性が認められる。しかし、土坑の数が増えており場の性格が変わった可能性もある。調査区北辺の東西溝は溝２と溝１ｂの２条確認されているが、溝１ｂのほうが新しい。鋳造関連遺物として、ふいごの羽口２点、鉱滓３点が出土している。

出土土師器皿の比率はＴ種0.35％、Ｒ種99.65％となっている。

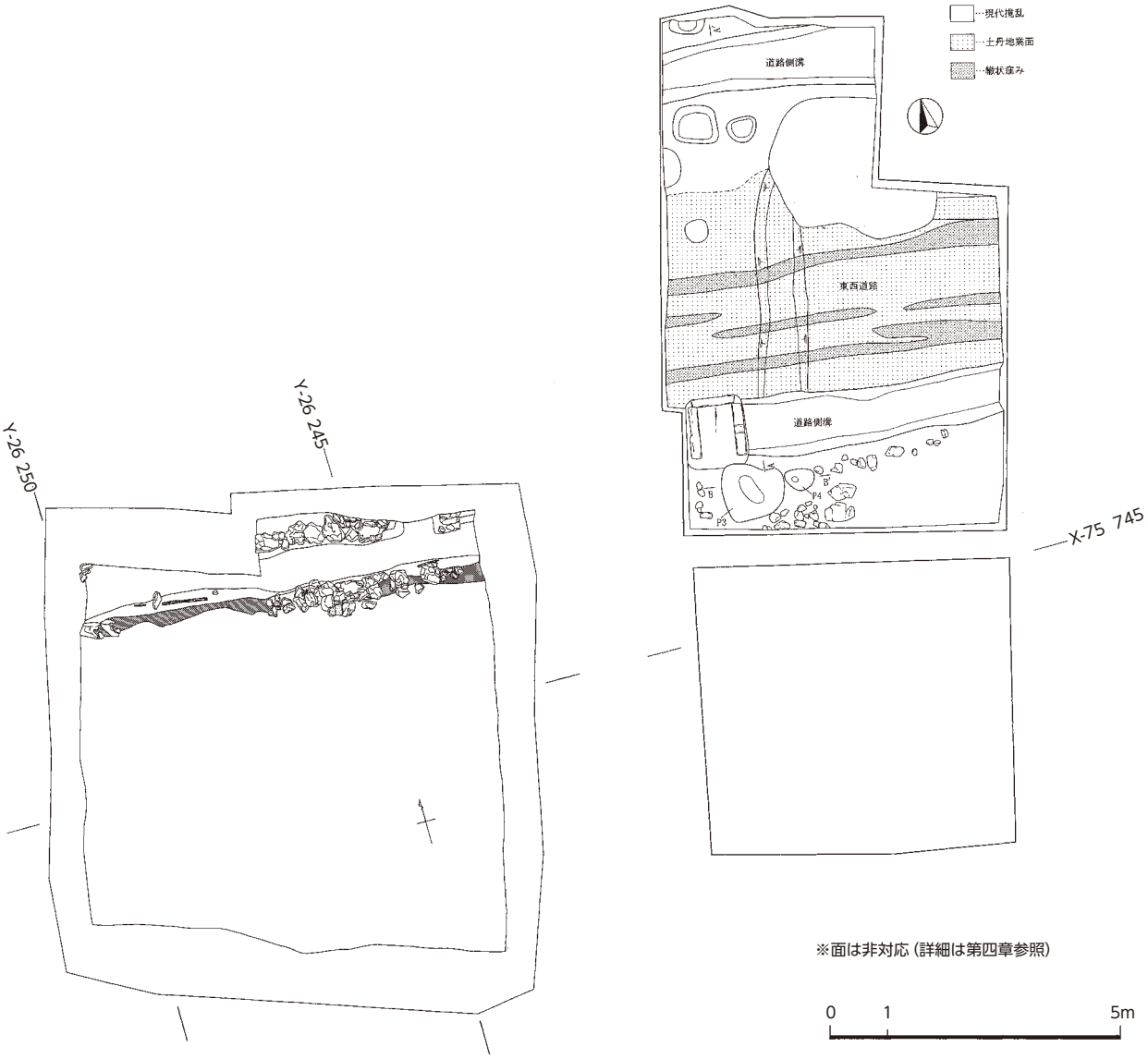


図35　東側隣地調査区と本調査区

中世７期―Ⅰａ面

年代は13世紀後半。中世６期までと違い、柱穴列によって区画されている。調査区の東西に建物があり、下層と様相が違う。建物１は東と南に、建物２は西と南にそれぞれ広がる可能性がある。本調査のもっとも上面のため削平が激しく、当時期に比定しうる東西溝は確認されなかった。連綿と続く溝が中世７期だけない、というのも考えにくいため、当時期のみ溝が調査区外北側に移動しているか、溝１ないし土層断面で確認できた溝１ｃが該当する可能性もある。出土遺物の特徴として、ふいごの羽口が面上から７点、Ⅰａ面遺構から６点と総計18点中13点がⅠａ面から出土している。さらに、鉱滓も面上17点、Ⅰａ面遺構から３点と総計23点中20点がⅠａ面からの出土となっている。上層が攪乱により大きく削平されているため、上層からの紛れ込みの可能性もあるが、当期以降に本調査地点周辺で鋳造が行われていた可能性を示唆するものであろう。

出土土師器皿の比率はＴ種0.23％、Ｒ種99.77％となっている。

中世８期―Ⅰａ面上層

年代は13世紀後半～ 14世紀初頭か。溝１のみが該当する。攪乱による削平のため面のつながりが把握できず、また、切込み面の標高が１ａ面に比して高いため、上層遺構としたものである。前述したように、層のつながりが把握できないだけで、Ⅰａ面の東西溝である可能性もある。年代については、出土遺物の年代が13世紀中葉～第３四半期のものが中心であるが、層位的にみてこれは採用できず、上限は13世紀後半となろう。下限については、それを示す出土遺物がないため詳しくはわからない。

出土土師器皿の比率はＴ種1.67％、Ｒ種98.33％となっている。

３．東西溝の変遷

まず中世１期に最初の東西溝である溝８が構築される。この溝８は上層の溝４によってほとんど削平されており詳細はわからない。次に東西溝がつくられるのは、中世３期になってからである。中世３期になると溝４が構築される。この溝４は中世３期と４期に使用されたものと考えられる。中世５期には溝３、中世６期には溝２のちに溝１ｂが掘りこまれる。こののち調査区中央土層でのみ確認された溝１ｃが掘りこまれ、最後に溝１が掘りこまれる。この溝１ｃと溝１は攪乱により大きく削平されているため、本調査地点において検出された面との関係は不明である。

４．まとめ

図35にあるように、本調査地点の東西溝のほぼ延長線上に東側隣地の東西道路南側側溝がくることがわかる。また、東側隣地の調査では遺構の壁面に、より下層の道路と思われる泥岩地形層が確認されている。これらのことから、本調査地点の東西溝は東側隣地で検出された東西道路南側側溝の下層の溝であると考えられ、本調査地点の北側調査区外には東側隣地から続く道路の存在が推測される。つまり、本調査地点の東西溝は東西道路南側側溝の可能性が高いものと思われる。そして、この東西溝の初現が13世紀第２四半期頃まで遡ることから、この東西道路の初現も13世紀第２四半期頃である可能性を指摘できよう。

東側隣地では調査区南側で南北道路も検出されている。報告書によれば南北道路側溝底面で、下層の道路と思われる泥岩地形層が確認されている。本調査地点においても、建物の軸方位や位置に大きな変化が認められず、その多くが調査区外南側と東側に広がると推測される配置となっている。このことから、東側隣地で検出された南北道路も中世３期以降踏襲されており、この南北道路を基準に建物が建てられていた可能性も考えられよう。

最後に本調査地点の場の性格であるが、東側隣地の南北道路が踏襲されているならば、本調査地点の南北溝や建物のありかたから見て、非常に狭い地割であることが考えられる。また、Ⅲｂ面の東西溝からは下駄の未成品が出土しており、Ⅰａ面からは鋳造関連遺物が多く出土している。Ⅲｂ面の下駄未成品は溝からの出土であり、本調査地点で下駄製作が行われていた、とは言いにくいが、本調査地点周辺に下駄を製作するような場が存在していたとは言えよう。これらのことから、武家屋敷などではなく、町人（まちびと）の住む狭い居住空間、あるいは工房空間である可能性が考えられよう。特にⅠａ面に関しては鋳造関連の職能民が使用していた空間の可能性を指摘できる。

参考・引用文献

熊谷満・降矢順子2011『今小路西遺跡発掘調査報告書－鎌倉市由比ガ浜一丁目151番１地点－』鎌倉遺跡調査会

（沖元）

1-1 塔ノ辻から今小路を望む

1-2 塔ノ辻から大町大路西半を望む

1-3 大町大路西端部を東から望む

1-4 大町大路を西端近くから望む

図版２

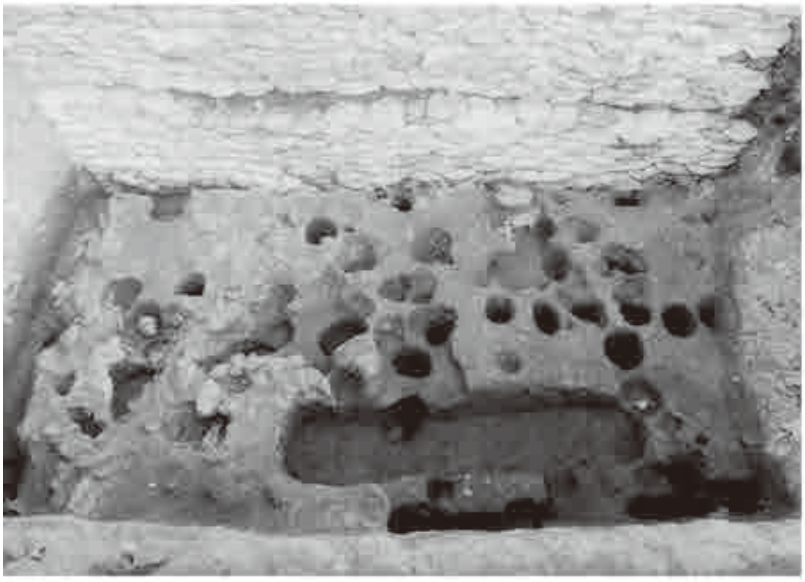
2-1
Ⅰa面1区全景（南から）

2-2
Ⅰa面1区全景（西から）

2-3
Ⅰa面上層1区溝1

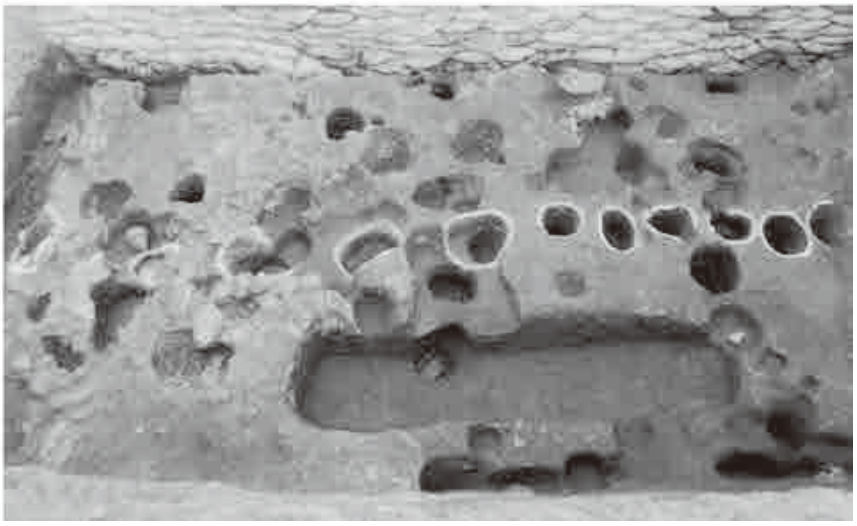
3-1
Ⅰa面2区全景（南から）

３－３　Ⅰa面２区柱穴列１（南から）



３－２　Ⅰa面２区全景（西から）

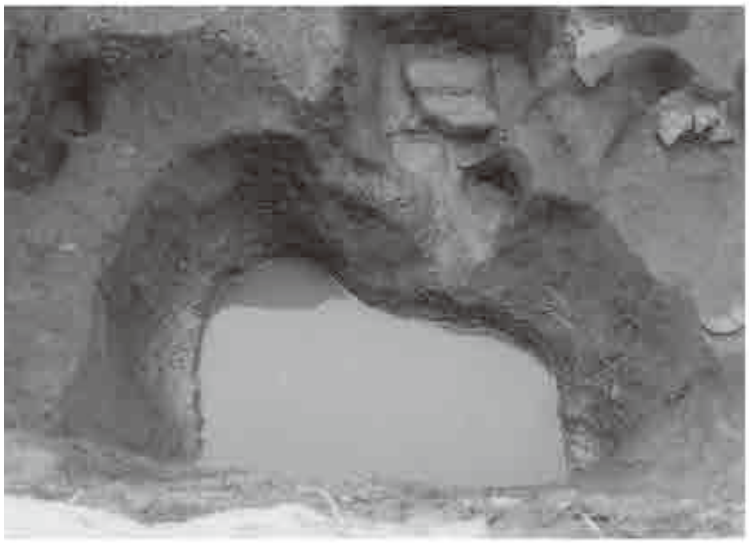
3-4
Ⅰa面2区柱穴列1（西から）



図版４

4-1
Ⅰa面2区土坑7（西から）

4-2
Ⅰa面2区小穴152・153



４－３　Ⅰa面１区土坑１（東から）

４－４　土坑１青白磁梅瓶（図13－14）
出土状況（北から）

5-1

Ⅰb面1区全景（南から）

５－２　Ⅰb面１区全景（西から）

５－３　Ⅰb面２区全景（南から）

５－４　Ⅰb面２区全景（西から）

図版６

６－１　Ⅰｂ面１区溝２（東から）

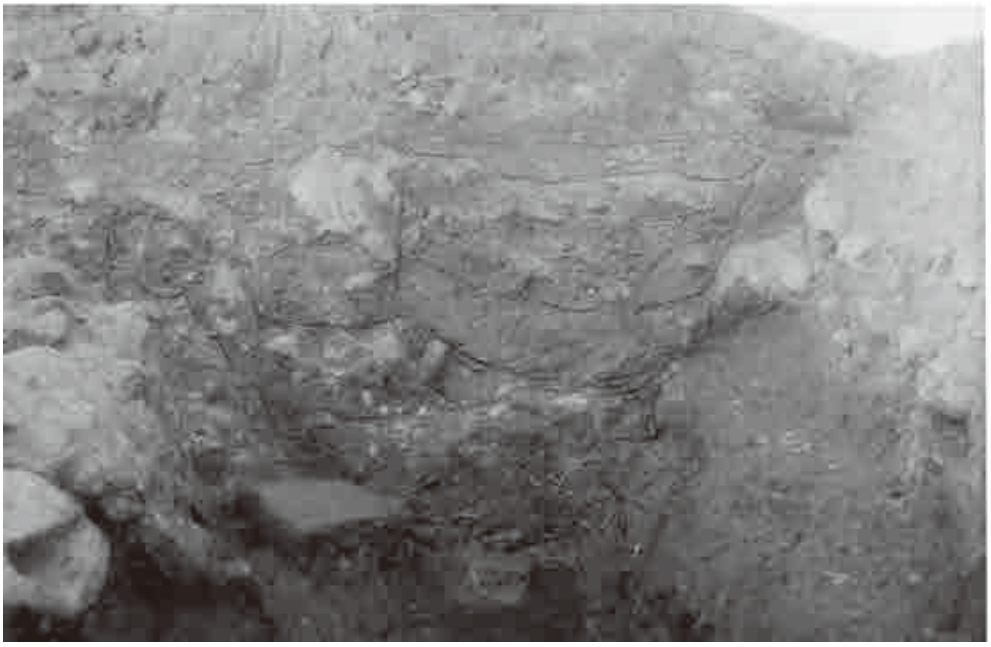
６－２　Ⅰｂ面１区土師器片地形（南から）

６－３　Ⅰｂ面１区土坑５・６（西から）

６－４　Ⅰｂ面１区土坑３（西から）

７－１　Ｉｂ面２区溝２（西から）

７－２　Ｉｂ面２区溝１ｂ（西から）



7-3

Ｉｂ面２区溝２土層断面（東から）

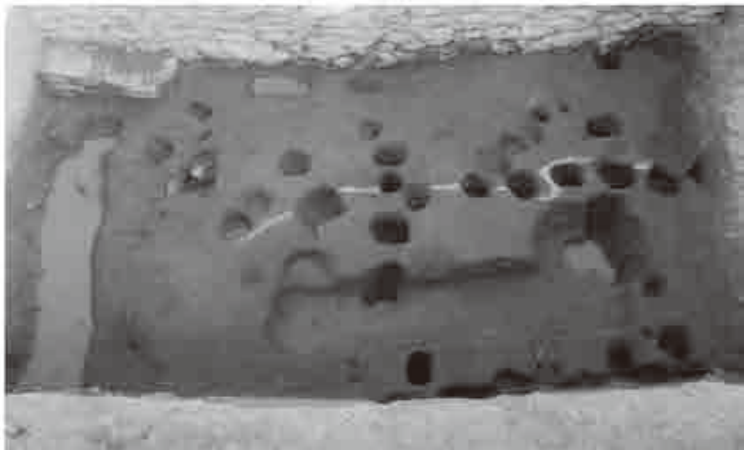
図版８

８－１　Ⅱ面１区全景（南から）

８－２　Ⅱ面１区全景（西から）

８－３　Ⅱ面２区全景（南から）

８－４　Ⅱ面２区全景（西から）



８－５　Ⅱ面２区（溝掘削後・西から）

９－１　Ⅱ面１区溝３（東から）

９－２　Ⅱ面２区溝３（西から）

９－３　Ⅱ面２区溝３貝殻集中出土の状況（北から）

図版10

10-1 Ⅲa面2区全景（南から）

10－2　Ⅲa面2区全景（西から）

10-3 Ⅲa面2区小穴172・175（東から）

10-4 調査風景

11-1
Ⅲb面1区全景（南から）

11－2　Ⅲb面1区全景（西から）

11－3　Ⅲb面2区全景（南から）

11－4　Ⅲb面2区全景（西から）

図版12

12-1 Ⅲb面1区溝5側板出土状況（南から）

12-2 Ⅲb面2区溝4（西から）

12－3　Ⅲb面2区小穴177

12－4　Ⅲb面2区下駄出土状況

12－5　Ⅲb面2区小穴12周辺出土状況

13-1
Ⅲc面2区全景（南から）

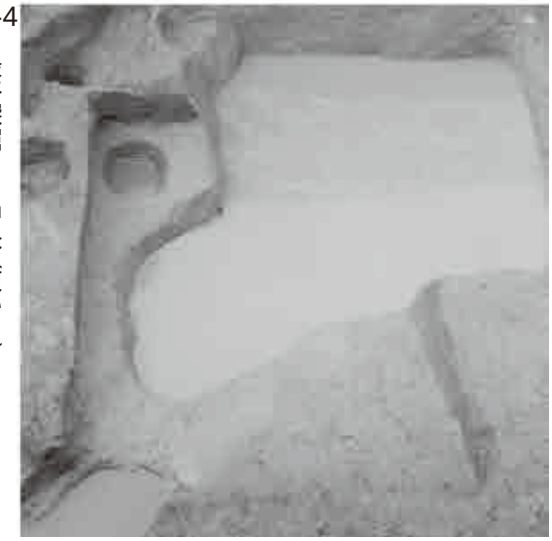
13-2
Ⅲc面2区全景（西から）

図版14

14－1　Ⅳ面２区全景（南から）

14－2　Ⅳ面２区全景（西から）

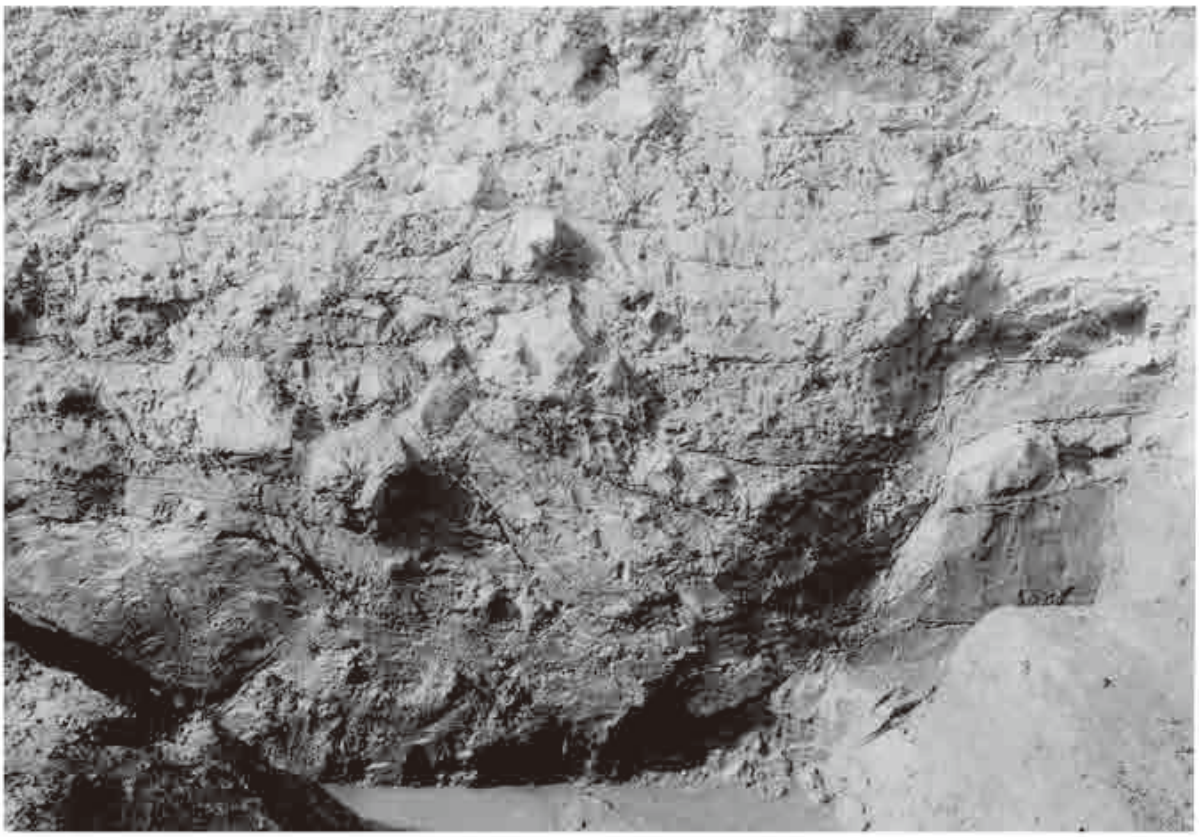
14-3　最終深掘り・南壁際（東から）



14-4　最終深掘り・中央（東から）

14-5　最終深掘り・西壁際（南から）

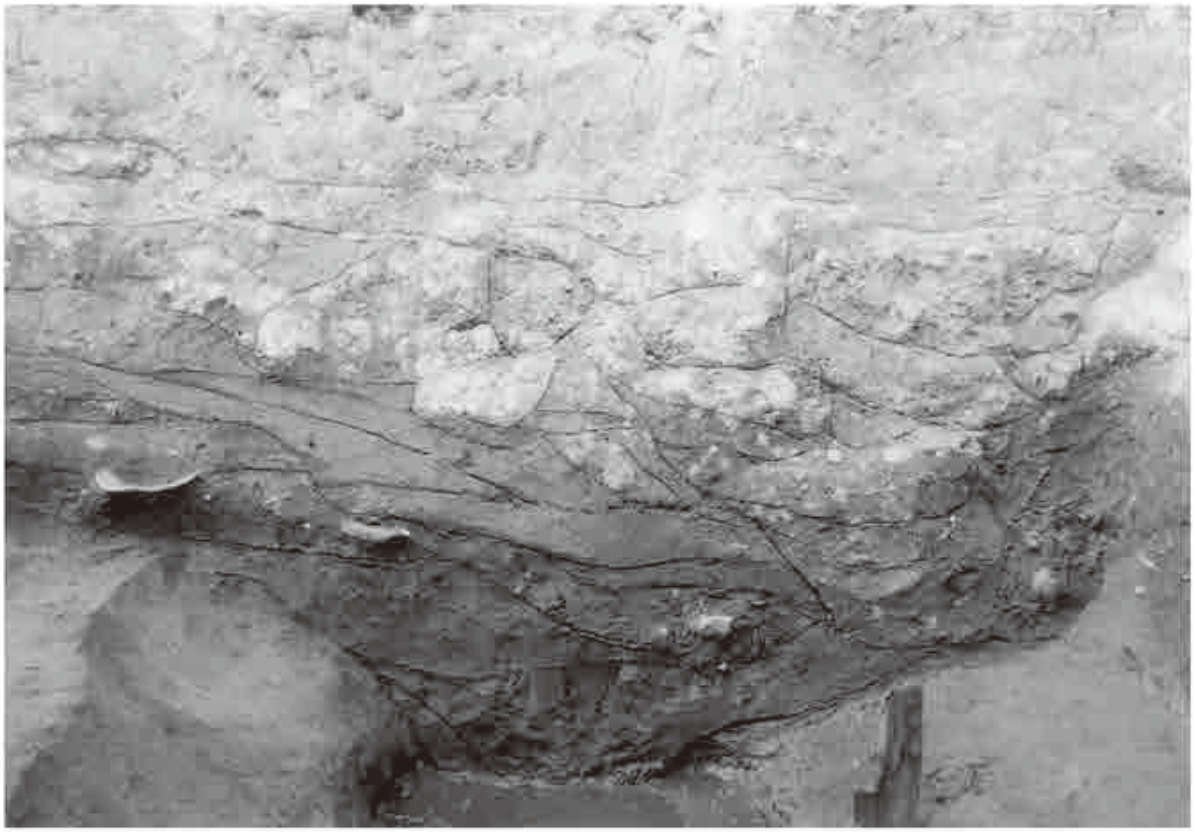
15－1　1区西壁土層断面



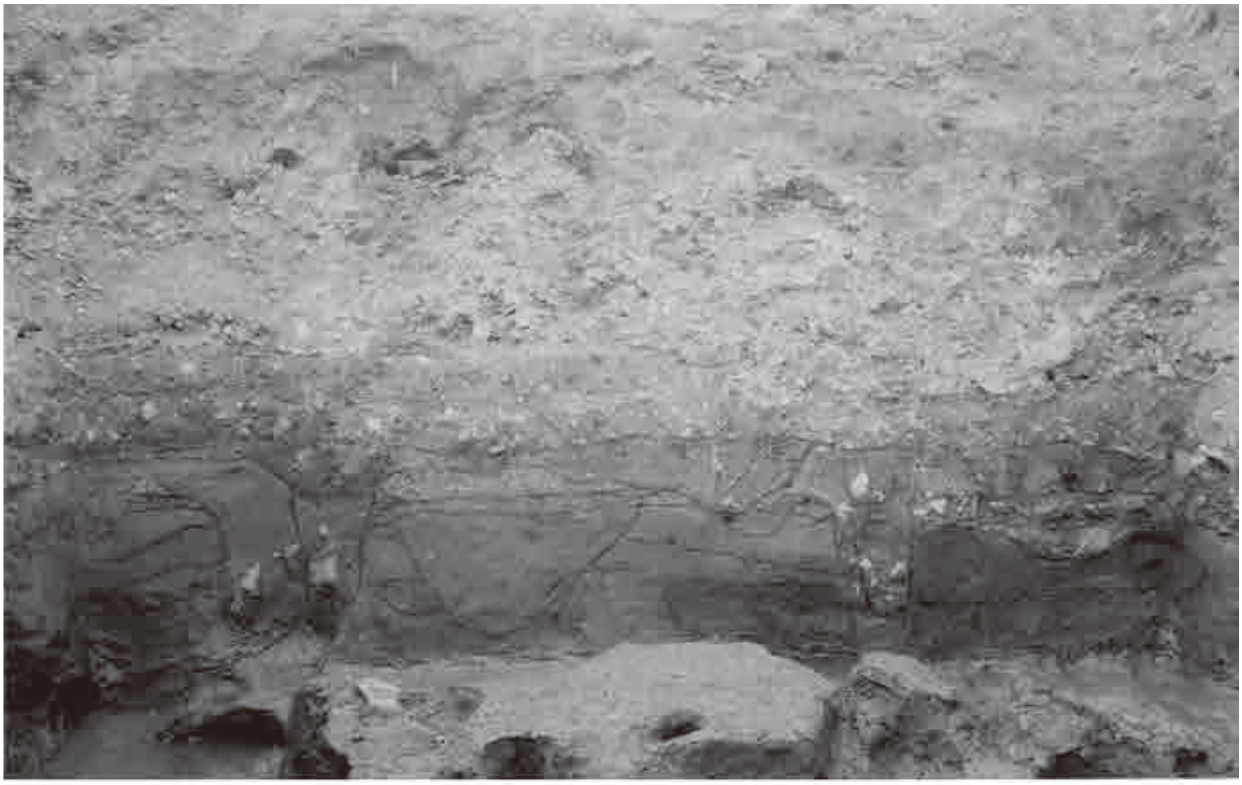
15－2　1区西壁溝土層断面

図版16

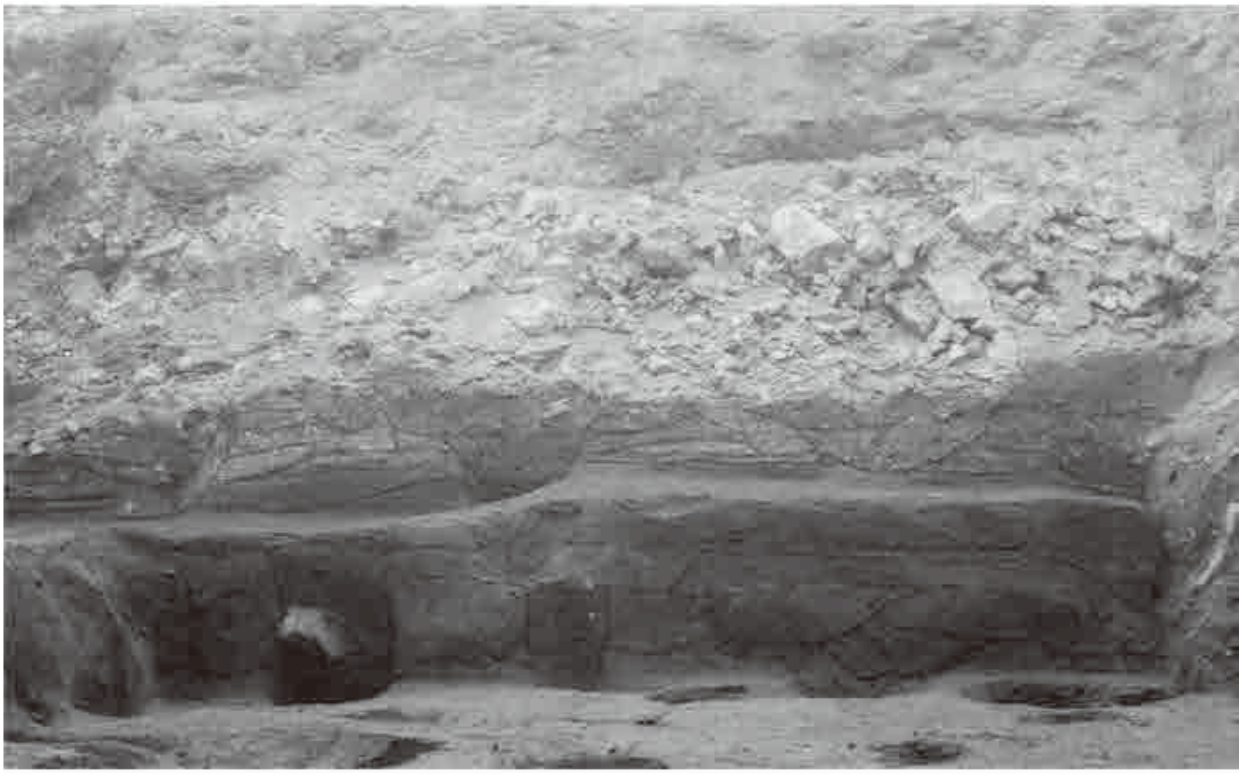
16－1　２区西壁土層断面



16－2　２区西壁溝土層断面

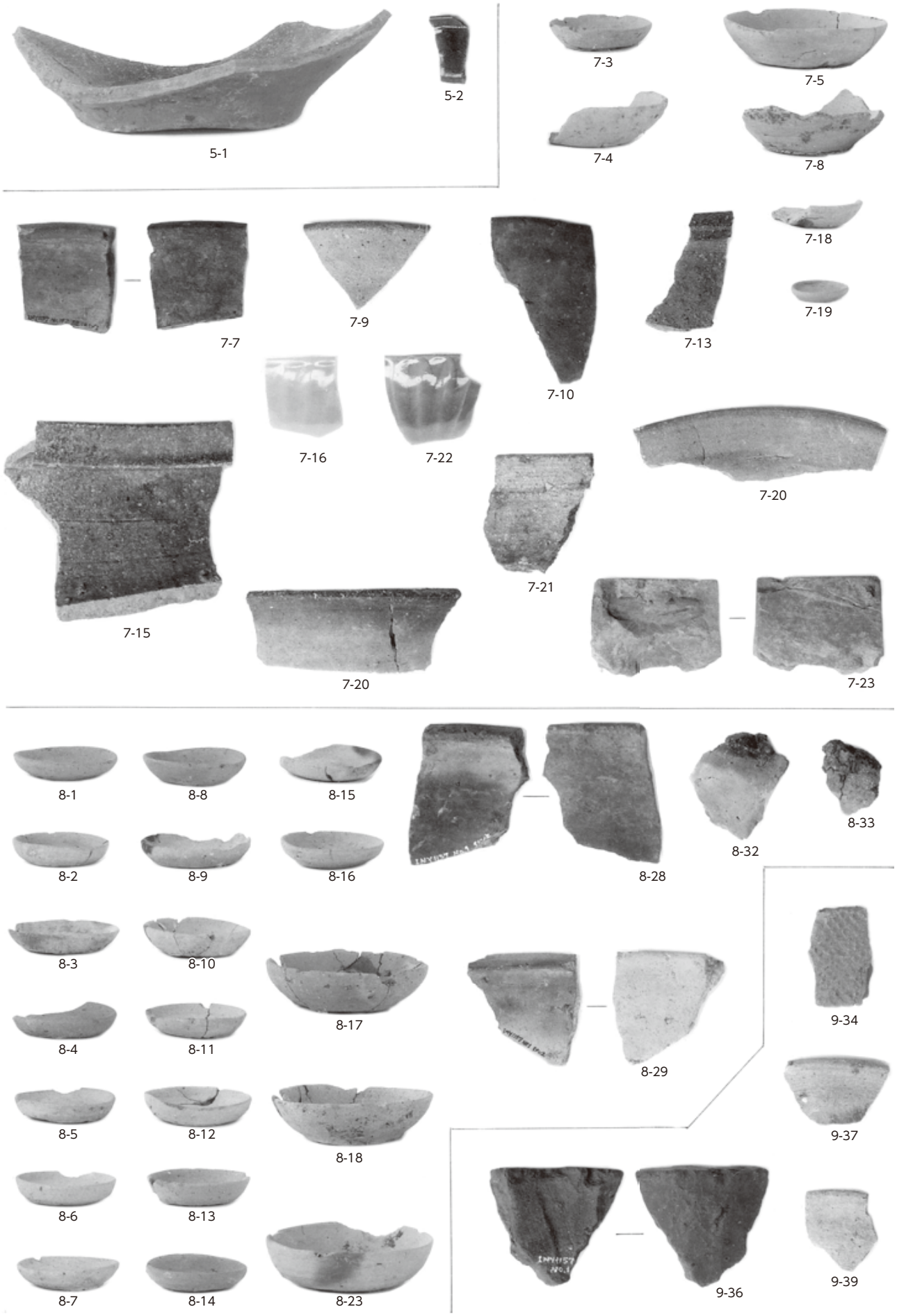


17－1　1区南壁土層断面

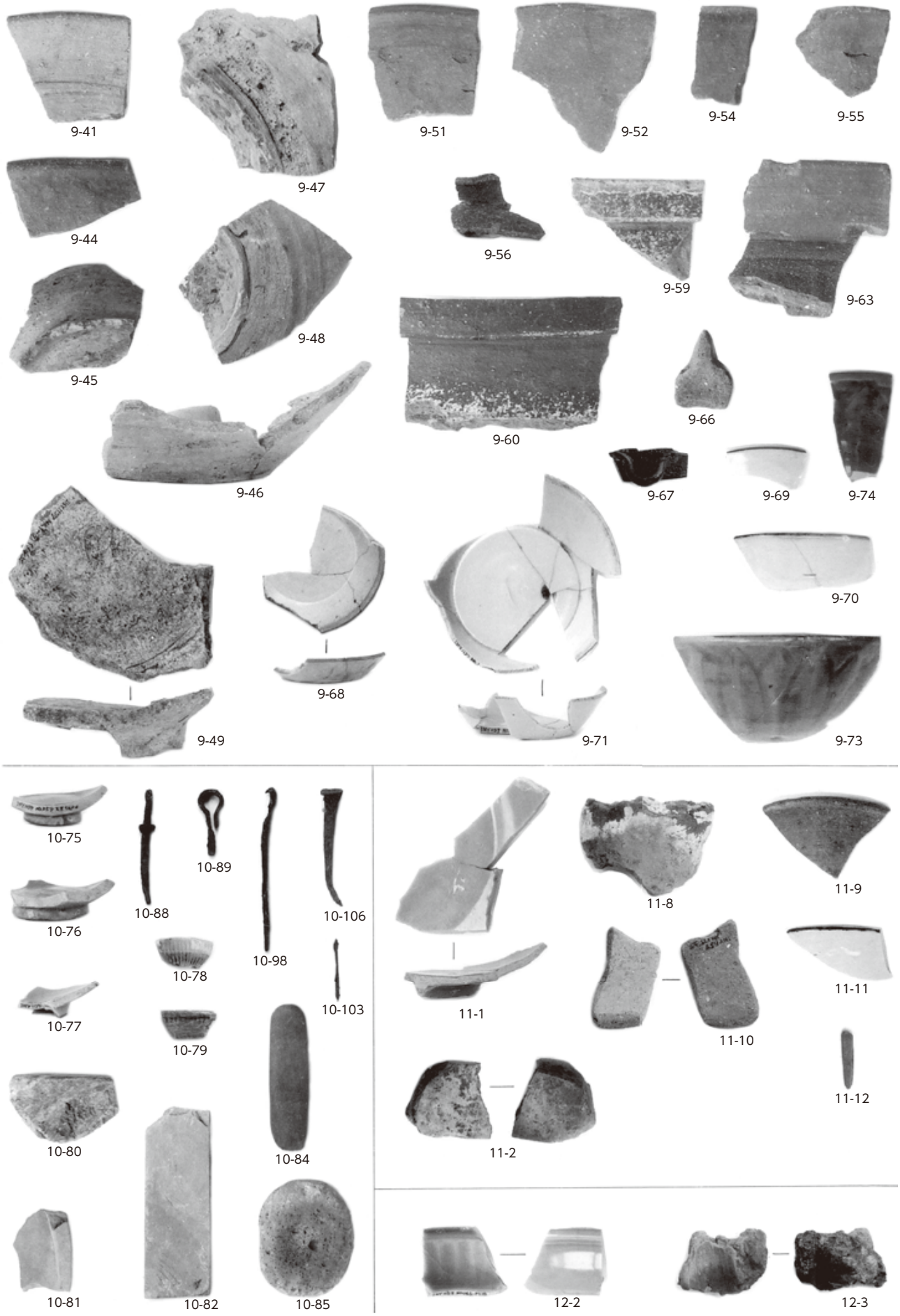


17－2　2区南壁土層断面

図版18

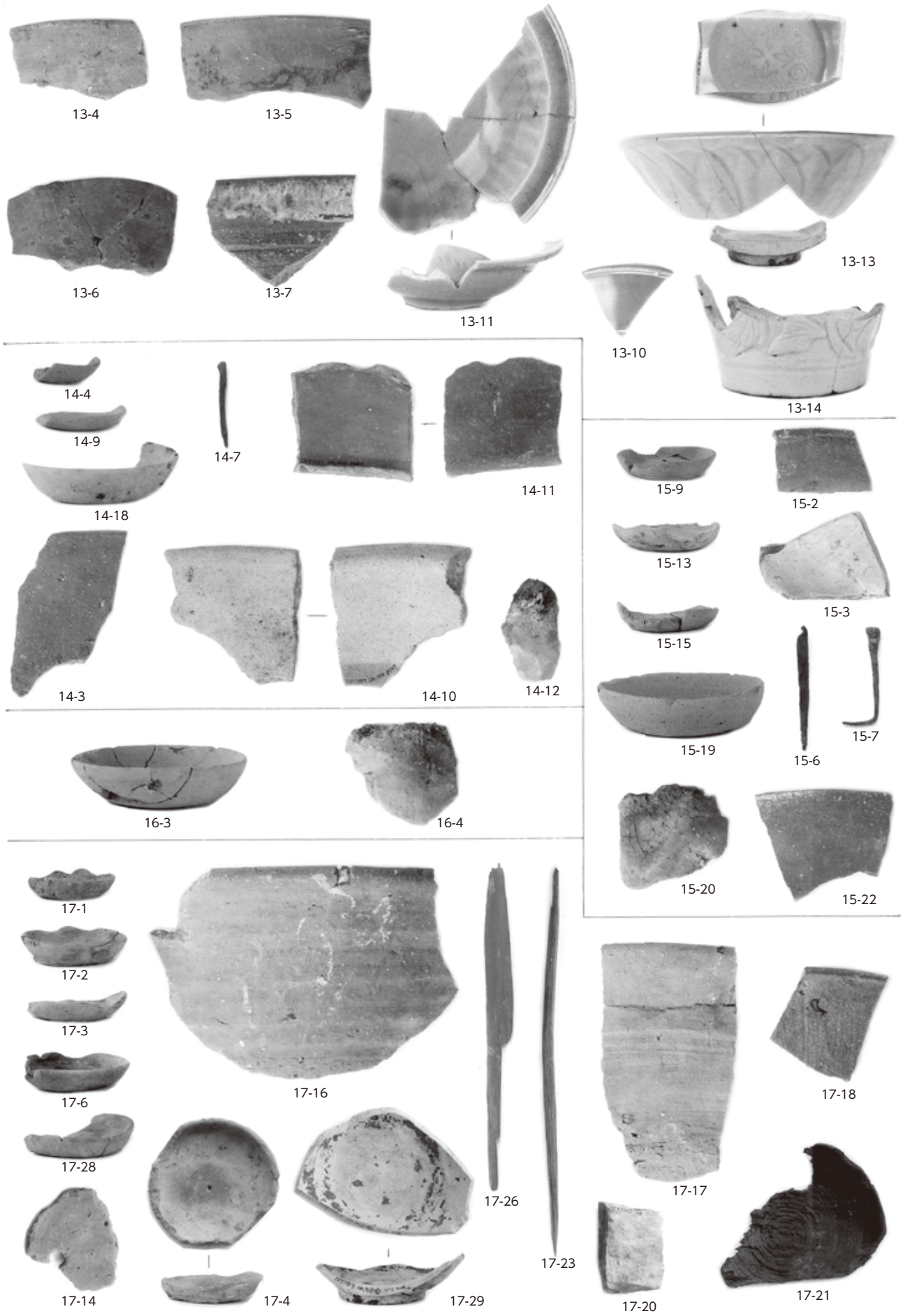

5-1
5-2
7-3
7-5
7-4
7-8
7-7
7-9
7-10
7-13
7-18
7-19
7-16
7-22
7-20
7-15
7-21
7-20
7-23
8-1
8-8
8-15
8-28
8-32
8-33
8-2
8-9
8-16
8-3
8-10
8-17
8-29
9-34
8-4
8-11
9-37
8-5
8-12
8-18
8-6
8-13
9-36
9-39
8-7
8-14
8-23

出土遺物1

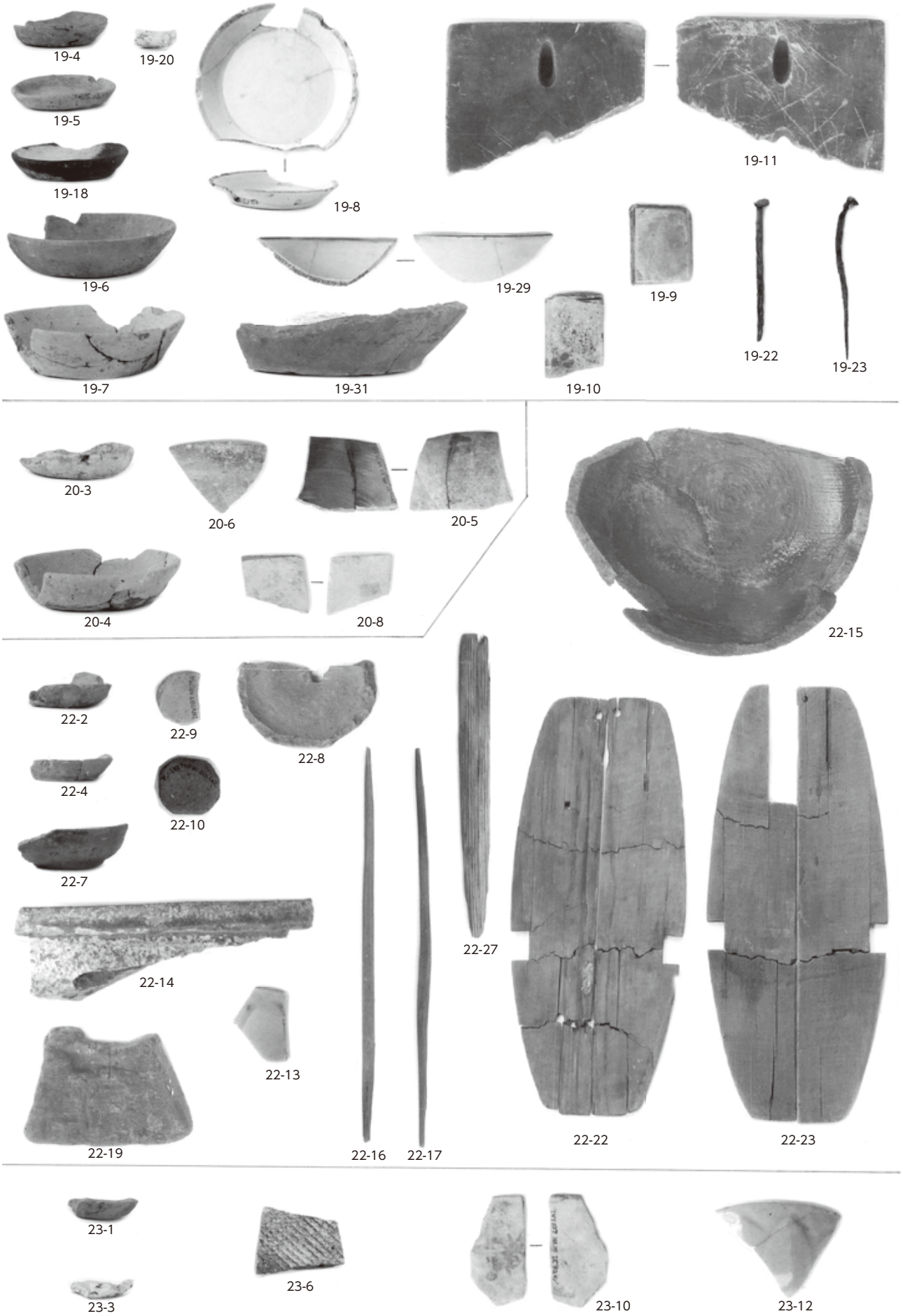

9-41
9-47
9-51
9-52
9-54
9-55
9-44
9-56
9-59
9-63
9-48
9-45
9-60
9-66
9-46
9-67
9-69
9-74
9-70
9-68
9-49
9-71
9-73
10-75
10-89
10-88
10-106
10-76
10-98
10-78
10-103
10-77
10-79
10-80
10-84
10-81
10-82
10-85
11-8
11-9
11-1
11-11
11-10
11-12
11-2
12-2
12-3

出土遺物２

図版20

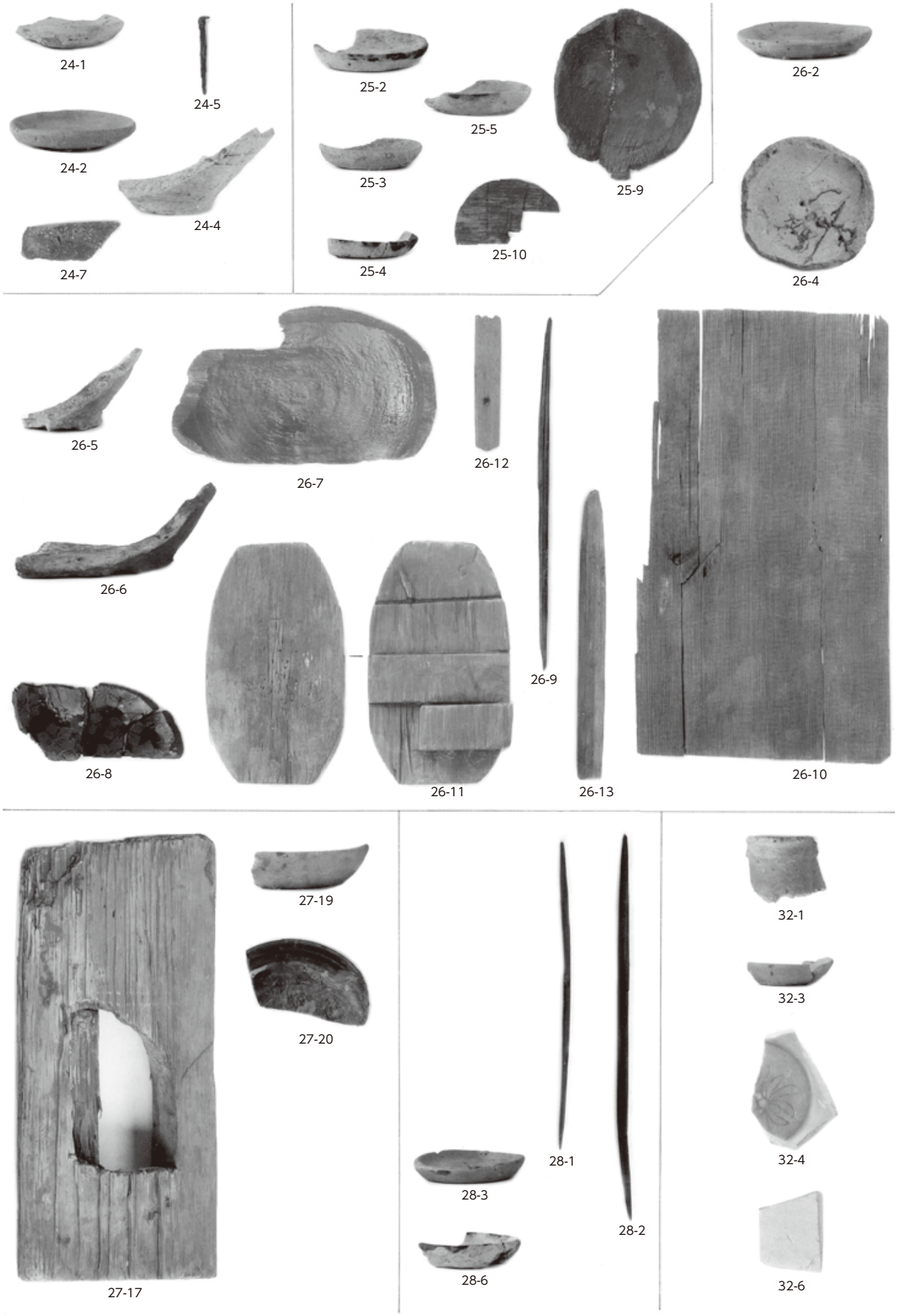

13-4
13-5
13-6
13-7
13-11
13-10
13-13
13-14
14-4
14-9
14-18
14-7
14-11
14-3
14-10
14-12
15-9
15-2
15-13
15-3
15-15
15-19
15-6
15-7
15-20
15-22
16-3
16-4
17-1
17-2
17-3
17-6
17-28
17-14
17-16
17-4
17-29
17-26
17-23
17-17
17-18
17-20
17-21

出土遺物3


19-4
19-20
19-5
19-18
19-8
19-11
19-6
19-29
19-9
19-22
19-23
19-7
19-31
19-10
20-3
20-6
20-5
20-4
20-8
22-15
22-2
22-9
22-8
22-4
22-10
22-7
22-27
22-14
22-13
22-19
22-16
22-17
22-22
22-23
23-1
23-3
23-6
23-10
23-12

出土遺物4

図版22


24-1
24-5
24-2
24-4
24-7
25-2
25-5
25-3
25-9
25-10
25-4
26-2
26-4
26-5
26-7
26-12
26-6
26-9
26-8
26-11
26-13
26-10
27-19
27-20
27-17
28-1
28-3
28-2
28-6
32-1
32-3
32-4
32-6

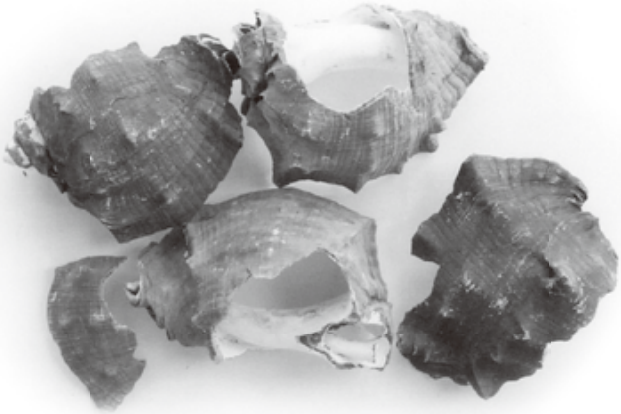
出土遺物5

溝4出土 チョウセンハマグリ

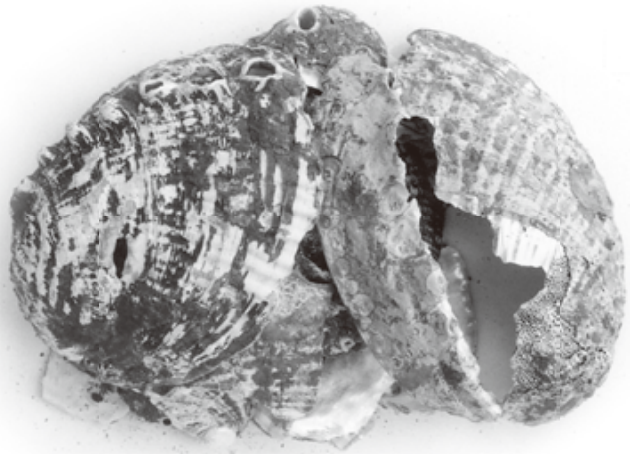
溝4出土 ハマグリ

溝4出土 タンペイキサゴ

出土遺物6



溝4出土 アカニシ



溝4出土 マダカアワビ

Ⅲa面出土 鉱滓

出土遺物7